

岐阜市地域福祉計画策定基礎調査
報告書

平成 31 年 1 月
岐阜市

目次

I 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
5. 日常生活圏域一覧	2
II 調査結果	3
1. 市民アンケート	3
1) あなたご自身について	3
2) 地域福祉全体について	16
3) 地域のつながりについて	19
4) 身近な困りごとについて	35
5) 児童福祉について	51
6) 高齢者福祉について	56
7) 障がい福祉について	61
2. 事業所アンケート	66
1) 事業所について	66
2) 地域福祉全体について	68
3) 事業所の活動について	71
4) 児童福祉について	73
5) 高齢者福祉について	76
6) 障がい福祉について	79
7) 行政との協働について	83
3. 自由意見	85
1) 市民アンケート	85
2) 事業所アンケート	87
4. アンケートからみえてきた課題	88
III 団体ヒアリング	91
1. 概要	91
1) 調査目的	91
2) 調査団体等及びヒアリング日	91
2. 団体ヒアリングからみえてきた課題（まとめ）	92
3. 団体ヒアリングの主な意見	94

IV ワークショップ	101
1. 概要	101
1) 目的.....	101
2) 実施内容.....	101
2. ワークショップからみえてきた課題とその解決方法（まとめ）	102
3. 各分野からみた主な意見	103
4. ワークショップにおける各グループの記録.....	105
V 課題の総括	126
VI 資料	127
1. 調査票.....	127
1) 市民アンケート	127
2) 事業所アンケート	129
2. ワークショップに関する新聞記事	132

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、福祉に対する意識や地域活動への参加状況等の意見・要望等を把握し、本市の次期地域福祉計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査設計

	市民アンケート	事業所アンケート
調査地域	岐阜市全域	
調査対象	20歳以上の市民	岐阜市において福祉サービスを提供している事業所及びNPO
対象者数	2,000	400
抽出方法	無作為抽出	
調査方法	郵送配付・回収	
調査期間	H30.7.26～8.9	

3. 回収結果

	市民アンケート	事業所アンケート
配付数	2,000	400
有効回収数	835	232
有効回収率	41.8%	58.0%

※有効回収数は、回収されたが記入のない調査票を除いて集計した数。

4. 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのためパーセントの合計が100%にならないこともあります。
- (2) 回答率(%)は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3) 基数となるべき実数(n)は、件数または調査数として掲載しました。比率は、この件数を100%として算出しています。
- (4) 複数回答の場合、回答の合計比率が100%を超える場合があります。
- (5) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に質問を簡略化して掲載している場合があります。
- (6) グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略しています。
- (7) 【問〇-〇】はクロス集計結果となります。

5. 日常生活圏域一覧

本計画において、居住地区は 13 の日常生活圏域に分けて集計しています。日常生活圏域とは、医療や介護等を含めた福祉サービス、生活支援サービスを日常生活の場で適切に提供できるような地域のエリアのことです。

日常生活圏域	地区名
中央北	金華地区・京町地区・明德地区・本郷地区
中央南	徹明地区・梅林地区・白山地区・華陽地区・木之本地区
南部	加納東地区・加納西地区・茜部地区・厚見地区
境川	鶉地区・日置江地区・柳津地区
市橋	本荘地区・三里地区・市橋地区・鏡島地区
日光	島地区・早田地区・城西地区・則武地区
西部	木田地区・七郷地区・合渡地区
岐北	黒野地区・方泉地区・西郷地区・網代地区
北部	鷲山地区・常磐地区・岩野田地区・岩野田北地区
北東部	藍川地区・三輪南地区・三輪北地区
東部	岩地区・芥見地区・芥見東地区・芥見南地区
長良	長良地区・長良西地区・長良東地区
長森	日野地区・長森南地区・長森北地区・長森西地区・長森東地区

Ⅱ 調査結果

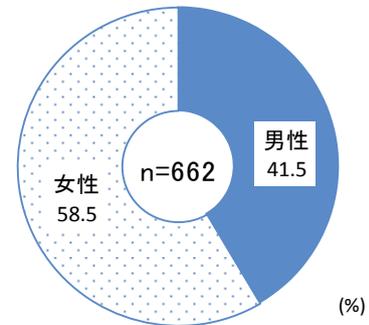
1. 市民アンケート

1) あなたご自身について

問1-1 回答者の性別について。(〇は1つ)

➤ 「女性」が約6割

回答者の性別は「男性」が41.5%、「女性」が58.5%を占めており、「女性」の回答率が高いことがうかがえます。



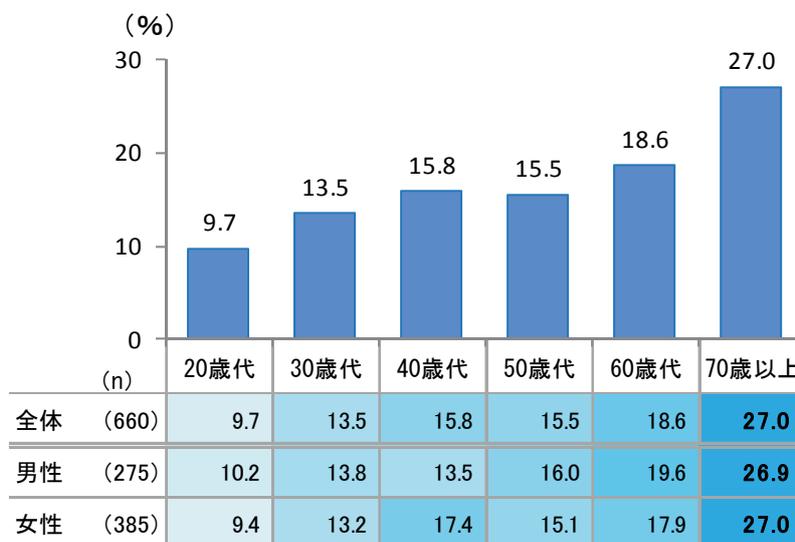
図表 1 回答者の性別
(無回答を除く)

問1-2 回答者の年齢について。(〇は1つ)

➤ 回答者の年齢は「70歳以上」が2割以上

回答者の年齢は、「70歳以上」が27.0%と最も高くなっています。次いで、「60歳代」(18.6%)、「40歳代」(15.8%)となっています。一方で、「20歳代」は9.7%となっています。

男女別にみると、男性では、「70歳以上」が26.9%と最も高くなっており、次いで、「60歳代」(19.6%)、「50歳代」(16.0%)となっています。女性では、「70歳以上」が27.0%と最も高くなっており、次いで、「60歳代」(17.9%)、「40歳代」(17.4%)となっています。



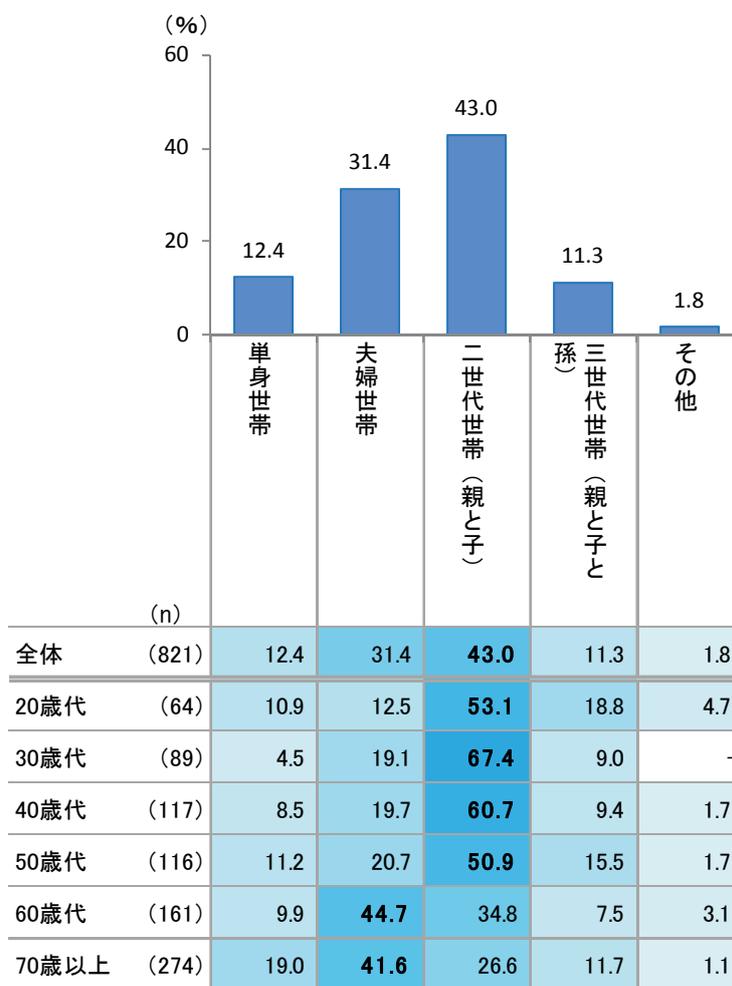
図表 2 回答者の年齢
(無回答を除く)

問1-3 回答者の家族構成について。(〇は1つ)

➤ 家族構成は「二世世代世帯（親と子）」が4割以上

家族構成は、「二世世代世帯（親と子）」が43.0%と最も高くなっています。次いで、「夫婦世帯」（31.4%）、「単身世帯」（12.4%）となっています。

年代別にみると、20歳代から50歳代まで、「二世世代世帯（親と子）」が5割以上と最も高くなっています。60歳代、70歳以上では、「夫婦世帯」が4割以上と最も高くなっています。

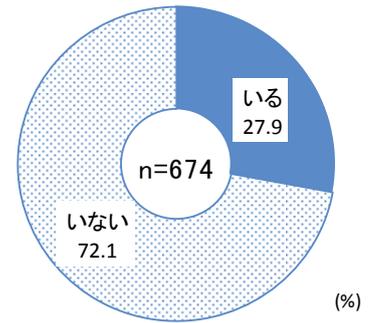


図表3 回答者の家族構成
(無回答を除く)

問1-3-1 高校生以下の子どもの有無について。(〇は1つ)

➤ 高校生以下の子どもが「いる」世帯が約3割

高校生以下の子どもが「いる」世帯は27.9%と約3割に留まっています。

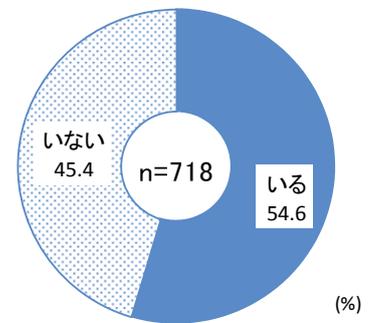


図表 4 高校生以下の子どもの有無 (無回答を除く)

問1-3-2 65歳以上の人の有無について。(〇は1つ)

➤ 65歳以上の人が「いる」世帯は5割以上

65歳以上の人が「いる」世帯が54.6%となっており、5割を超えています。

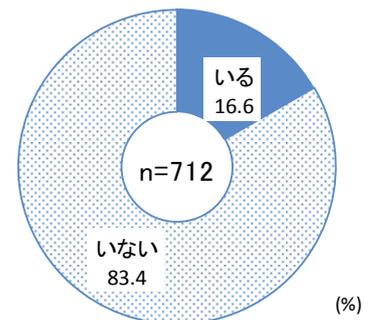


図表 5 65歳以上の人の有無 (無回答を除く)

問1-3-3 障害者手帳(身体・知的・精神)の所持者の有無について。(〇は1つ)

➤ 障害者手帳の所持者が「いる」世帯が1割以上

障害者手帳(身体・知的・精神)の所持者が「いる」世帯は16.6%となっており、1割以上の世帯で障害者手帳の所持者がいます。

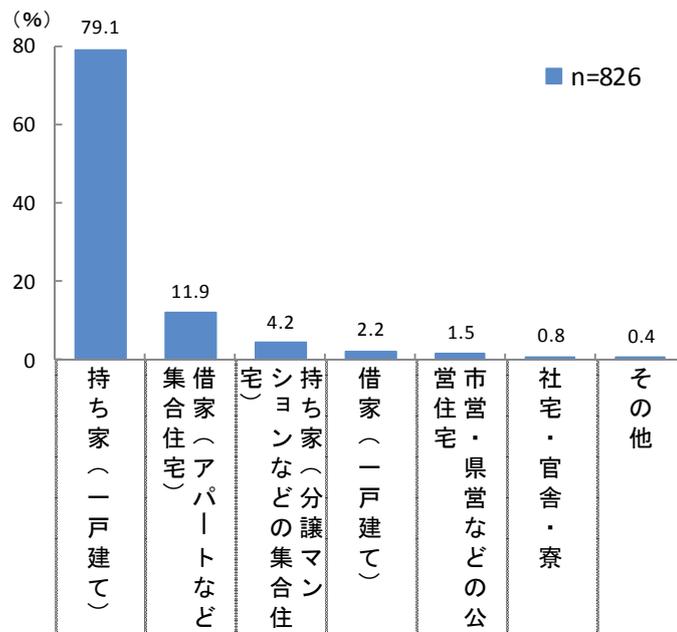


図表 6 障害者手帳の所持者の有無 (無回答を除く)

問1-4 住まいについて。(〇は1つ)

➤ 住まいは「持ち家（一戸建て）」が約8割

住まいについては、「持ち家（一戸建て）」が 79.1%と最も高くなっています。次いで、「借家（アパートなど集合住宅）」（11.9%）、「持ち家（分譲マンションなどの集合住宅）」（4.2%）となっています。

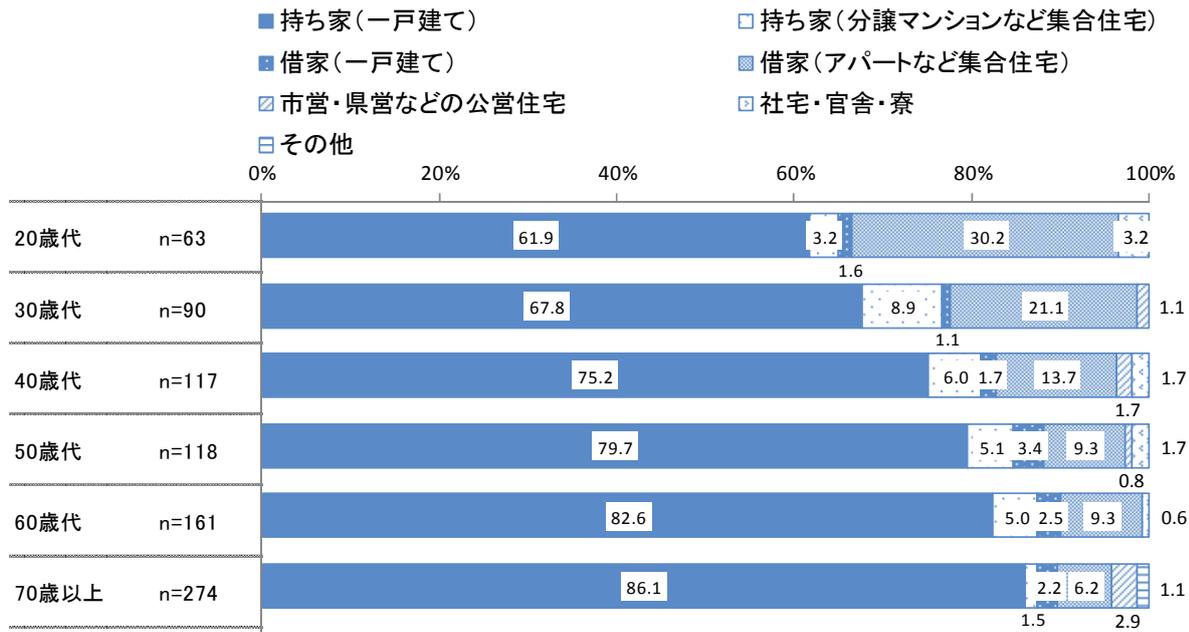


図表7 住まいの形態
(無回答を除く)

【問1-4 年代別】

➤ 60歳代、70歳以上の「持ち家（一戸建て）」が8割以上

年代別に住まいの形態をみると、「持ち家（一戸建て）」がすべての年代で最も高くなっています。年代が高くなるにつれて、「持ち家（一戸建て）」が上昇しており、70歳以上では86.1%と最も高くなっています。一方で、「借家（アパートなど集合住宅）」は20歳代が30.2%と最も高くなっています。「借家（アパートなど集合住宅）」は年代が高くなるにつれて、低下しています。

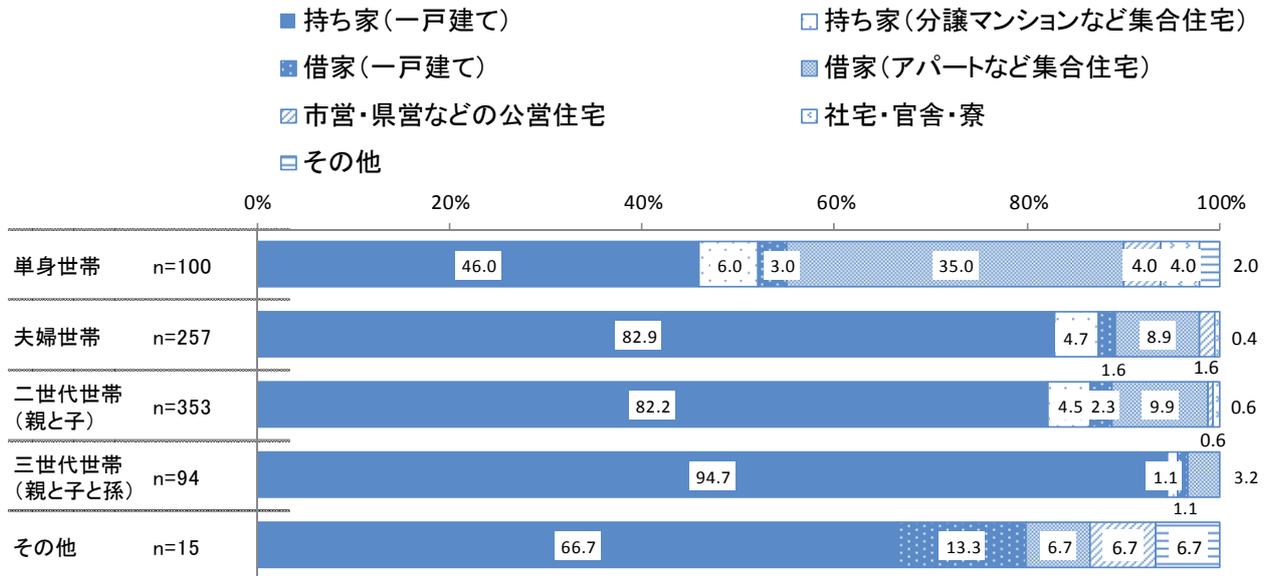


図表8 年代別にみた住まいの形態について
(無回答を除く)

【問1-4 家族構成別】

➤ 三世帯世帯（親と子と孫）の「持ち家（一戸建て）」が9割以上

家族構成別に住まいの形態をみると、「三世帯世帯（親と子と孫）」で「持ち家（一戸建て）」が94.7%と最も高くなっています。「借家（アパートなど集合住宅）」は、「単身世帯」が35.0%と最も高くなっています。

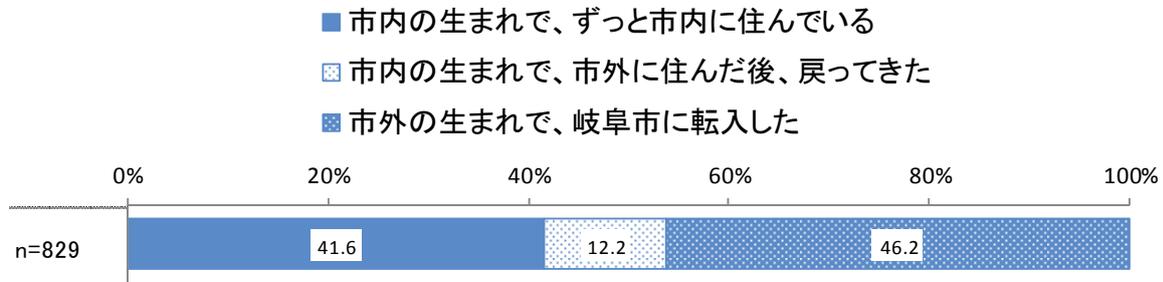


図表 9 家族構成別にみた住まいの形態について
(無回答を除く)

問1-5 居住歴について。(〇は1つ)

➤ 「市外の生まれで、岐阜市に転入した」が約5割

居住歴については、「市外の生まれで、岐阜市に転入した」が46.2%と最も高くなっています。次いで、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」(41.6%)となっています。

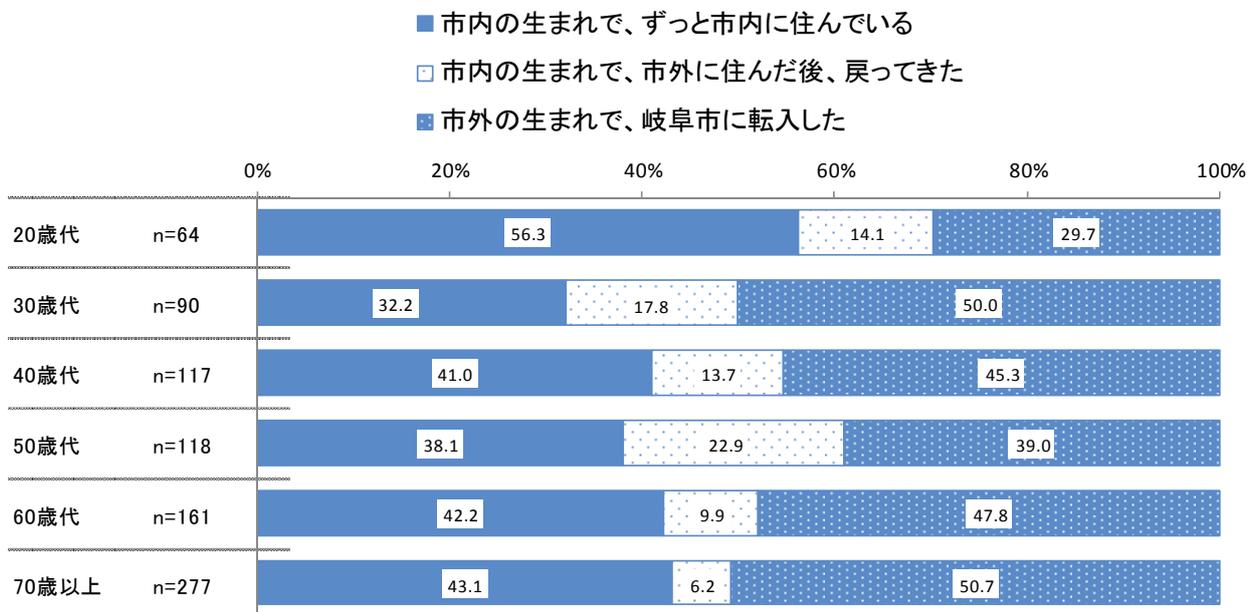


図表 10 回答者の居住歴
(無回答を除く)

【問1-5 年代別】

➤ 20歳代の「市内の生まれでずっと市内に住んでいる」が5割以上

居住歴を年代別にみると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」は20歳代の56.3%が最も高くなっています。一方で、「市外の生まれで岐阜市に転入した」は70歳以上の人で50.7%と最も高くなっています。

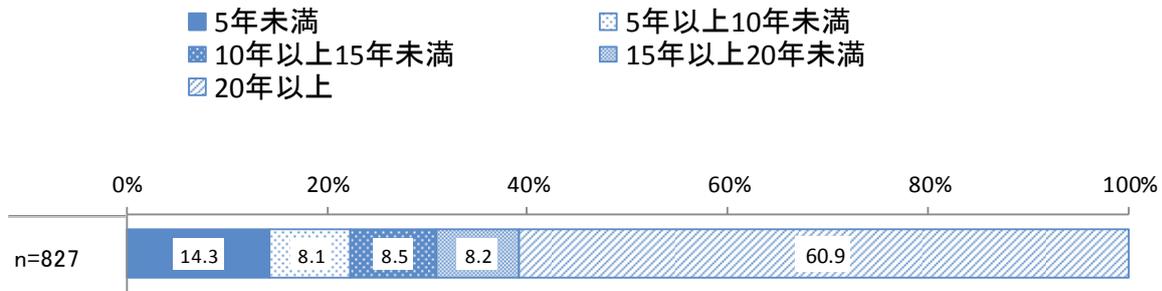


図表 11 年代別にみた居住歴について
(無回答を除く)

問1-6 居住年数について。(〇は1つ)

➤ 居住年数は「20年以上」が6割以上

居住年数は、「20年以上」が60.9%と最も高くなっています。次いで、「5年未満」(14.3%)、「10年以上15年未満」(8.5%)となっています。

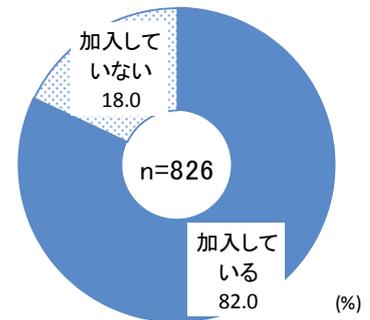


図表 12 回答者の居住年数 (無回答を除く)

問1-7 自治会への加入の有無について。(〇は1つ)

➤ 自治会への加入は「加入している」が8割以上

自治会への加入については、「加入している」が82.0%となっており、8割以上の世帯が自治会へ加入していると回答しています。一方で、「加入していない」は18.0%となっています。



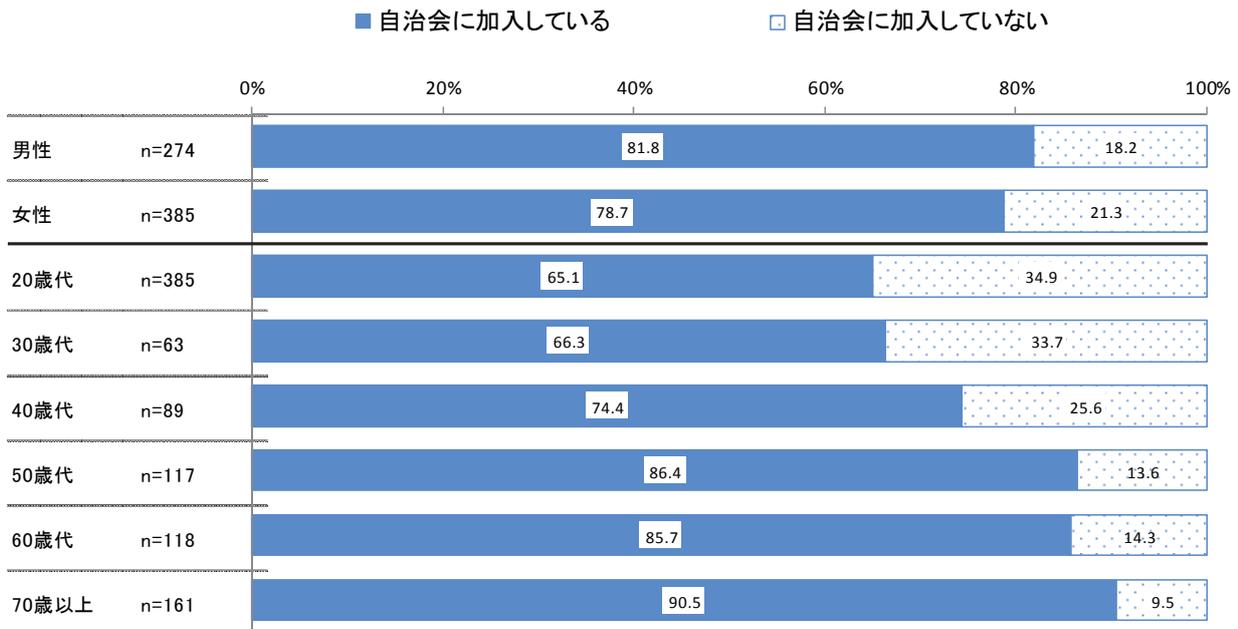
図表 13 自治会への加入の有無 (無回答を除く)

【問1-7 男女・年代別】

➤ 「加入している」は男性で8割以上、70歳以上で9割以上

男女別に自治会への加入の有無をみると、「自治会に加入している」は男性が81.8%となっており、女性（78.7%）を上回っています。

年代別にみると、「自治会に加入している」は、70歳以上が90.5%と最も高くなっています。一方で、「自治会に加入していない」は、20歳代が34.9%と最も高くなっています。

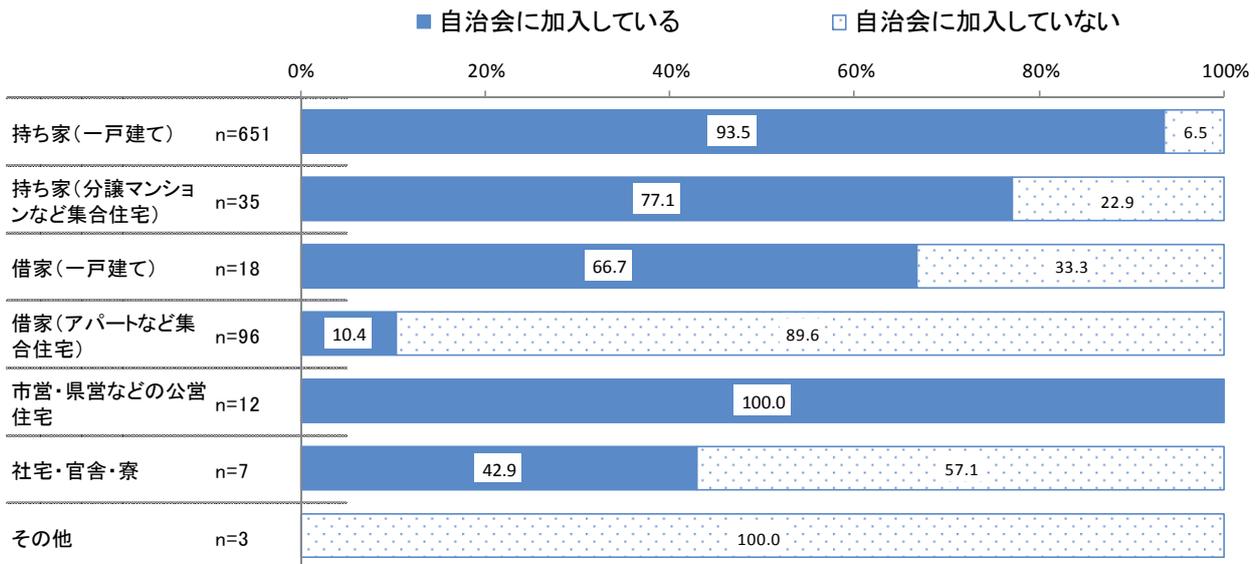


図表 14 男女・年代別にみた自治会への加入の有無について
(無回答を除く)

【問1-7 住まいの形態別】

- 市営・県営などの公営住宅ではすべての人が「加入している」と回答

住まいの形態別に自治会への加入の有無をみると、「市営・県営などの公営住宅」で「自治会に加入している」が100.0%となっています。次いで、「持ち家（一戸建て）」が、9割以上と高くなっています。一方で、「借家（アパートなど集合住宅）」では、「自治会に加入している」が10.4%と最も低くなっています。

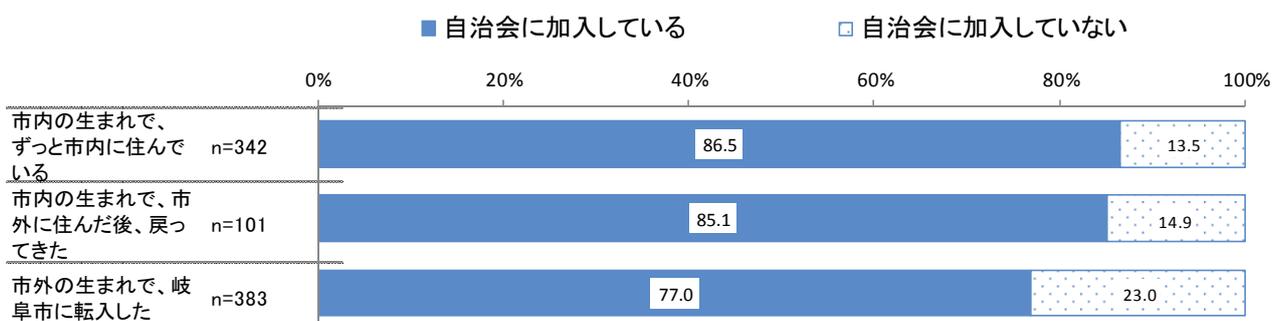


図表 15 住まいの形態別にみた自治会への加入の有無について
(無回答を除く)

【問1-7 居住歴別】

- 「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」「市内の生まれで市外に住んだ後、戻ってきた」では「加入している」が8割以上

居住歴別に自治会への加入の有無をみると、「自治会に加入している」では、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」で86.5%と最も高くなっています。次いで、「市内の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた」が85.1%となっています。

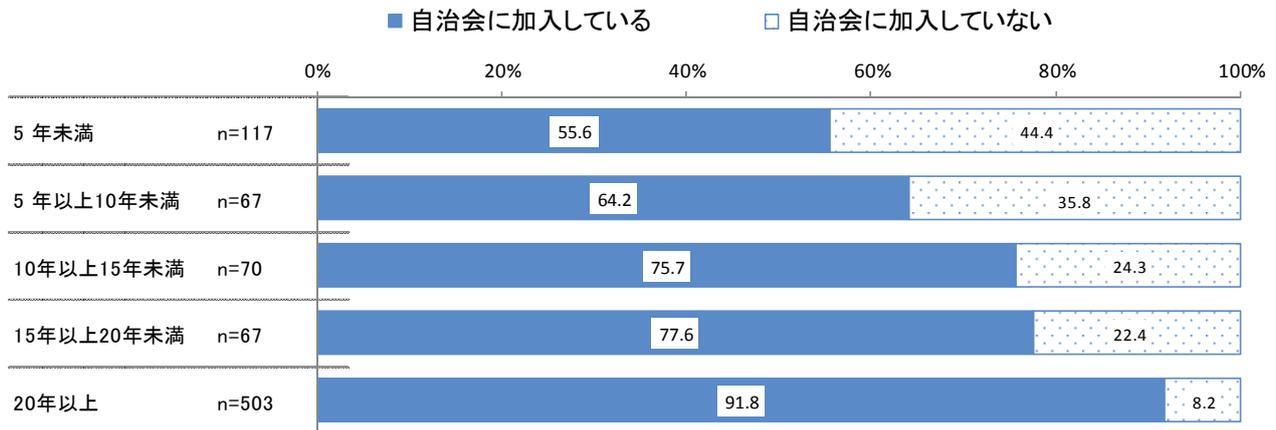


図表 16 居住歴別にみた自治会への加入の有無について
(無回答を除く)

【問1-7 居住年数別】

➤ 「20年以上」では「加入している」が9割以上

居住年数別に自治会への加入の有無をみると、「自治会に加入している」は、「20年以上」で91.8%となっており、最も高くなっています。一方で、「5年未満」では55.6%となっています。居住年数が長くなるにつれて、「自治会に加入している」は上昇傾向にあります。

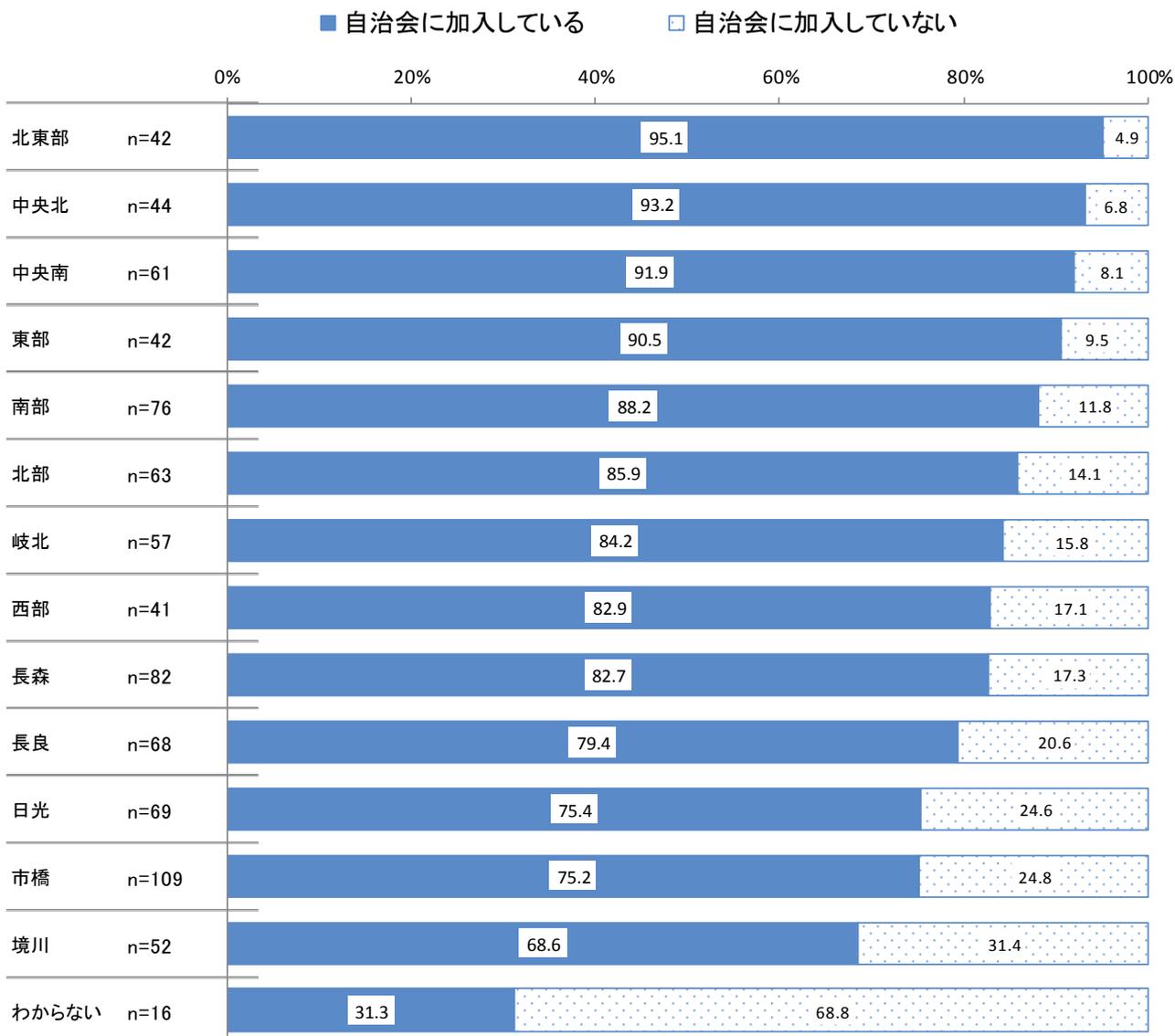


図表 17 居住年数別にみた自治会への加入の有無について
(無回答を除く)

【問1-7 居住地域別】

➤ 「北東部」「中央北」「中央南」「東部」で「加入している」が9割以上

居住地域別に自治会への加入の有無をみると、「自治会に加入している」は、「北東部」が95.1%と最も高くなっています。次いで、「中央北」(93.2%)、「中央南」(91.9%)、「東部」(90.5%)となっています。一方で、「境川」は68.6%と最も低くなっています。

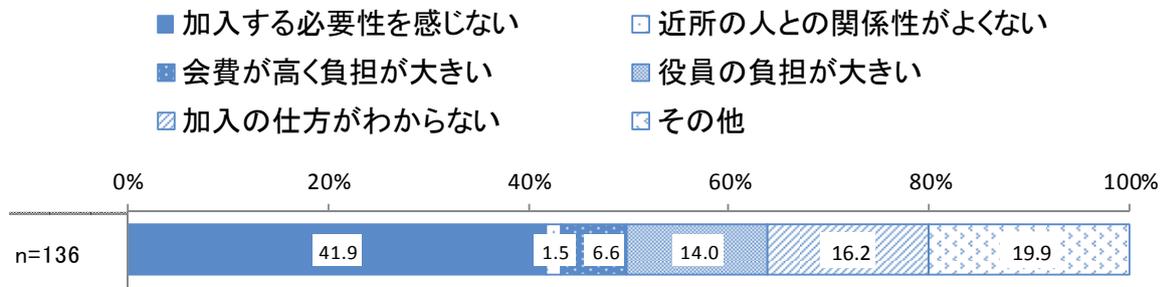


図表 18 居住地域別にみた自治会への加入の有無について
(無回答を除く)

問1-7-1 自治会に加入していない理由。(〇は1つ)

➤ 自治会に加入していない理由は「加入する必要性を感じない」が約4割

自治会に加入していない理由については、「加入する必要性を感じない」が41.9%と最も高くなっています。次いで、「加入の仕方がわからない」(16.2%)となっています。

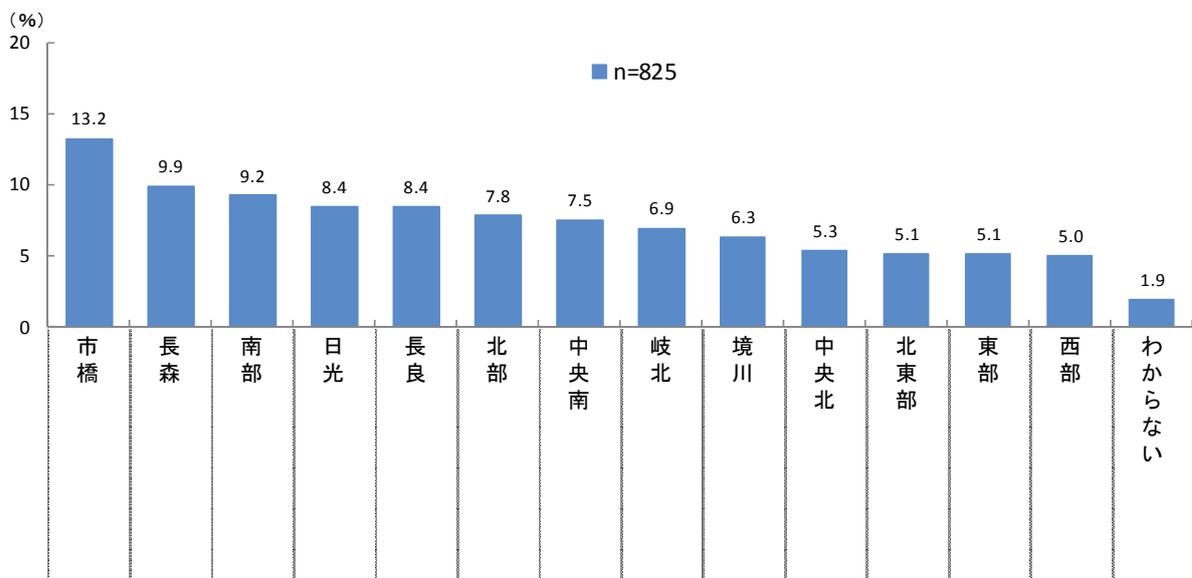


図表 19 自治会に加入していない理由
(無回答を除く)

問1-8 居住地域(自治会連合会地区または小学校区)について。(〇は1つ)

➤ 回答者の居住地域は「市橋」が最も高い

回答者の居住地域を日常生活圏域ごとに分けてみると、「市橋」が13.2%と最も高くなっています。次いで、「長森」(9.9%)、「南部」(9.2%)、「日光」(8.4%)、「長良」(8.4%)、となっています。



図表 20 居住地域
(無回答を除く)

2) 地域福祉全体について

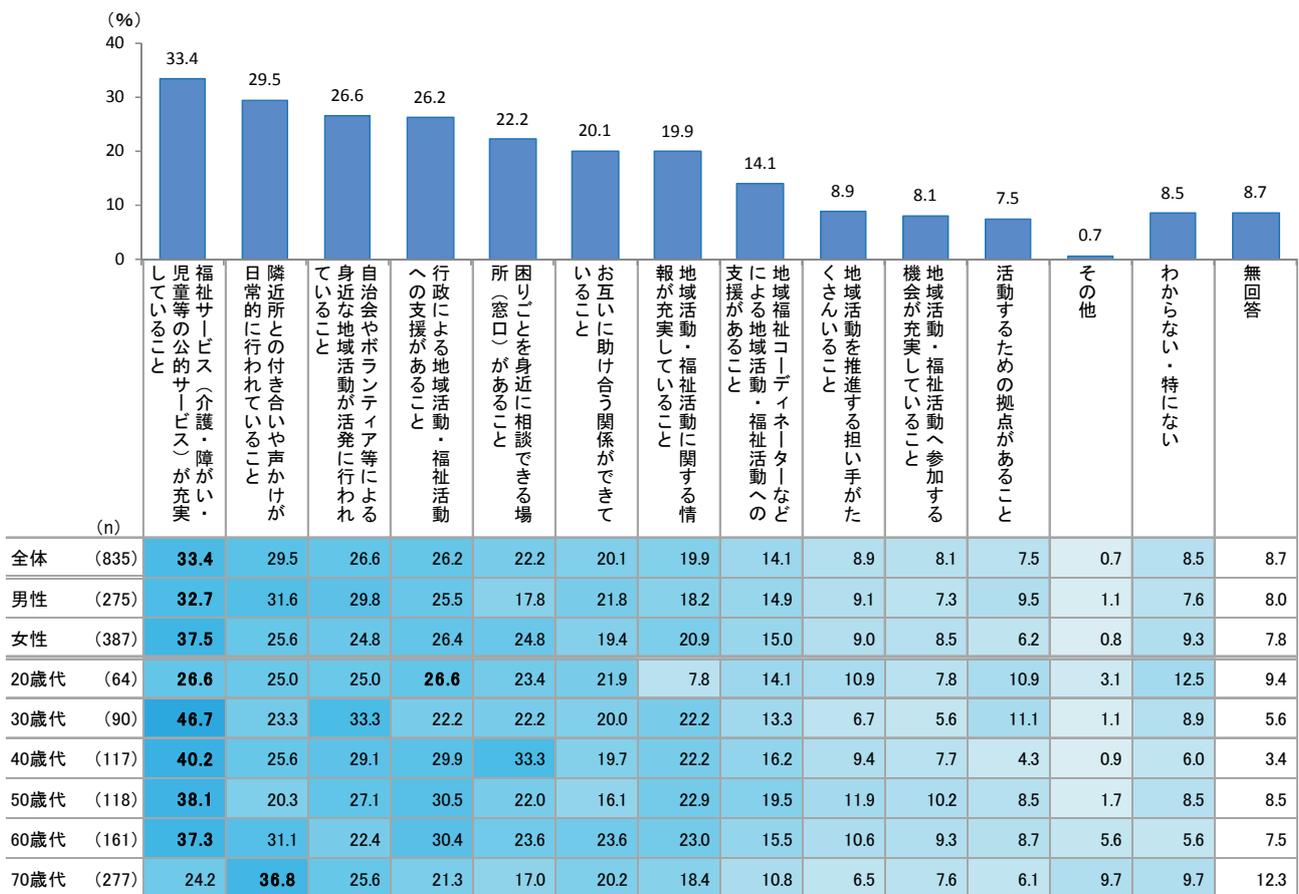
問2 あなたにとって、地域福祉とはどのようなものですか。(〇は3つまで)

➤ 「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が3割以上

地域福祉とはどのようなものかについては、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が33.4%と最も高くなっています。次いで、「隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること」（29.5%）、「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」（26.6%）となっています。

男女別にみると、男性は、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が32.7%と最も高くなっており、次いで、「隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること」（31.6%）、「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」（29.8%）となっています。女性では、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が37.5%と最も高くなっています。次いで、「行政による地域活動・福祉活動への支援があること」（26.4%）、「隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること」（25.6%）となっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代までは「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が高くなっています。70歳以上では、「隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること」が36.8%と最も高くなっています。



図表 21 地域福祉

問3 あなたが、岐阜市において充実していると思われることは何ですか。(〇は3つまで)

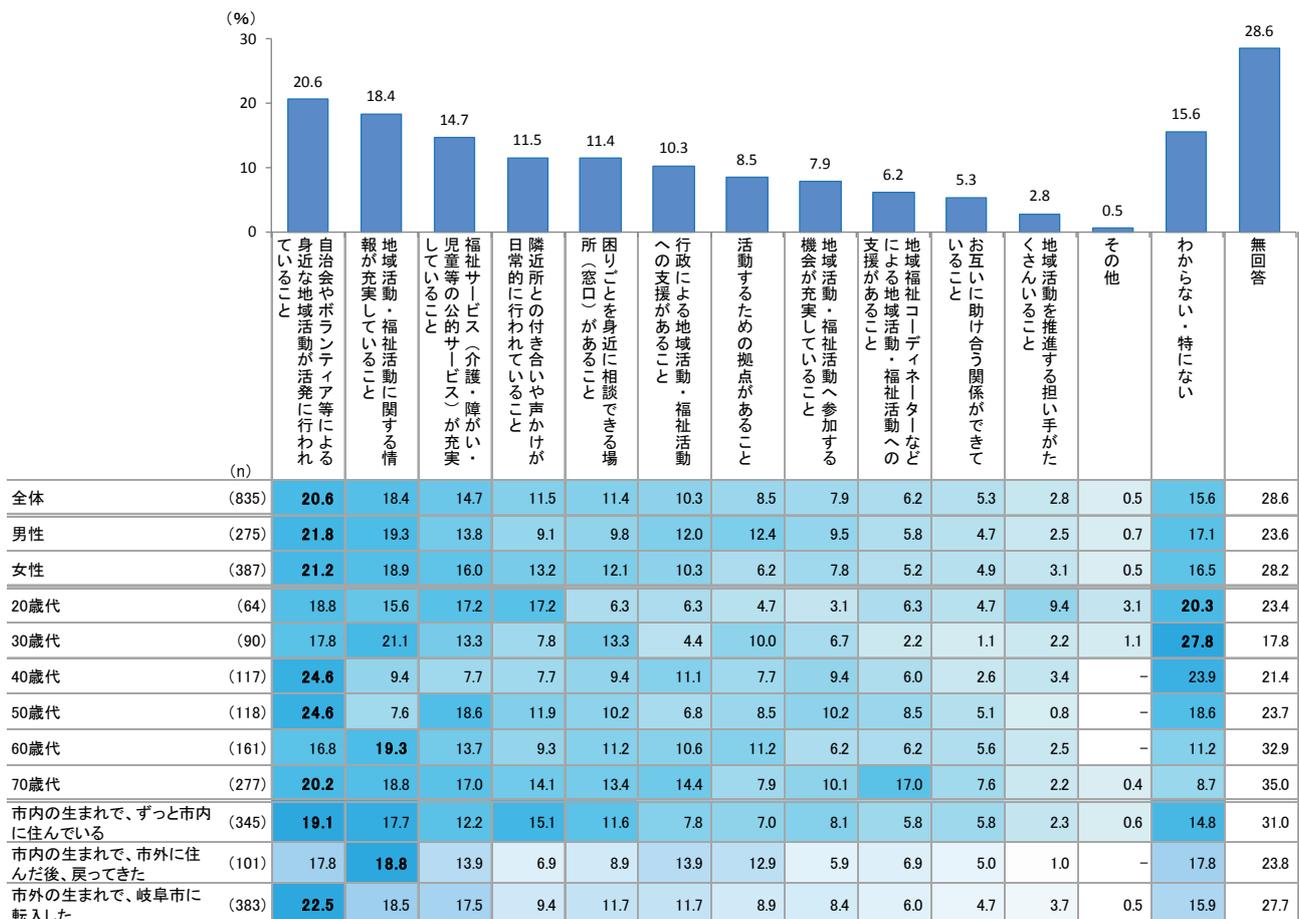
➤ 「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」が2割以上

岐阜市の地域福祉において充実していることは、「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」が20.6%と最も高くなっています。次いで、「地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること」(18.4%)となっています。

男女別にみると、男女ともに「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」が最も高くなっており、男性が21.8%と女性(21.2%)と比べ、わずかに高くなっています。

年代別にみると、20歳代と30歳代では「わからない・特にない」が高くなっており、30歳代の27.8%が最も高くなっています。40歳代と50歳代、70歳以上では「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」が高くなっており、40歳代と50歳代で24.6%と最も高くなっています。60歳代では「地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること」が19.3%と最も高くなっています。

居住歴別にみると、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」「市外の生まれで岐阜市に転入した」では、「自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること」が最も高くなっています。一方で、「市内の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた」では「地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること」が最も高くなっています。



図表 22 岐阜市において充実している地域福祉

問4 あなたが、岐阜市において不足していると思われることは何ですか。(〇は3つまで)

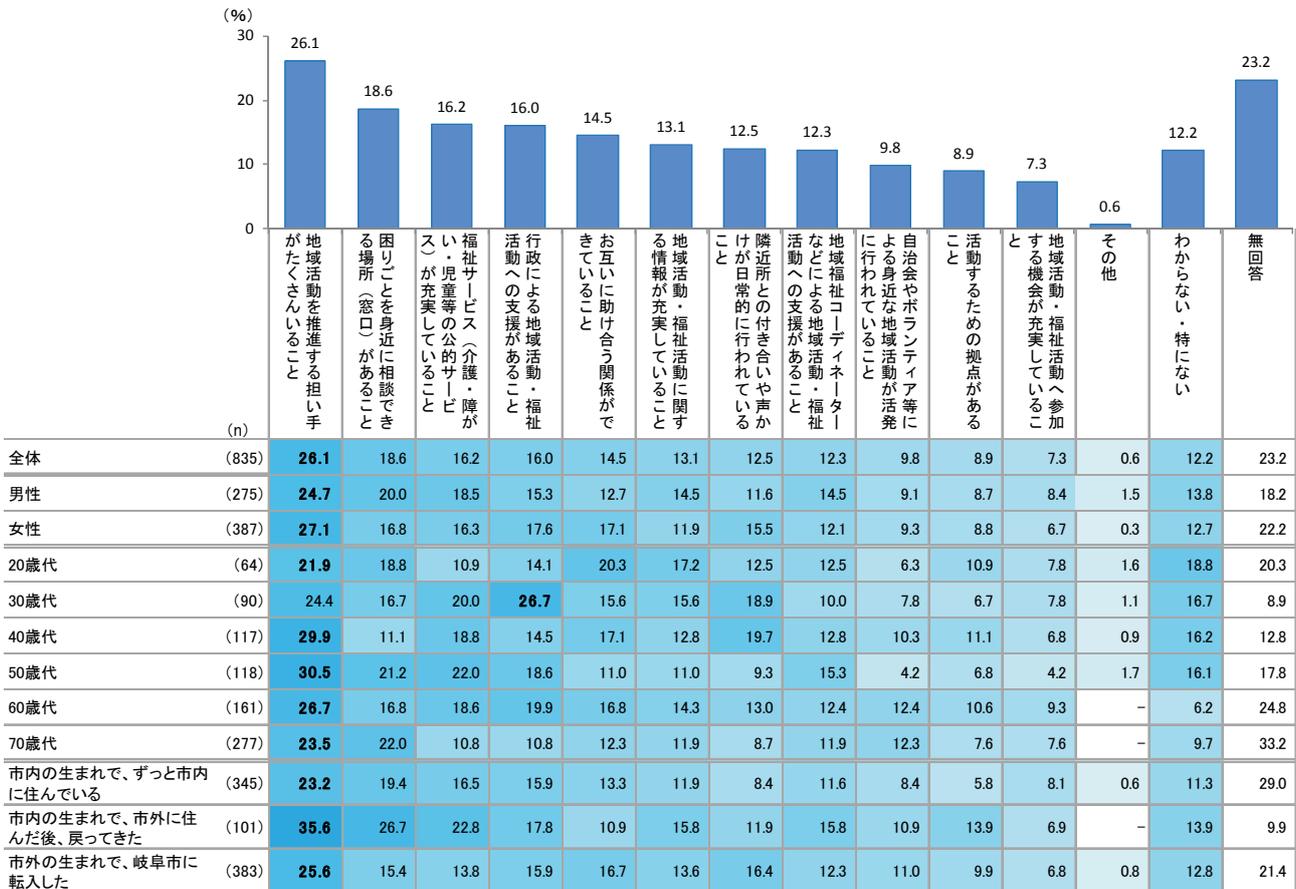
➤ 「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が約3割

岐阜市の地域福祉において不足していることは、「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が26.1%と最も高くなっています。次いで、「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」（18.6%）、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」（16.2%）となっています。

男女別にみると、男性は「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が24.7%と最も高くなっています。次いで、「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」（20.0%）、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」（18.5%）となっています。女性では、「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が27.1%と最も高くなっています。次いで、「行政による地域活動・福祉活動への支援があること」（17.6%）、「お互いに助け合う関係ができてくること」（17.1%）となっています。

年代別にみると、30歳代で「行政による地域活動・福祉活動への支援があること」が26.7%と最も高く、その他の年代では「地域を推進する担い手がたくさんいること」が最も高くなっています。

居住歴別では、「市内の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた」の「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が35.6%と最も高くなっており、「市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる」（23.2%）及び「市外の生まれで、岐阜市に転入した」（25.6%）を上回っています。



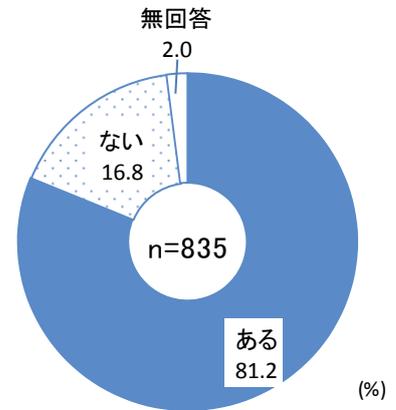
図表 23 岐阜市において不足している地域福祉

3) 地域のつながりについて

問5 近所の人と付き合いはありますか。(〇は1つ)

➤ 近所付き合いは「ある」が8割以上

近所の人との付き合いについては、「ある」が81.2%となっています。

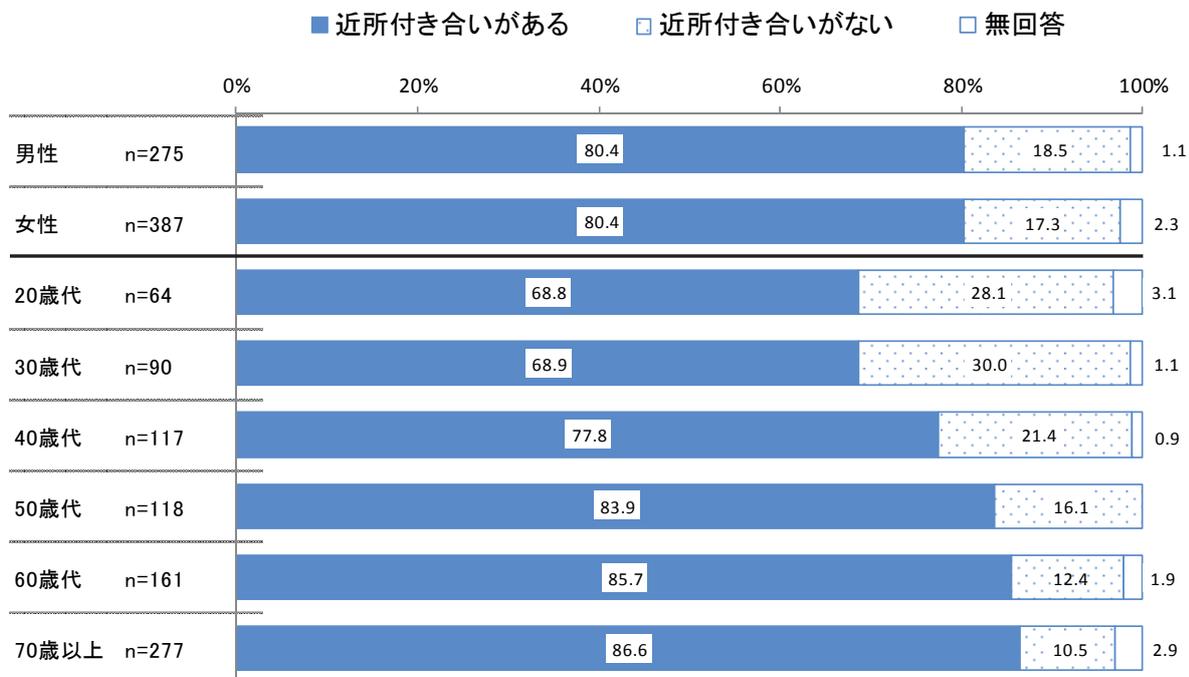


図表 24 近所付き合いの有無

【問5 男女・年代別】

➤ 男性・女性ともに「近所付き合いがある」が8割以上、年代が高くなるにつれ、「近所付き合いがある」が上昇

近所付き合いの有無について、男女別にみると、男女ともに「近所付き合いがある」は80.4%となっており、8割以上が「近所付き合いがある」と回答しています。年代別にみると、70歳以上で「近所付き合いがある」が86.6%と最も高くなっています。年代が高くなるにつれて、「近所付き合いがある」は上昇しています。

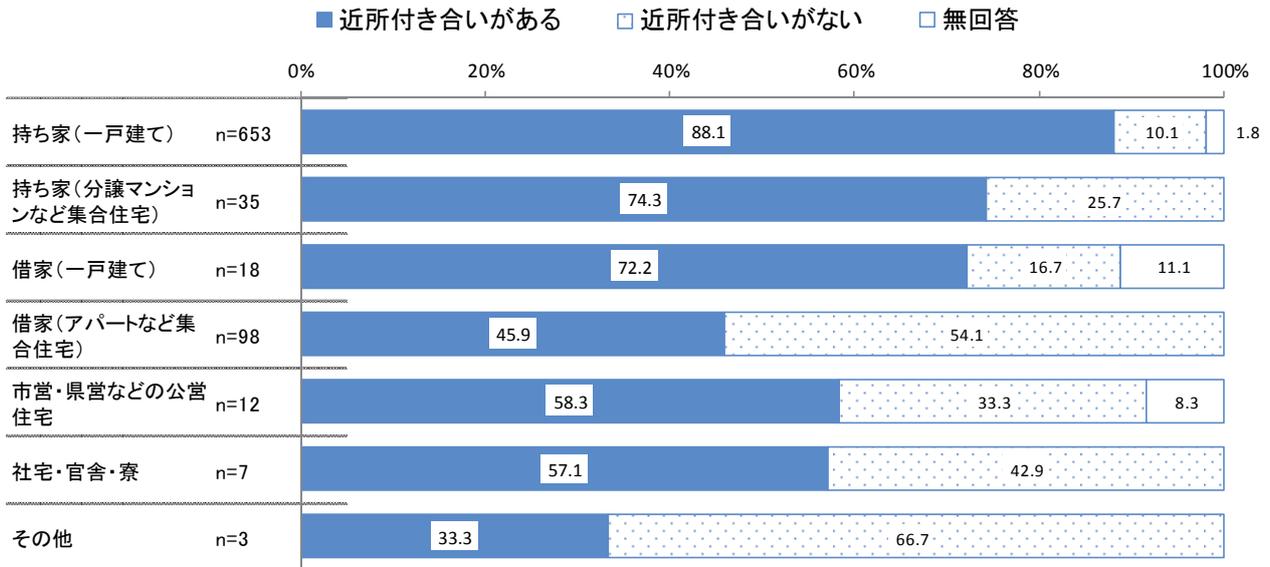


図表 25 男女・年代別にみた近所付き合いの有無について

【問5 住まいの形態別】

➤ 「持ち家（一戸建て）」で「近所付き合いがある」が約9割

住まいの形態別に近所付き合いの有無をみると、「持ち家（一戸建て）」で「近所付き合いがある」が 88.1%と最も高くなっています。一方で、「借家（アパートなど集合住宅）」では、45.9%となっています。



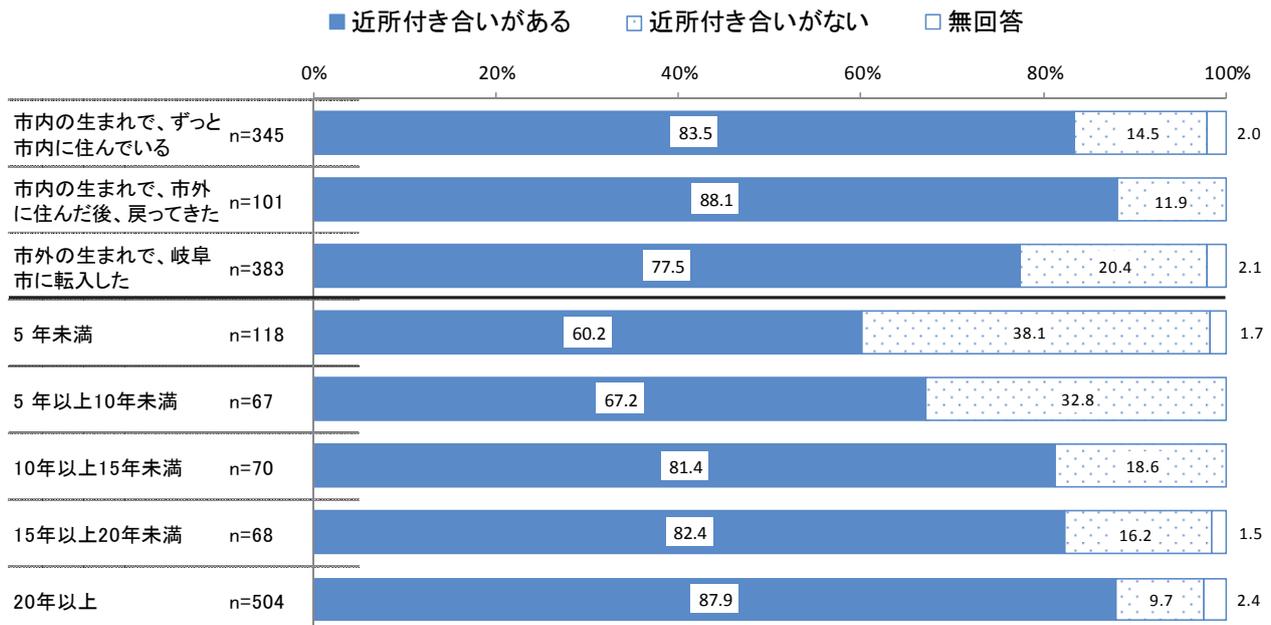
図表 26 住まいの形態別にみた近所付き合いの有無について

【問5 居住歴・居住年数別】

➤ 居住年数が長くなるにつれ「近所付き合いがある」が上昇

居住歴別に近所付き合いの有無をみると、「近所付き合いがある」は「市内の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた」が88.1%と最も高くなっています。

居住年数別にみると、「近所付き合いがある」は「20年以上」が87.9%と最も高くなっています。居住年数が長くなるにつれて、「近所付き合いがある」が上昇傾向にあります。

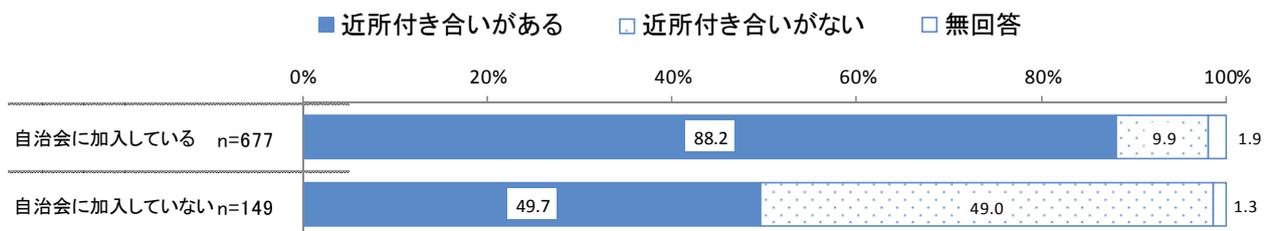


図表 27 居住歴・居住年数別にみた近所付き合いの有無について

【問5 自治会への加入別】

➤ 「自治会に加入している」は「近所付き合いがある」が約9割

自治会への加入別にみると、「自治会に加入している」は「近所付き合いがある」が88.2%となっています。一方で、「自治会に加入していない」で「近所付き合いがある」は49.7%となっています。

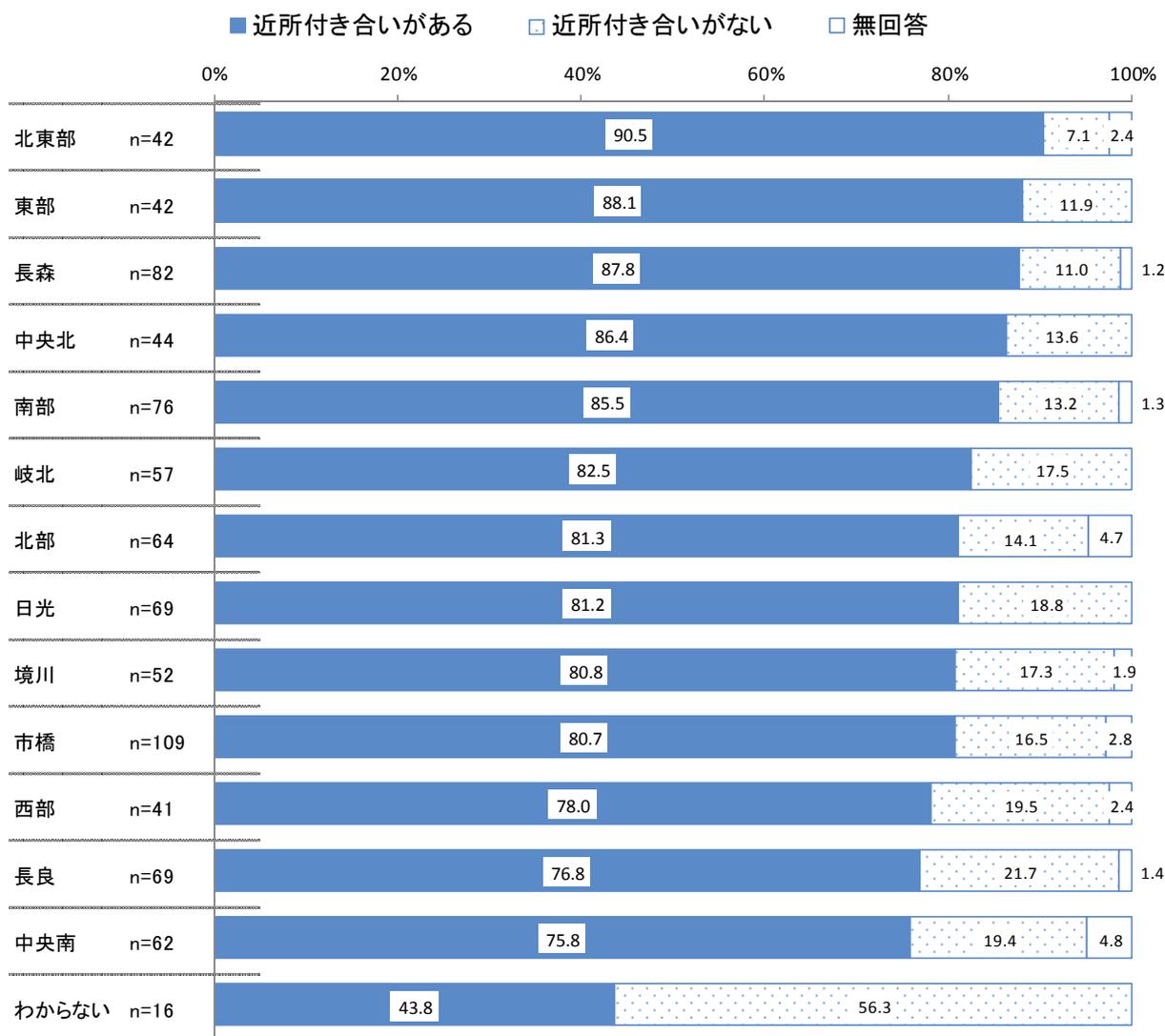


図表 28 自治会への加入別にみた近所付き合いの有無について

【問5 居住地域別】

➤ 「近所付き合いがある」は「北東部」が9割以上

居住地域別に近所付き合いの有無をみると、「近所付き合いがある」は「北東部」が90.5%と最も高くなっています。次いで、「東部」(88.1%)、「長森」(87.8%)、「中央北」(86.4%)、「南部」(85.5%)となっています。

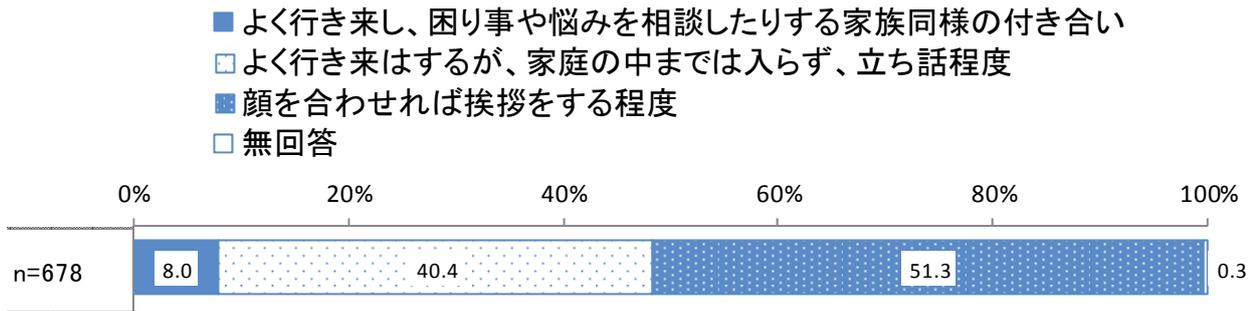


図表 29 居住地域別にみた近所付き合いの有無について

問5-2 近所の人とはどの程度の付き合いですか。(〇は1つ)

➤ 「顔を合わせれば挨拶をする程度」が5割以上

近所の人との付き合いは、「顔を合わせれば挨拶をする程度」が51.3%と最も高くなっています。次いで、「よく行き来はするが、家庭の中までは入らず、立ち話程度」(40.4%)となっています。一方で、「よく行き来し、困り事や悩みを相談したりする家族同様の付き合い」は8.0%に留まっています。



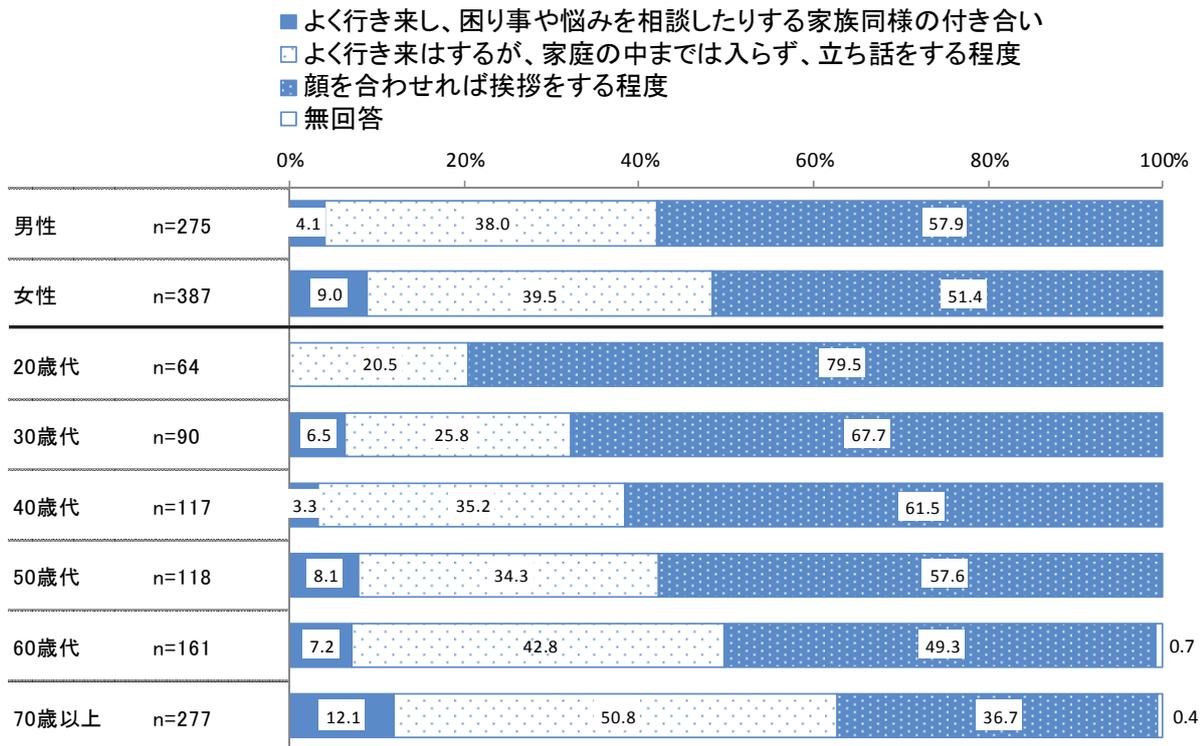
図表 30 近所付き合いの程度

【問5-2 男女・年代別】

- 70歳以上は「よく行き来し、困り事や悩みを相談したりする家族同様の付き合い」と「よく行き来はするが、家庭の中までは入らず、立ち話をする程度」の合計が6割以上

男女別にみると、「よく行き来し、困り事や悩みを相談したりする家族同様の付き合い」と「よく行き来はするが、家庭の中までは入らず、立ち話をする程度」の合計は、女性が48.5%と男性（42.1%）を上回っています。

年代別にみると、70歳以上が62.9%と最も高くなっています。年代が高くなるにつれ、増加する傾向がみられます。

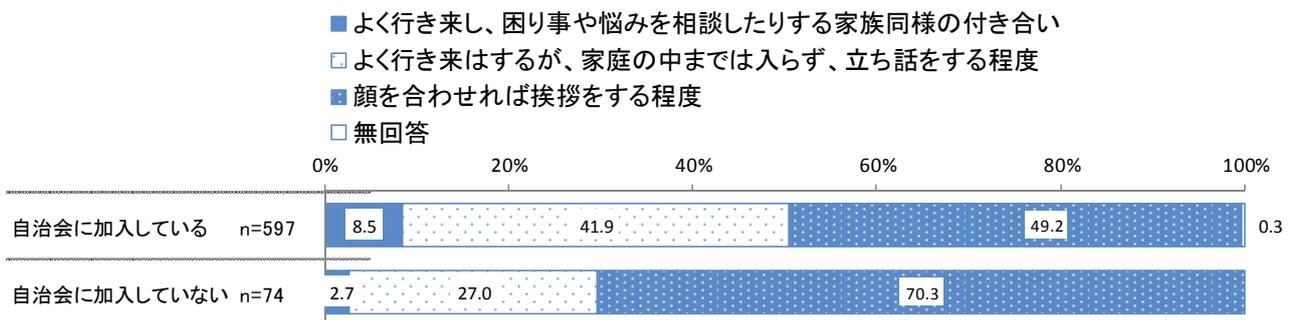


図表 31 男女・年代別にみた近所付き合いの程度について

【問5-2 自治会への加入別】

- 「自治会に加入している」で、「よく行き来し、困り事や悩みを相談したりする家族同様の付き合い」と「よく行き来はするが、家庭の中までは入らず、立ち話をする程度」の合計が5割以上

自治会への加入別に近所付き合いの程度をみると、「自治会に加入している」で「よく行き来し、困り事や悩みを相談したりする家族同様の付き合い」と「よく行き来はするが、家庭の中までは入らず、立ち話をする程度」の合計が50.4%となっており、「自治会に加入していない」(29.7%)を大きく上回っています。

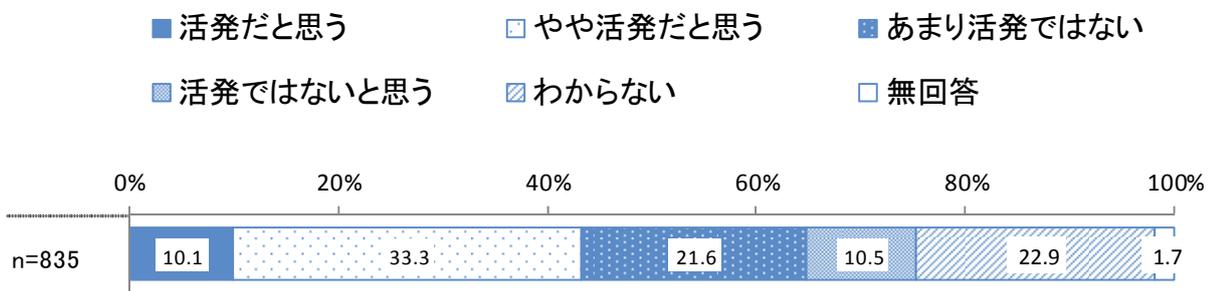


図表 32 自治会への加入別にみた近所付き合いの程度について

問6 町内会、ボランティアなどの地域社会の行事や活動が活発だと思いますか。(〇は1つ)

- 「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が4割以上

地域社会の行事や活動については、「やや活発だと思う」が33.3%と最も高くなっています。次いで、「わからない」(22.9%)、「あまり活発ではない」(21.6%)となっています。「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計は43.4%となっています。



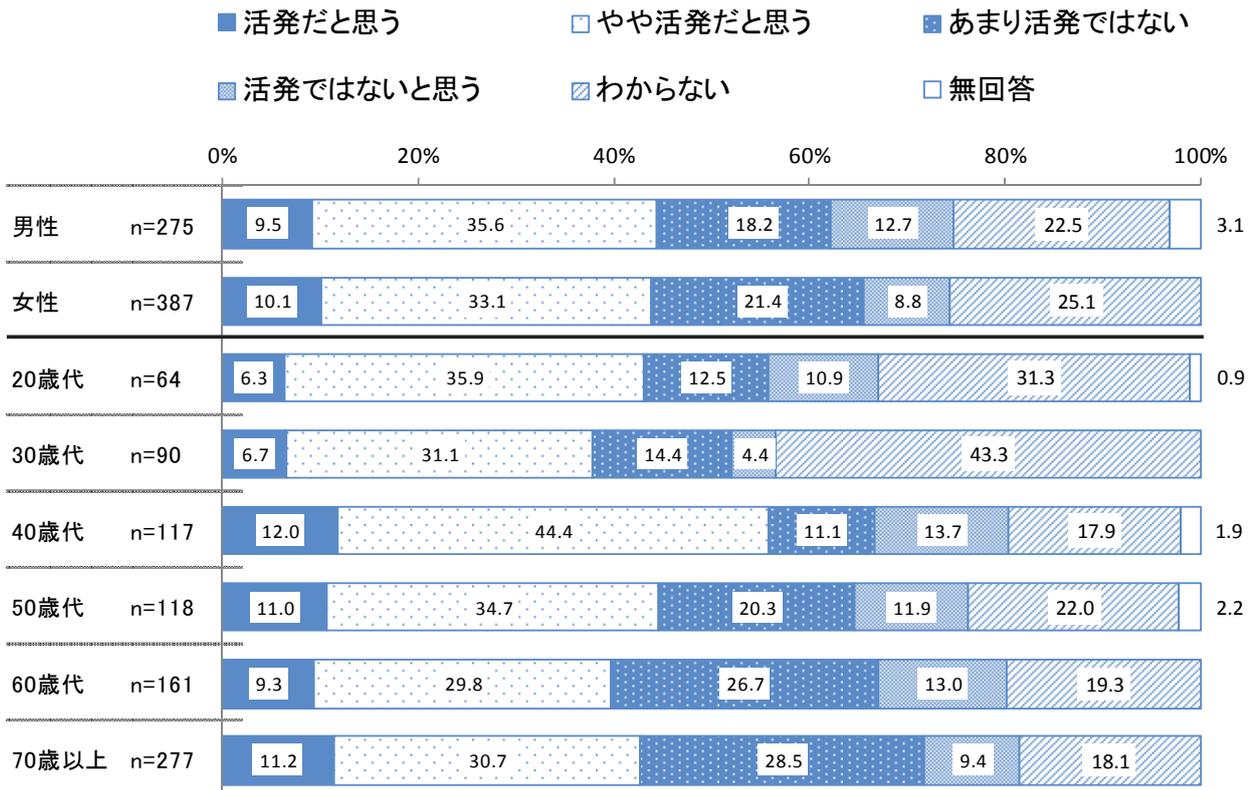
図表 33 地域社会の行事や活動

【問6 男女・年代別】

➤ 40歳代の「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が5割以上

男女別に地域社会の行事や活動についてみると、男女ともに、「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が4割以上となっています。

年代別にみると、40歳代の「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が56.4%と高くなっています。

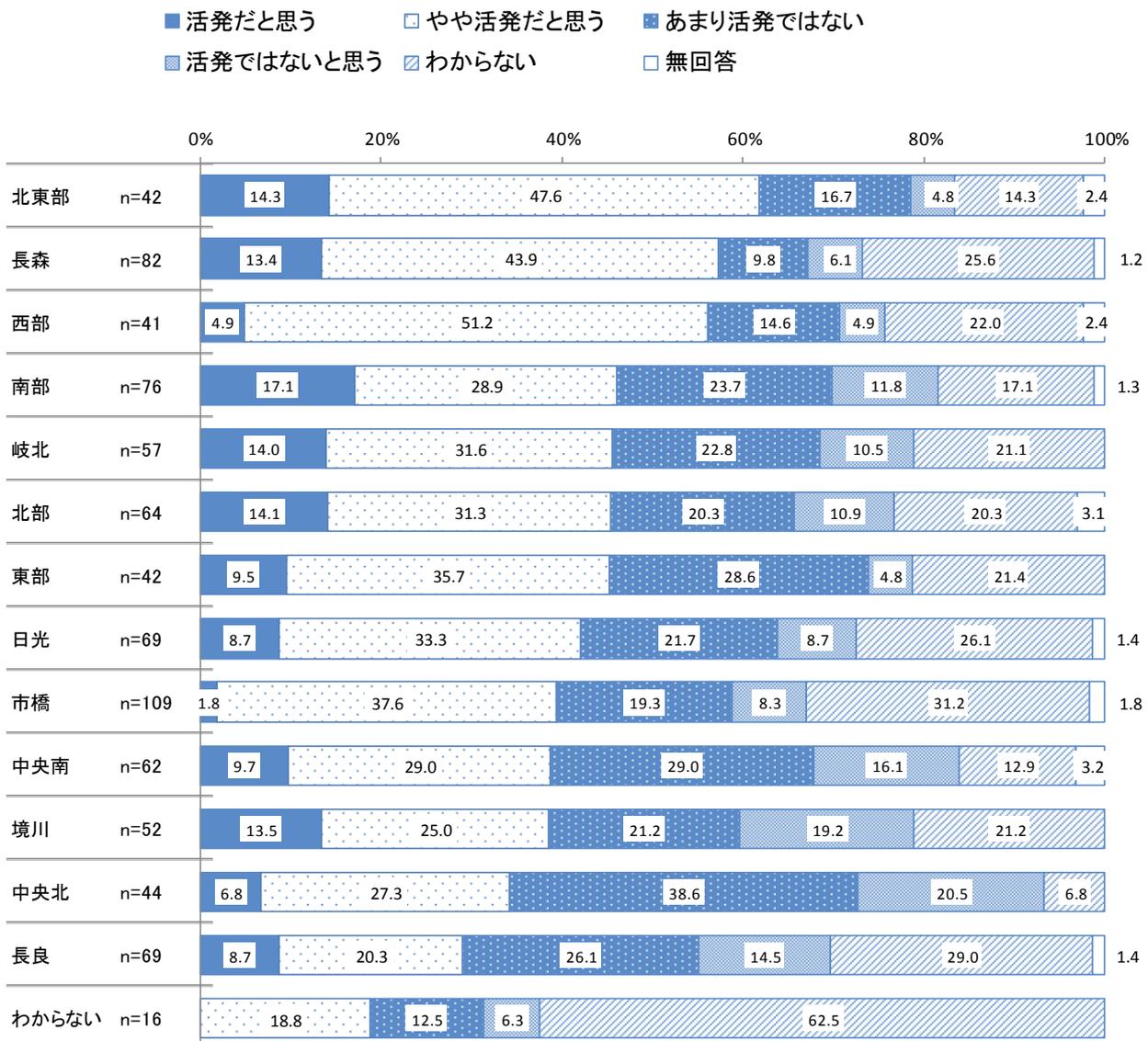


図表 34 男女・年代別にみた地域社会の行事や活動について

【問6 居住地域別①】

➤ 「北東部」「長森」「西部」は「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が5割以上

居住地域別に地域社会の行事や活動についてみると、「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計では「北東部」が61.9%と最も高くなっています。次いで、「長森」(57.3%)、「西部」(56.1%)となっています。一方で、「あまり活発ではない」と「活発ではないと思う」の合計は「中央北」が59.1%と最も高くなっています。次いで、「中央南」(45.1%)、「長良」(40.6%)となっています。

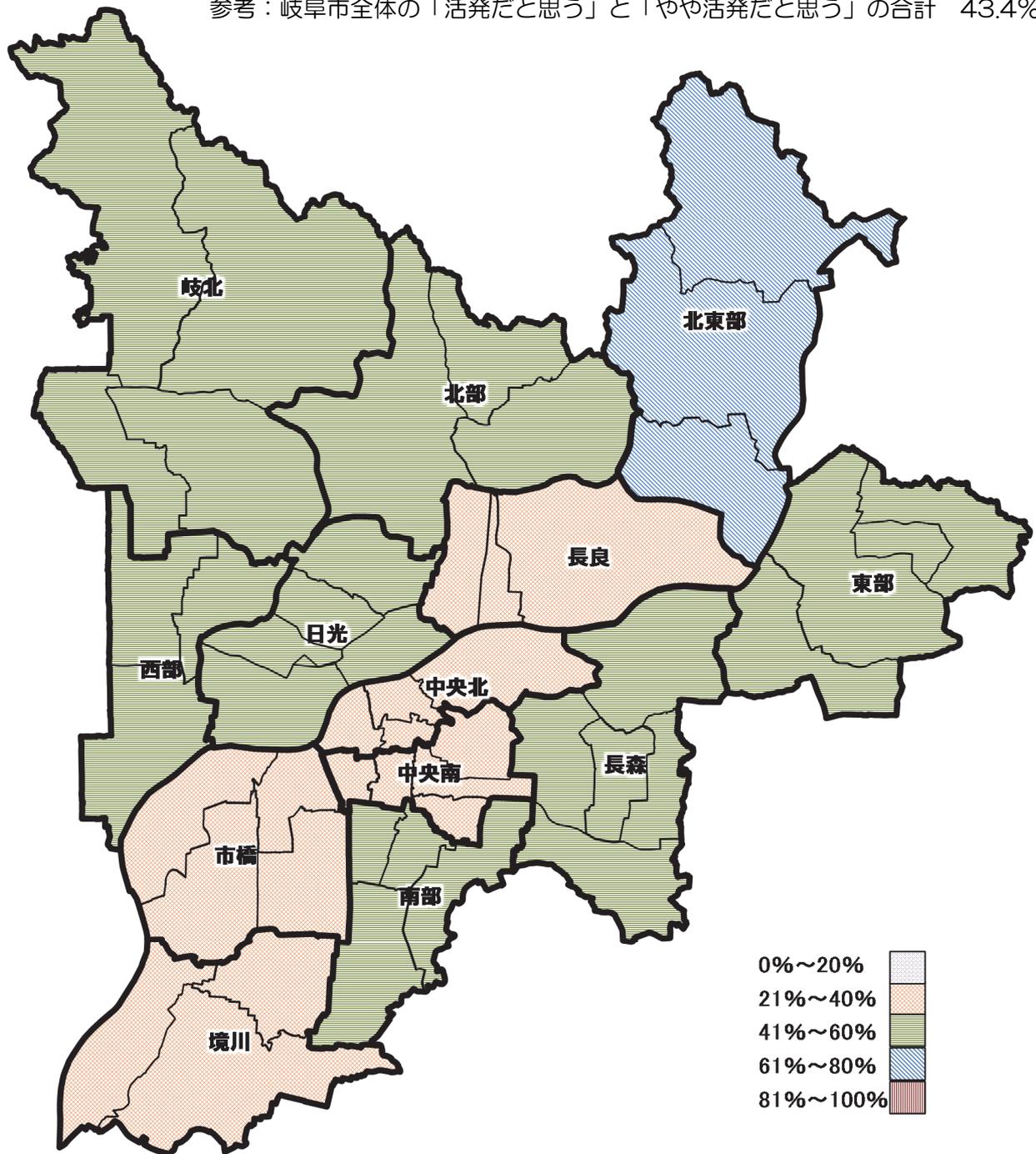


図表 35 居住地域別にみた地域社会の行事や活動について

【問6 居住地域別②】

居住地域別に「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計を地図で見ると、以下のようになります。

参考：岐阜市全体の「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計 43.4%

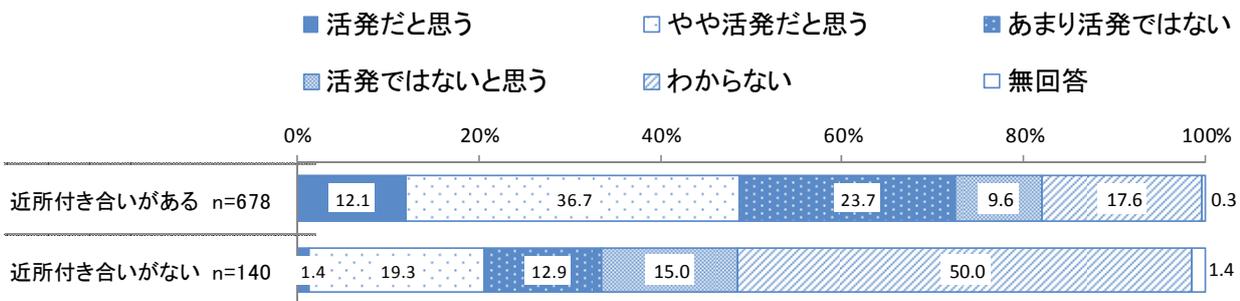


図表 36 居住地域別にみた地域社会の行事や活動について（地図）

【問6 近所付き合いの有無別】

- 「近所付き合いがある」で「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が約5割

近所付き合いの有無別に地域社会の行事や活動についてみると、「近所付き合いがある」では「活発だと思う」と「やや活発だと思う」の合計が48.8%と約5割となっていますが、「近所付き合いがない」では20.7%となっています。

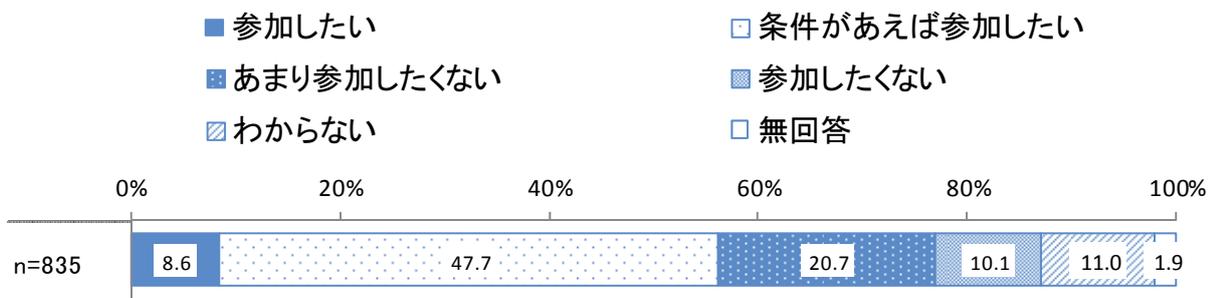


図表 37 近所付き合いの有無別にみた地域社会の行事や活動について

問7 今後、町内会・自治会、ボランティアなどの地域活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

- 「条件があれば参加したい」が約5割

今後の地域活動への参加については、「条件があれば参加したい」が47.7%と最も高く、次いで、「あまり参加したくない」(20.7%)となっています。「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が56.3%となっています。一方で、「あまり参加したくない」と「参加したくない」の合計が30.8%となっています。



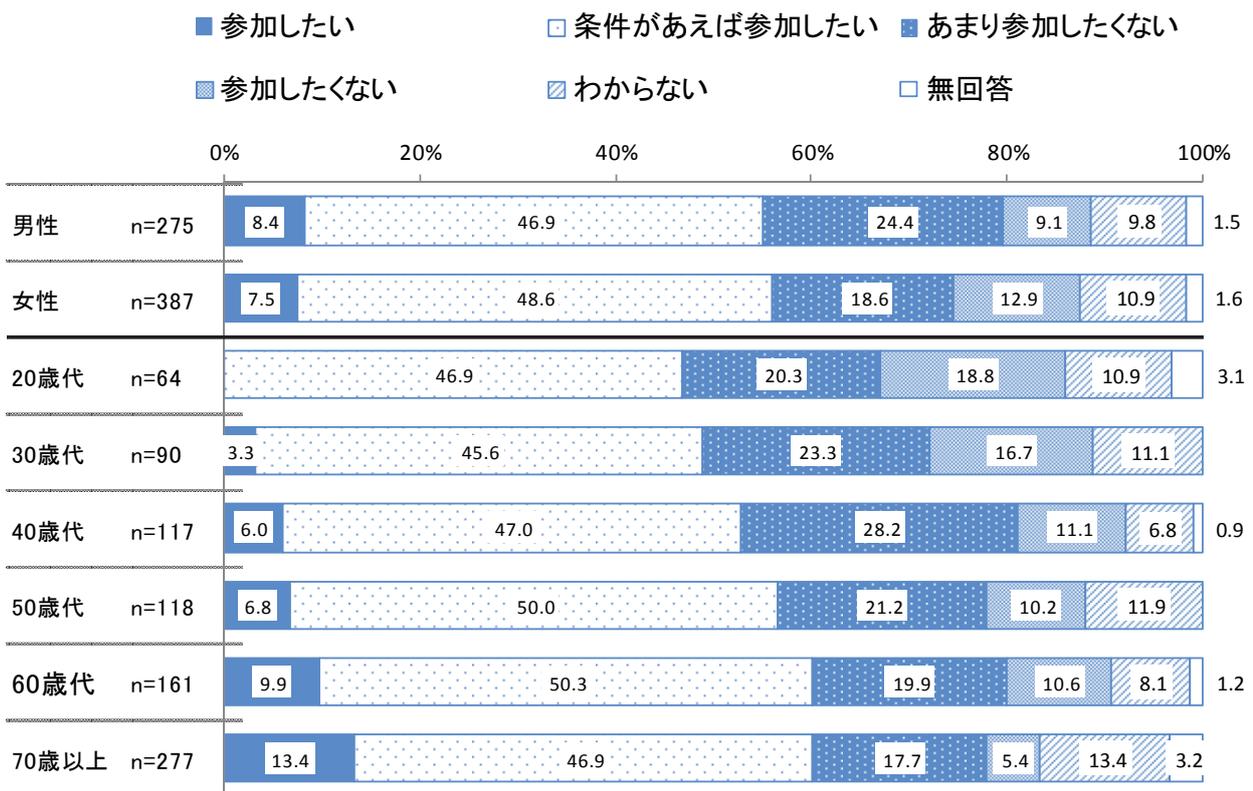
図表 38 地域活動への参加について

【問7 男女・年代別】

➤ 「70歳以上」で「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が6割以上

男女別に地域活動への参加についてみると、「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が男女ともに5割以上となっています。

年代別にみると、「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が70歳以上で60.3%と最も高くなっています。一方で、「あまり参加したくない」と「参加したくない」の合計は30歳代が40.0%と最も高くなっています。

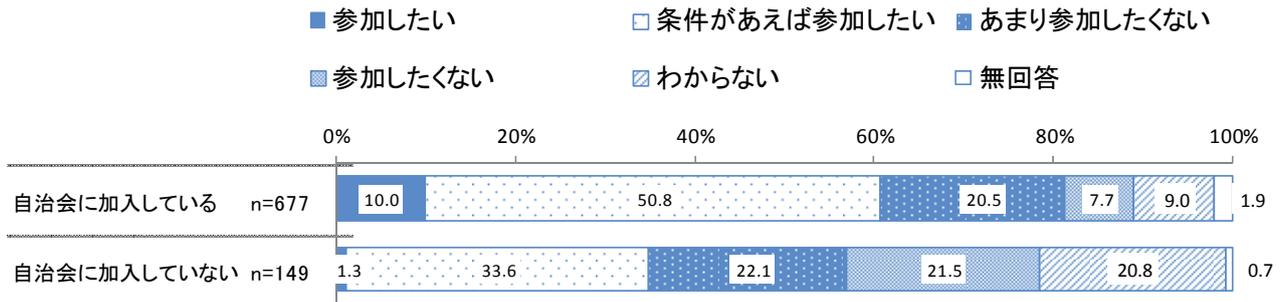


図表 39 男女・年代別にみた地域活動への参加について

【問7 自治会への加入別】

- 「自治会に加入している」で「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が6割以上

自治会への加入の有無別に地域活動への参加についてみると、「自治会に加入している」で、「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が60.8%となっていますが、「自治会に加入していない」では34.9%となっています。

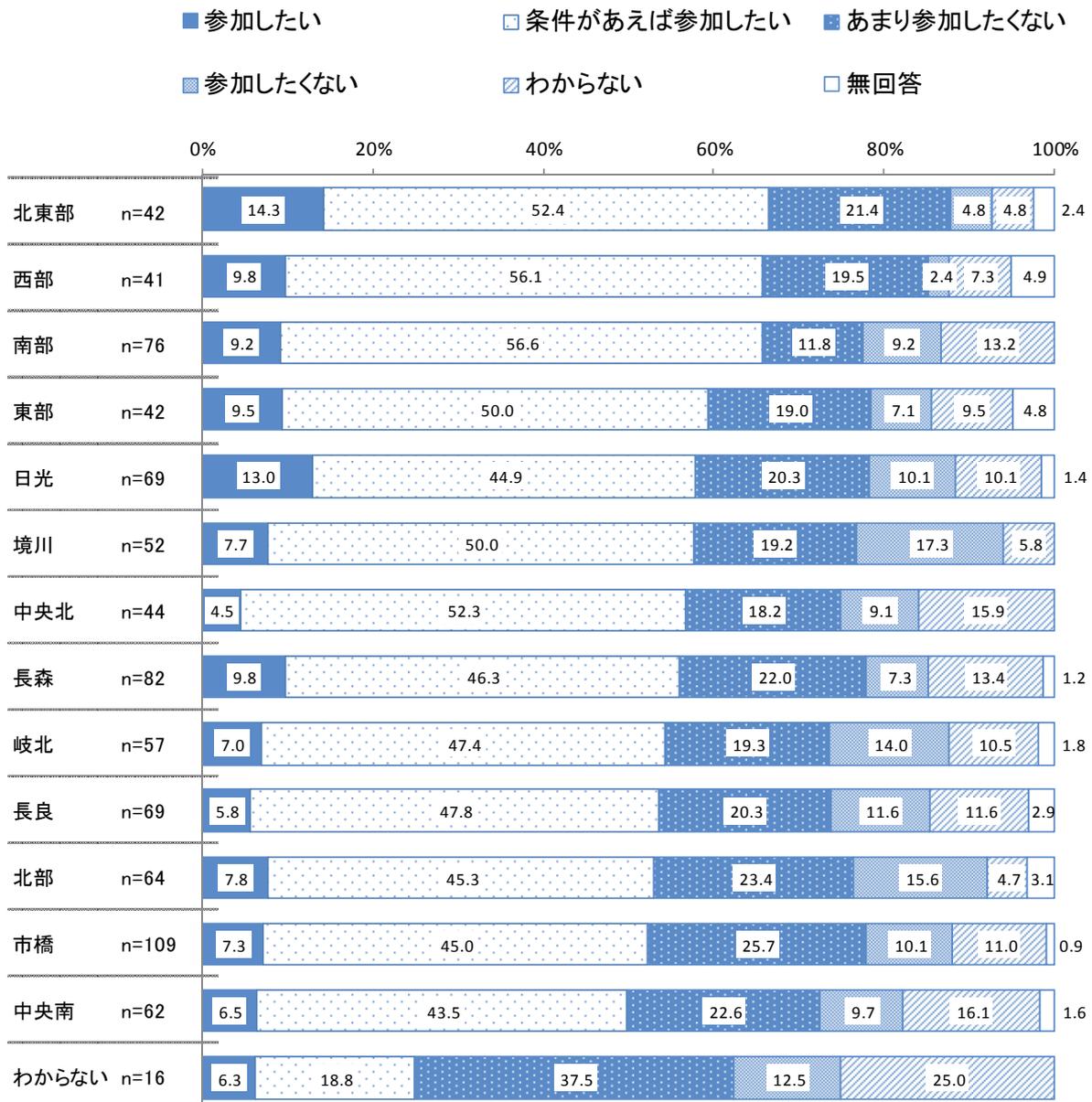


図表 40 自治会への加入別にみた地域活動への参加について

【問7 居住地域別①】

- 「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が「北東部」「西部」「南部」で6割以上

居住地域別に地域活動への参加についてみると、「北東部」で「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が66.7%と最も高くなっています。次いで、「西部」（65.9%）、「南部」（65.8%）となっています。一方で、「あまり参加したくない」と「参加したくない」の合計は、「北部」が39.0%と最も高くなっています。

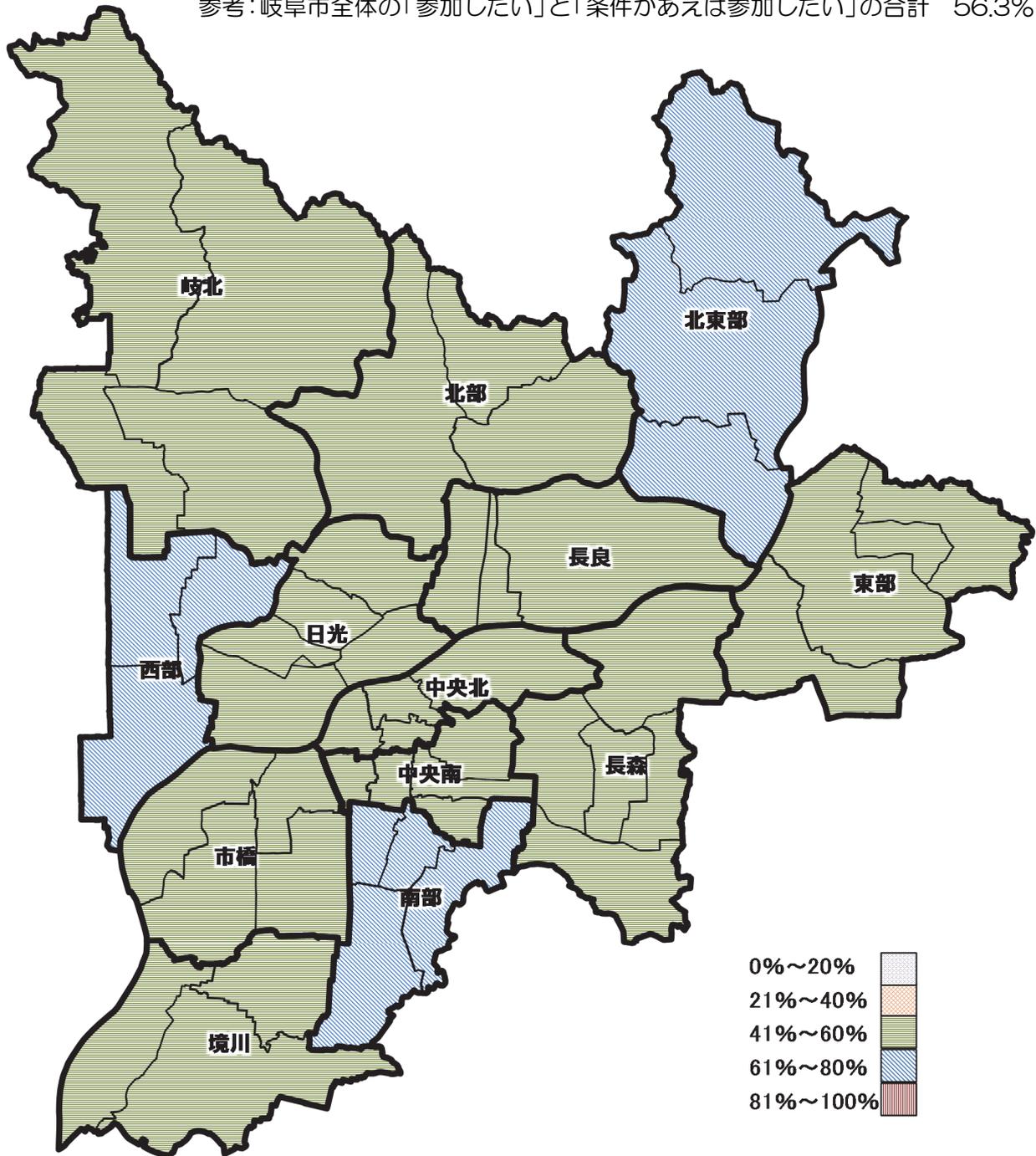


図表 41 居住地域別にみた地域活動への参加について

【問7 居住地域別②】

なお、居住地域別に「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計を地図で見ると、以下のようになります。

参考：岐阜市全体の「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計 56.3%

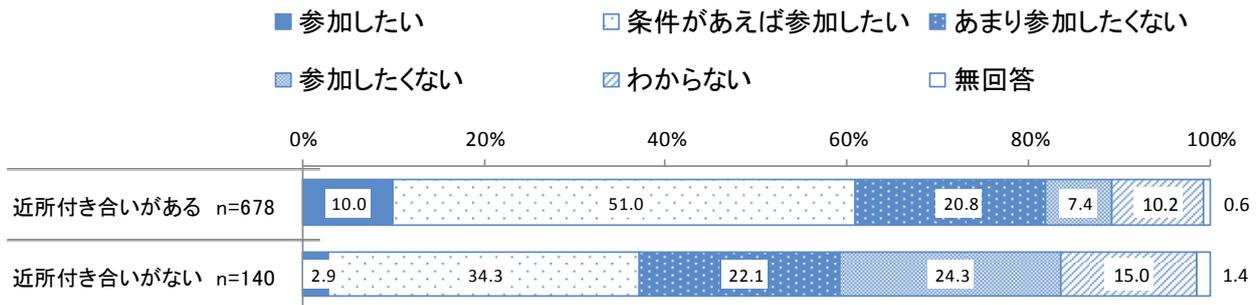


図表 42 居住地域別にみた地域活動への参加について (地図)

【問7 近所付き合いの有無別】

- 「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計は「近所付き合いがある」で6割以上

近所付き合いの有無別に地域活動への参加についてみると、「近所付き合いがある」で「参加したい」と「条件があれば参加したい」の合計が61.0%となっています。一方で、「近所付き合いがない」では37.2%となっています。



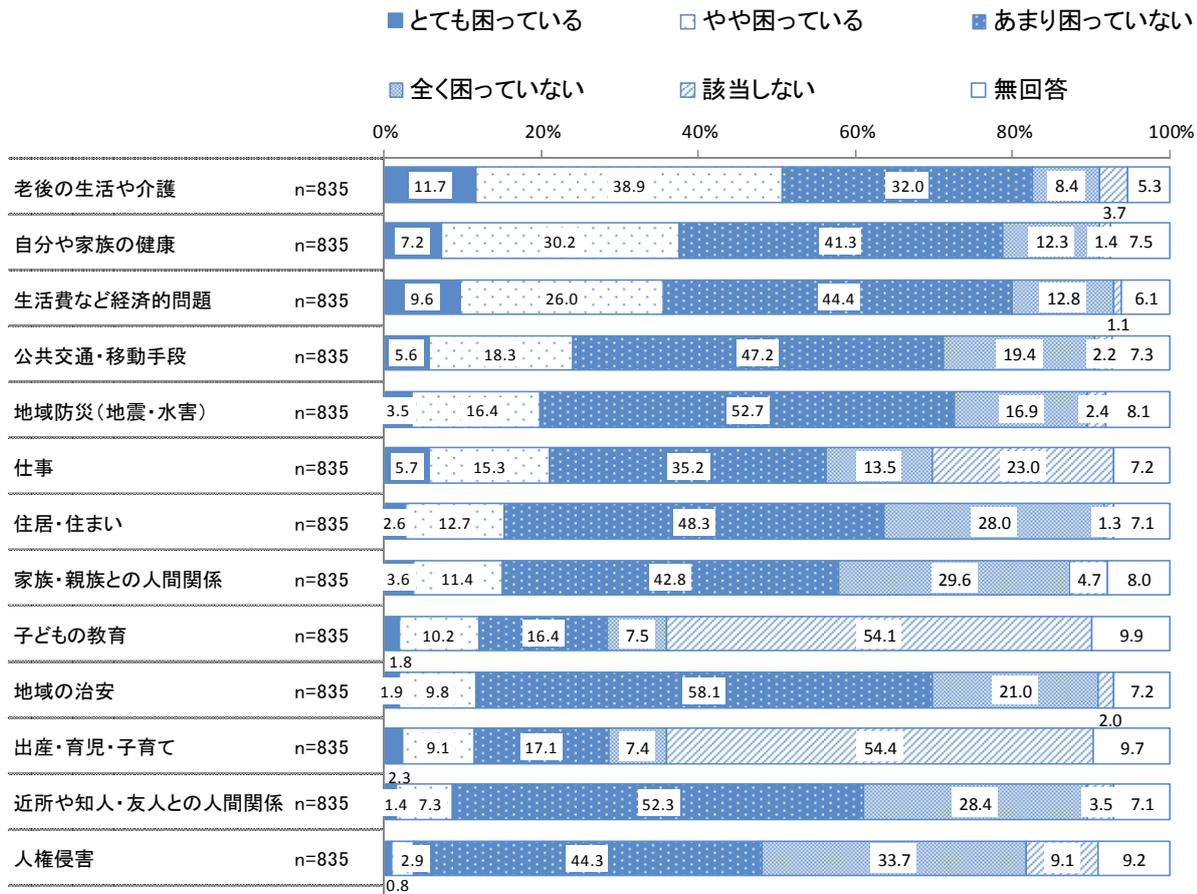
図表 43 近所付き合いの有無別にみた地域活動への参加について

4) 身近な困りごとについて

問8 毎日の暮らしの中で、困りごとや不安がありますか。(それぞれ1つに○)

➤ 「とても困っている」「やや困っている」で、ともに「老後の生活や介護」が最も高い

暮らしの中での困りごとや不安については、「老後の生活や介護」で「とても困っている」が11.7%で最も高くなっています。次いで、「生活費など経済的問題」(9.6%)、「自分や家族の健康」(7.2%)となっています。「やや困っている」でも、「老後の生活や介護」が38.9%と最も高くなっています。次いで、「自分や家族の健康」(30.2%)、「生活費など経済的問題」(26.0%)となっています。「あまり困っていない」では、「地域の治安」が58.1%、「全く困っていない」では、「人権侵害」が33.7%と最も高くなっています。



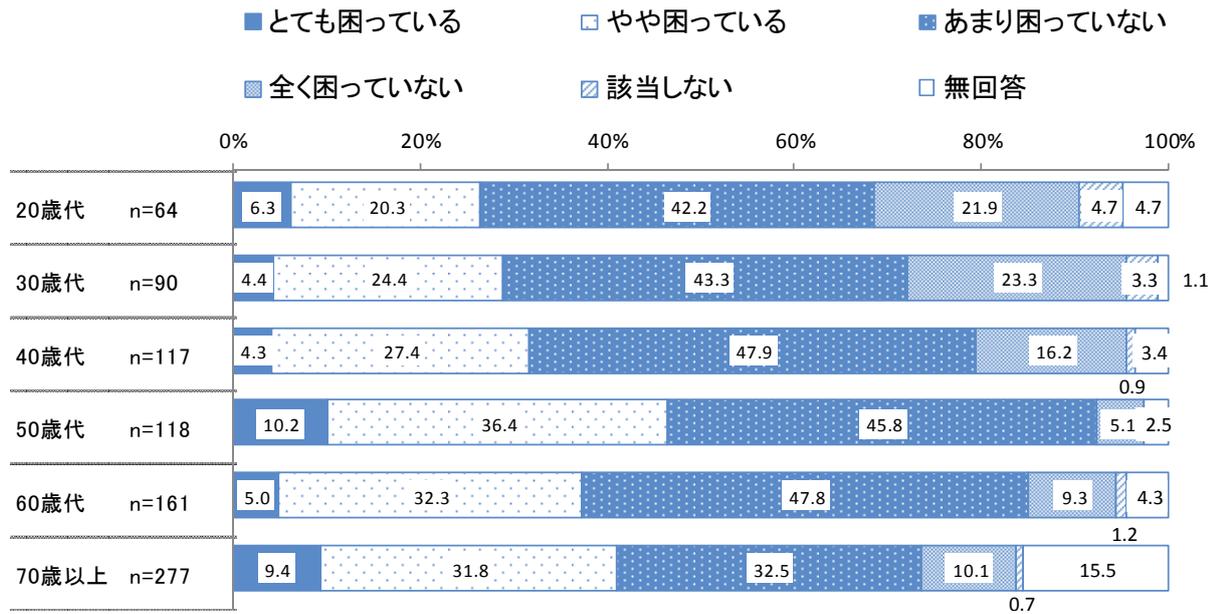
図表 44 暮らしの中での困りごとや不安

自分や家族の健康

【問8 年代別】

➤ 50歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が約5割

自分や家族の健康について、年代別にみると、50歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が46.6%と最も高くなっています。年代が高くなるにつれて、「とても困っている」と「やや困っている」の合計が増加傾向にあります。



図表 45 年代別にみた自分や家族の健康について

①自分や家族の健康

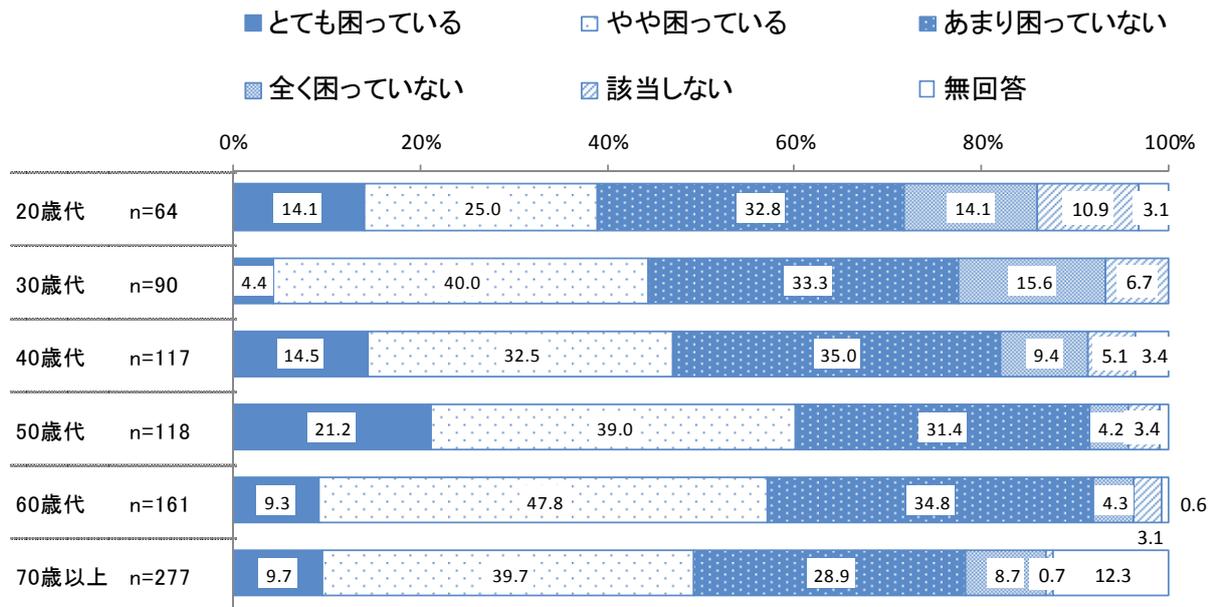
- ・父が遷延性意識障害になりました（心停止による）。医療からも福祉からも見捨てられているようでもう少し手厚い医療を期待できないでしょうか。3か月ごとの転院等、不安と悲しみで押しつぶされそうです。
- ・ひとり暮らしの為、急病、怪我などのときがとても心配。
- ・高校生でも医療費の負担を減らしてほしい。
- ・母が「悪性脳腫瘍」で倒れ、入院中。介護も含め、何をどこで相談すべきかわからない。
- ・健康維持。
- ・夫の指定難病の病状が進むにつれ、今後の対策に不安を感じる。

老後の生活や介護

【問8 年代別】

➤ 「とても困っている」が50歳代で2割以上

老後の生活や介護について、年代別にみると、「とても困っている」が50歳代で21.2%と最も高くなっています。



図表 46 年代別にみた老後の生活や介護について

②老後の生活や介護

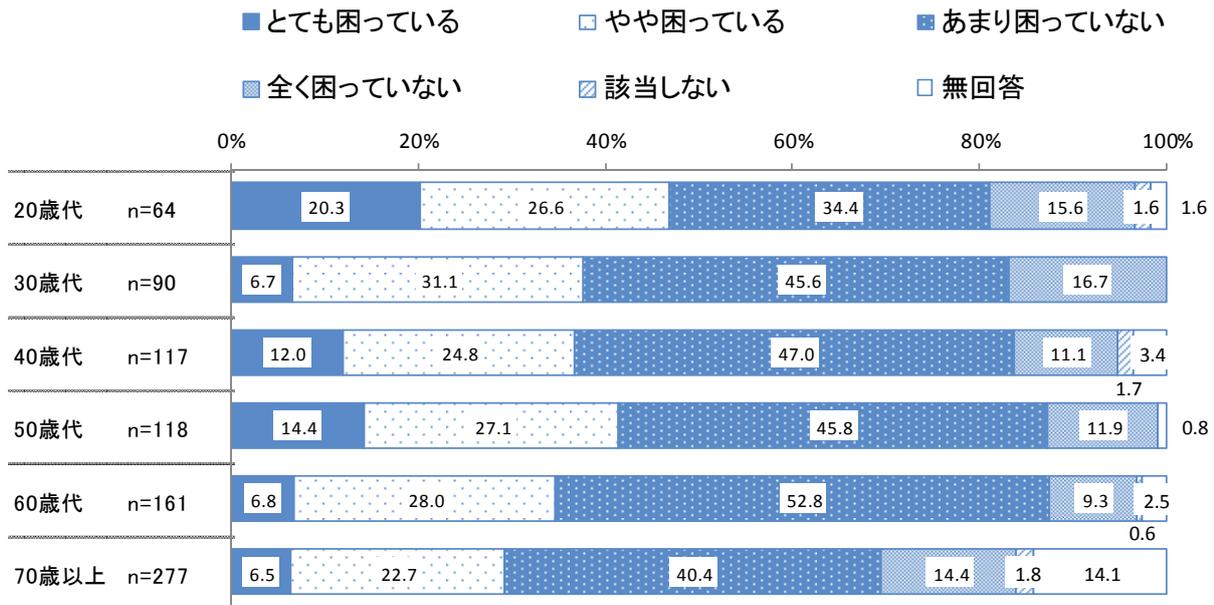
- 夫婦が年をとり、身体が不自由になったときの入居施設の空き状態。ケアハウスの情報（価格も含めて）の不足。
- 親の老化に伴う心身の変化。
- 高齢者の介護の負担。
- 家族の介護。
- 親の介護がいつのしかかってくるか心配（子育てで精一杯）。
- 子どもがいないので、他界をする間際（1～2年）が心配。
- 自分に体力がなく（疲れやすい）、家の中の片付け等ができない。シルバー人材センターなどの利用も考えるが、すぐ踏み出せないでいる。

生活費など経済的問題

【問8 年代別】

➤ 20歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が最も高い

生活費など経済的問題について、年代別にみると、20歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が46.9%と最も高くなっています。一方で、70歳以上では「とても困っている」と「やや困っている」の合計が29.2%と最も低くなっています。



図表 47 年代別にみた生活費など経済的問題について

③生活費など経済的問題

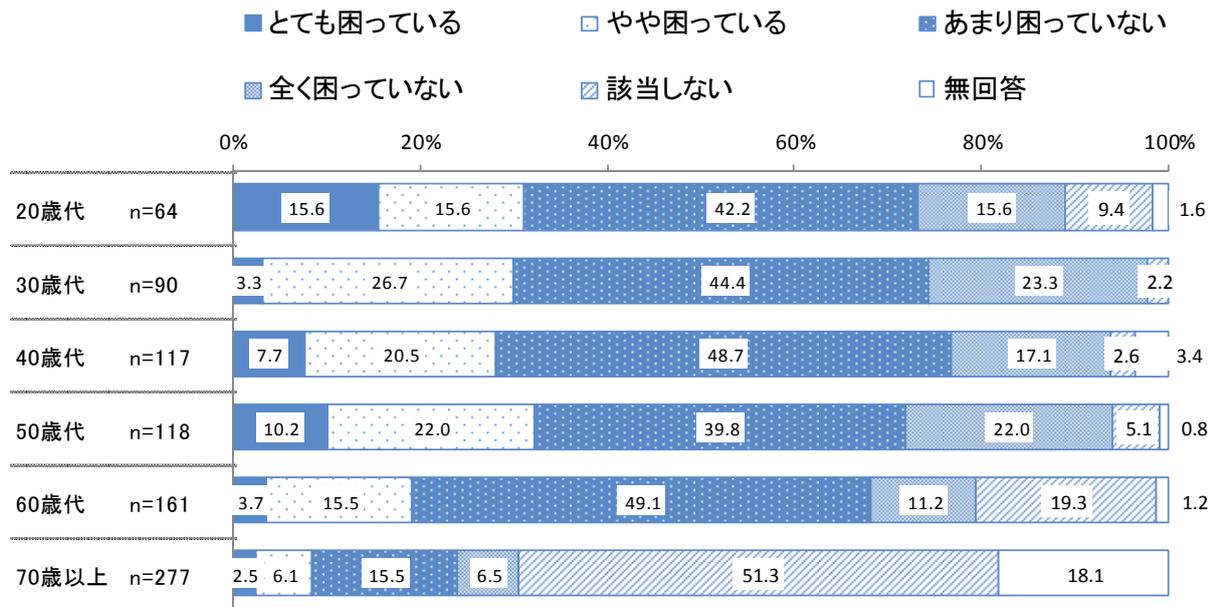
- これから子どもの大学にかかる学費等にお金がかかり、(私立大学・県外下宿などの場合かなりの費用になります) 学費の支払いも大変、老後の貯蓄もなかなかできず老後もとても心配です。
- 夫婦ともに親が夫と死別しており、又、年齢、移動(車がない)、経済面が不安な状態でまだ手のかかる子どもがいて仕事もあり、頼りたいときに頼れないうえに、介護、生活&経済面での世話が必要で、どこに相談をしていいのかわからない。
- 夫の収入だけでは生活できない。子どもがまだ小さいので私が働くこともできず、いつもカツカツで先が不安。夫は休みなく働いてくれてはいるが、おかげで身体の不調があっても病院に行く時間がなく、それも心配。

仕事

【問8 年代別】

➤ 20歳代から50歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が約3割

仕事について、年代別にみると、20歳代から50歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が約3割となっており、50歳代で32.2%と最も高くなっています。



図表 48 年代別にみた仕事について

④仕事

- 仕事で給料の遅配があり、経済的に困っています。
- 現在では週に何日とか、まだ働けていて収入につながりますが、もう少し年齢が上がって働ける場所がないと収入面が不安です。

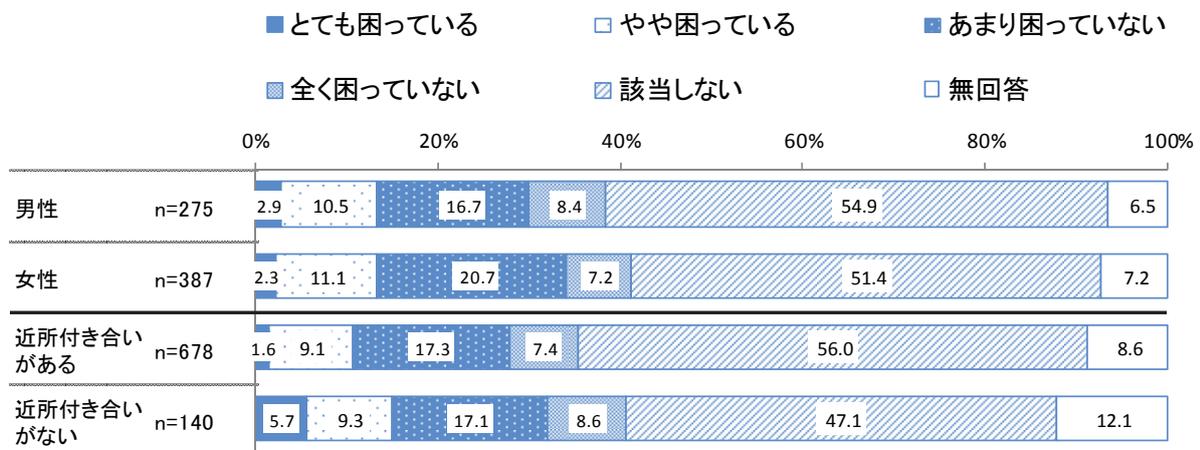
出産・育児・子育て

【問8 男女・近所付き合いの有無別】

➤ 「近所付き合いがない」で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が高い

出産・育児・子育てについて、男女別にみても、それぞれの項目で大きく違いはありません。

近所付き合いの有無別にみると、「近所付き合いがない」で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が 15.0%となっており、近所付き合いがある(10.7%)と比べると、高くなっています。



図表 49 男女・近所付き合いの有無別にみた出産・育児・子育てについて

⑤ 出産・育児・子育て

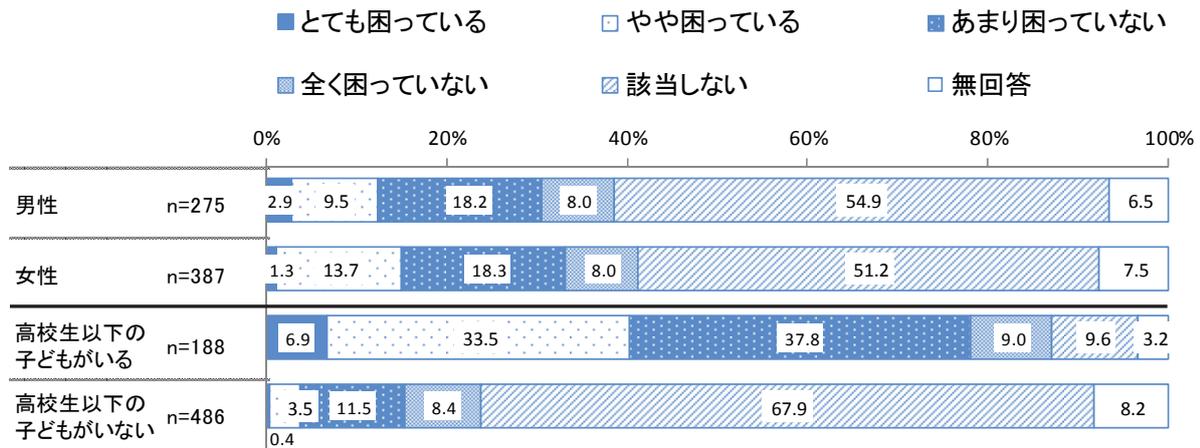
- ・近所の小学校の学童が 18 時までなので困っています。19 時までやってほしいです。
- ・七郷校区は生徒数（720 くらい）が多いため、児童館が 3 年生までで、それ以外の生徒は受け入れてもらえない。岐阜市の学校によっては 6 年生までと聞いている。
- ・子育て中ですが、今後、児童クラブなど利用しなければいけません。どこに行けばいいのかわかりません。
- ・未就園児の一時保育は殆どいっぱいなので預けられない。（私立保育園は一時保育をやっていない）。

子どもの教育

【問8 男女・高校生以下の子どもの有無別】

- 高校生以下の子どもがいるで「とても困っている」と「やや困っている」の合計が4割以上

子どもの教育について、男女別にみても、それぞれの項目で大きく違いはありません。高校生以下の子どもの有無別にみると、高校生以下の子どもがいるで、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は40.4%となっています。



図表 50 男女・高校生以下の子どもの有無別にみた子どもの教育について

⑥子どもの教育

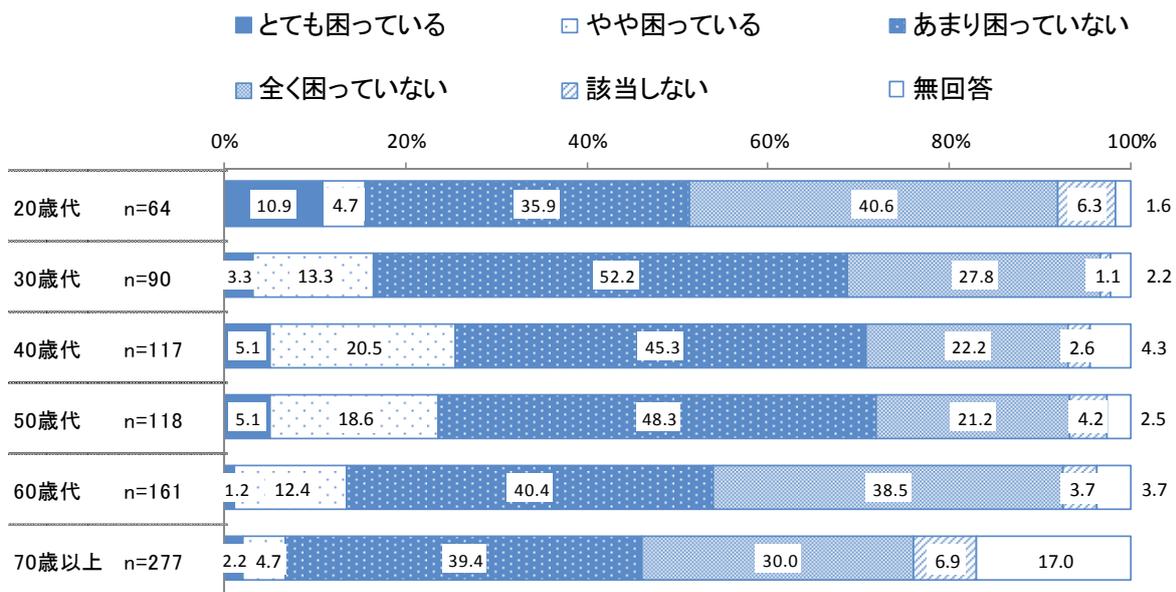
- 収入に対して教育費の占める割合があまり持てない（もう少し、金銭的に余裕があるなら教育費にあてるのに）。
- 近くの学生の行動がよくない。
- 子どもの教育について過去に困った。公立小中学校の教員の資質がよくなかった。教員としてふさわしくない人材を採用しないほしい。
- 子どもの教育について、中学校の授業中の怪我について連絡がないし、保険手続きの案内もされなかった。そのため、未だに治療費を自己負担している。これ以上、この市で子どもを産んだりしたいとは思わない。

家族・親族との人間関係

【問8 年代別】

➤ すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7~8割程度

家族・親族との人間関係について、年代別にみると、すべての年代で、「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7~8割程度を占めています。一方で、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は、40歳代が25.6%と最も高くなっています。次いで、50歳代（23.7%）となっています。



図表 51 年代別にみた家族・親族との人間関係について

⑦家族・親族との人間関係

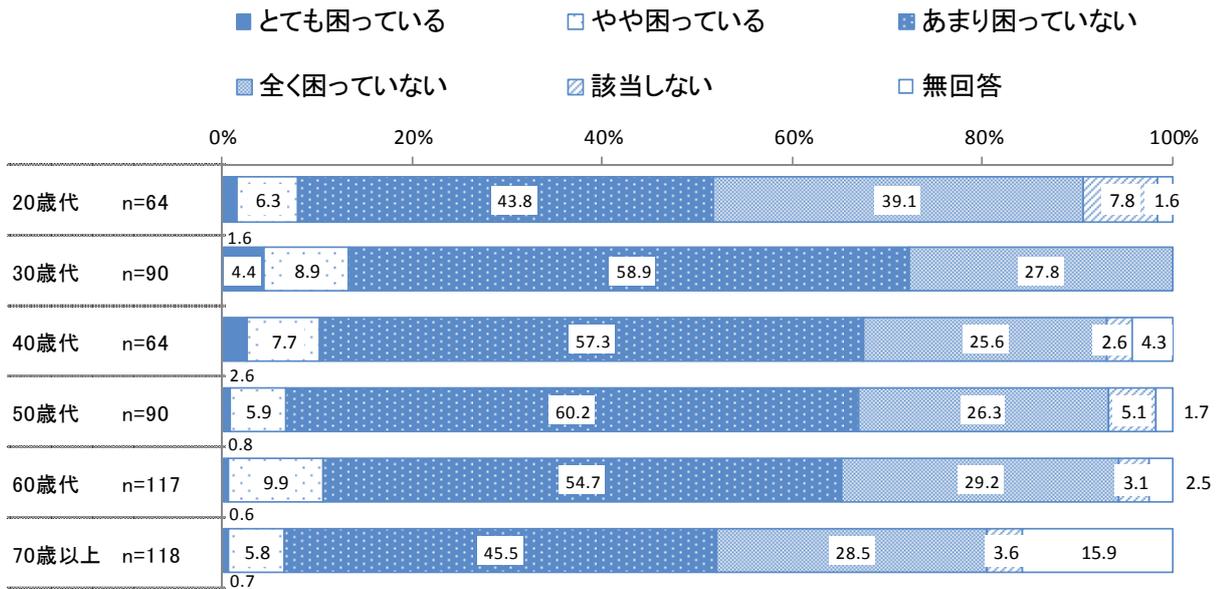
・母親のお金を頼りに、子どもが経済的に自立しない場合がある。

近所や知人・友人との人間関係

【問8 年代別】

➤ すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上

近所や知人・友人との人間関係について、年代別にみると、すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上となっています。一方で、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は、30歳代が13.3%と最も高くなっています。



図表 52 年代別にみた近所や知人・友人との人間関係について

⑧近所や知人・友人との人間関係

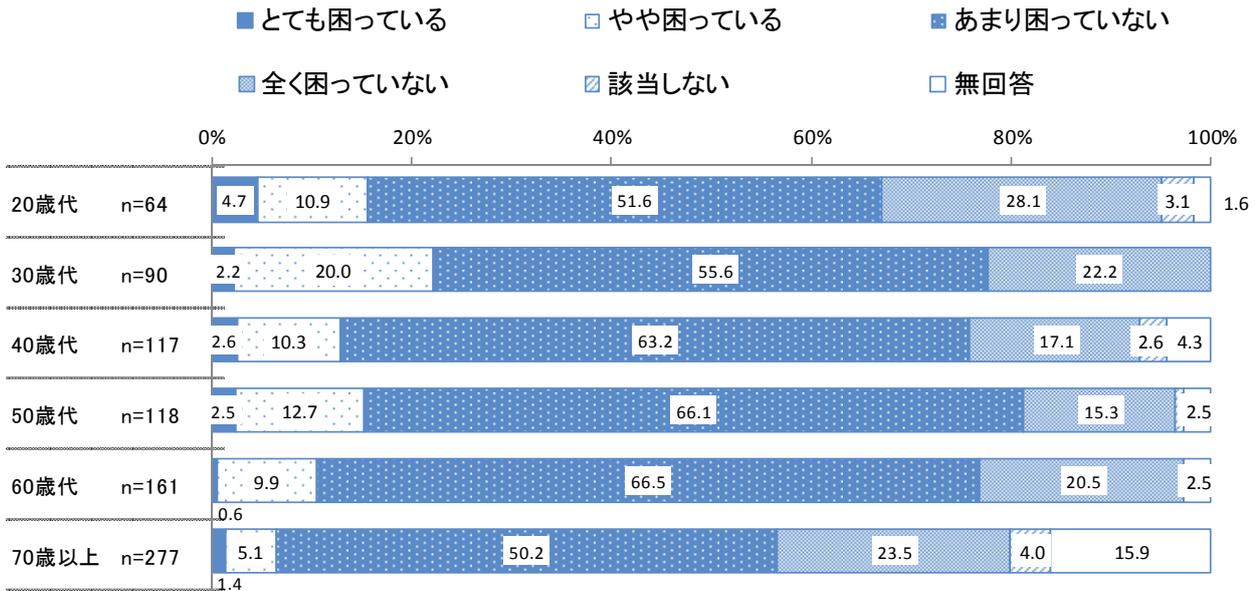
- ・子ども会の役員決めルールなどがよくわからないまま、次の人がいつのまにか決まっている。地元出身の人達、長く住んでいる人達と壁を感じる（転勤で岐阜市に転入）。
- ・近所付き合いが全くない。子どもが一人で外にいると怒られる状態、何とかならないですか。助け合いとは程遠いです。
- ・近所の方々との交流の機会が少ない、地域の困りごとを相談する相手が家族しかいない。

地域の治安

【問8 年代別】

➤ すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上

地域の治安について、年代別にみると、すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上となっています。一方で、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は、30歳代が22.2%と最も高くなっています。



図表 53 年代別にみた地域の治安について

⑨地域の治安

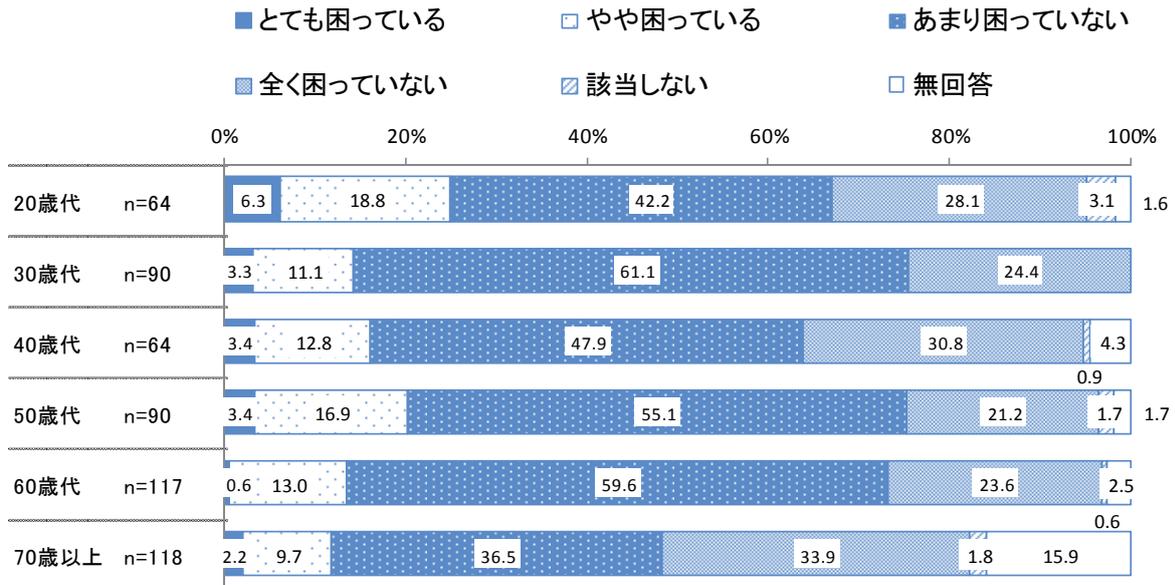
- ・ご近所で空き巣があったと聞いた。岐阜市の田舎でもあると思うと怖い。
- ・空き巣に対する対策（防犯カメラの設置/街灯の設置等の普及）
- ・過去に同居居の空いている部屋に入居していた人の侵入や（勝手にトイレ、無断で駐車場を使うなど）、私物の放置があつて困った。
- ・野菜を育てているが、収穫時期になると盗まれるので何とかしてほしい。
- ・この1年くらい盗み（2~3回）に遭う。お金は警察に届け、後は洗濯物ほか。
- ・鶉地区は人が増えているのに道路が整備されていない。
- ・近所である柳ヶ瀬の治安が悪い、ガラが悪い。色々なイベントが行われているが、シャッターの下りた店は減らない。
- ・街路灯が少なく、夜が暗すぎて怖い。

住居・住まい

【問8 年代別】

➤ すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上

住居・住まいについて、年代別にみると、すべての年代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が7割以上となっています。一方で、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は、20歳代が25.1%と最も高くなっています。



図表 54 年代別にみた住居・住まいについて

⑩住居・住まい

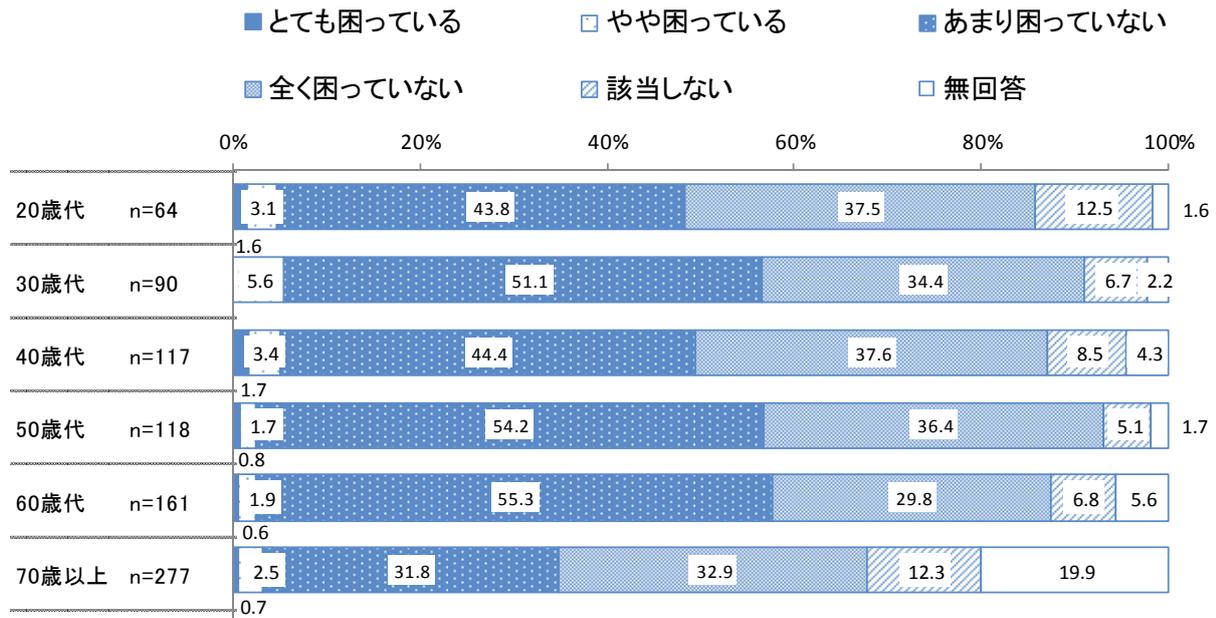
- ・家の老朽化。
- ・隣地（空き家付空き地）の雑草と雑木による虫対策。改善されないこと。
- ・住宅の高さ。
- ・空き家になっている家の垣根の木が道路端へ張り出して、家主が自主的に切除しない。児童の通学路でもある。
- ・病気が色々多いため、病院を変わりたくない。近くに公団住宅があればよいと思います。
- ・家の老朽化に対し、身内の無関心に悩んでいます。

人権侵害

【問8 年代別】

- 20歳代から60歳代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が8割以上

人権侵害について、年代別にみると、20歳代から60歳代で「あまり困っていない」と「全く困っていない」の合計が8割以上となっています。すべての年代で、「とても困っている」と「やや困っている」の合計は1割未満となっています。



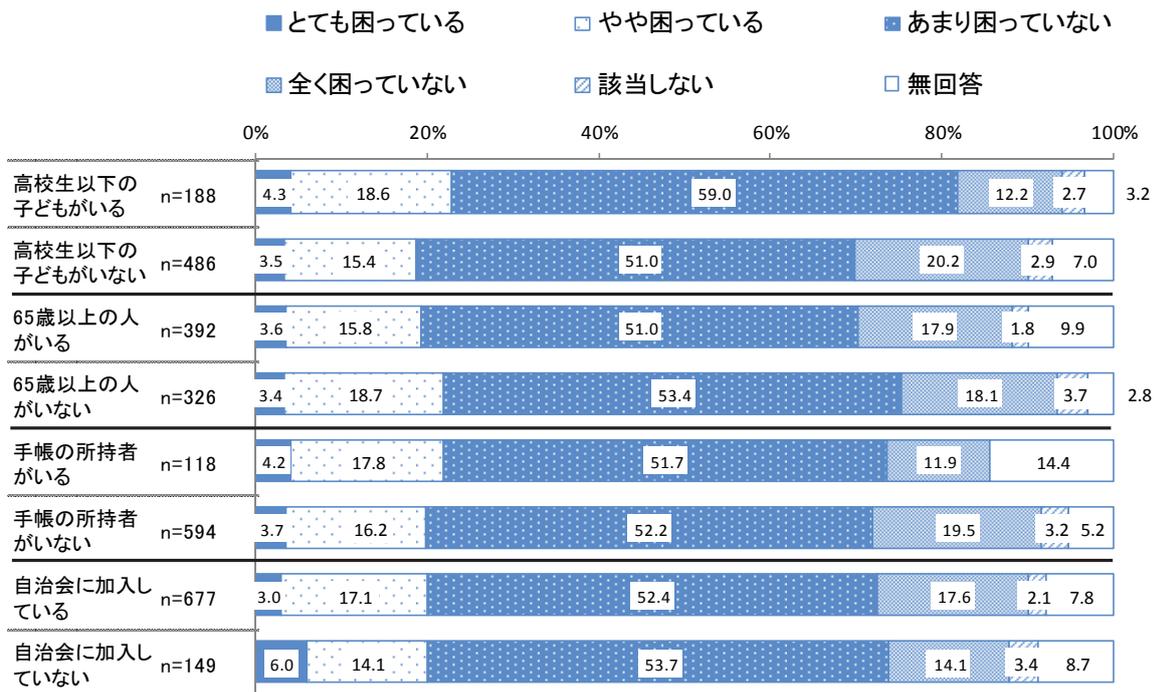
図表 55 年代別にみた人権侵害について

地域防災（地震・水害）

【問8 高校生以下の子ども・65歳以上の人・手帳の所持者の有無別、自治会への加入の有無別】

➤ 高校生以下の子どもの有無・65歳以上の人・手帳の所持者の有無・自治会への加入の有無にかかわらず「とても困っている」と「やや困っている」の合計が2割程度

地域防災（地震・水害）について、高校生以下の子どもの有無別、65歳以上の人・手帳の所持者の有無別、自治会への加入の有無別にかかわらず、「とても困っている」と「やや困っている」の合計が、2割程度となっています。



図表 56 高校生以下の子どもの有無・65歳以上の人・手帳の所持者の有無・自治会への加入の有無別にみた地域防災（地震・水害）について

⑫地域防災（地震・水害）

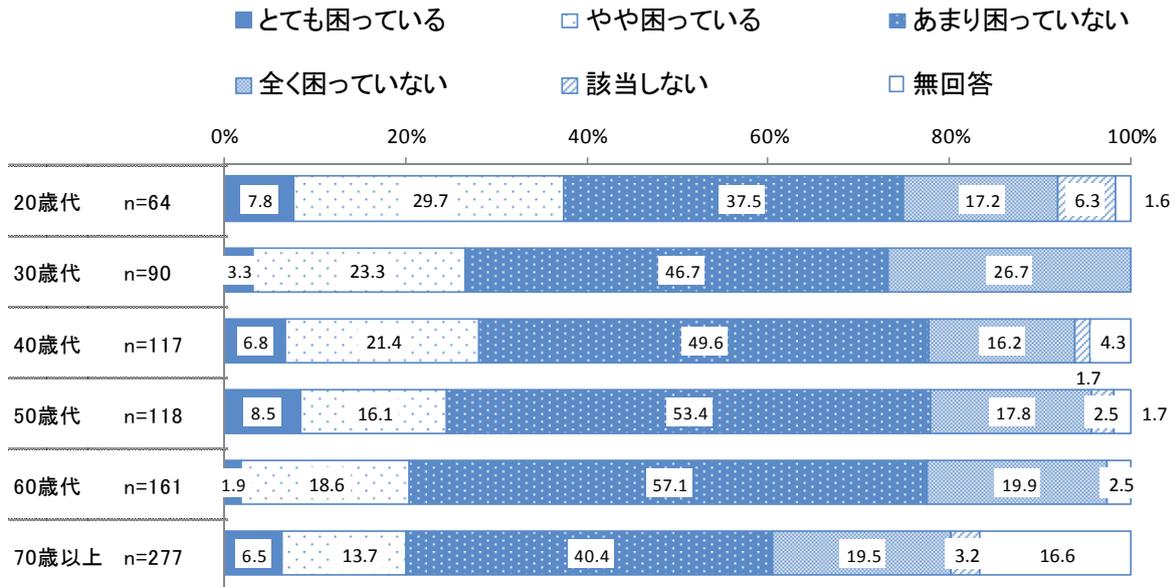
- ・水害に関しては不安を感じていなかったけど、先日の大雨で長良川が氾濫する可能性は想定外の雨が降る時はいずれ来るのだから感じました。今後、従来の想定を見直すべきだと思います。
- ・防災行政無線が聞こえない。
- ・水害などの場合、近所に高いビルがない。
- ・堤防（長良川など）決壊の場合、どこに避難したらいいのか防災マップでは不明。
- ・自宅のすぐ隣に流れている水路は、普段、水深5~10cmぐらいだが、最近のゲリラ的な雨の降り方の日には、大人の背を超える深さになり、いつ溢れるか心配です。
- ・先日、子どもが産まれたばかりで、ちょうど出産の直後に西日本豪雨があり、岐阜市も大雨だったので、今後、小さな赤ちゃんを連れて災害のときにどこに逃げるのがよいのか（避難生活のしやすさ、迷惑にならないかなど）不安に思っている。

公共交通・移動手段

【問8 年代別】

➤ 20歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が最も高い

公共交通・移動手段について、年代別にみると、20歳代で「とても困っている」と「やや困っている」の合計が37.5%と最も高くなっています。



図表 57 年代別にみた公共交通・移動手段について

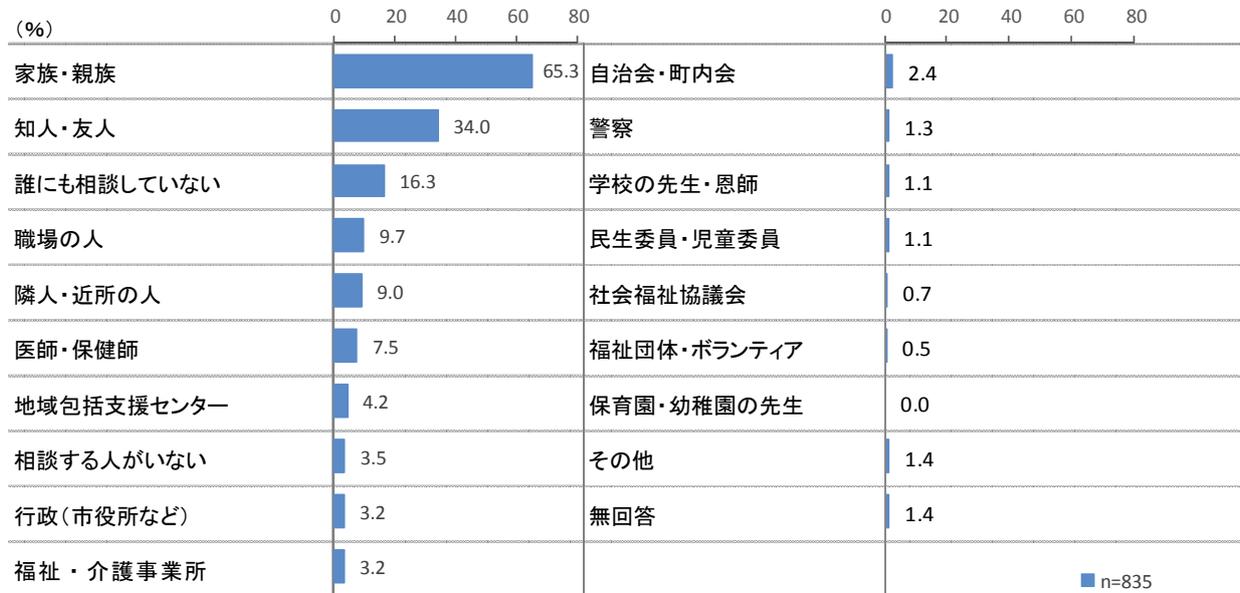
⑬公共交通・移動手段

- 車に乗れなくなったらと、早めに免許を返上したら、やはり毎日の買い物や通院など困るだろうなと考える。
- 岐阜バスについて。縦の便（JR、名鉄方面）は良いが、横の便が悪い。何度も乗り換えをしないといけなかったり、バスが来る時間の間隔が長い。
- 岐阜方面に行く電車はありますが、各務原方面（北東）へ行くバス等の交通機関が少ない。
- バス停が近くにない。今は車があるが、将来心配。
- 公共交通、移動手段。岐阜バスが通る回数が少ないので車に乗れなくなったら、病院へ行くのも大変になると思う。
- 移動手段、公共交通がない。
- バス・JR 駅・スーパーから離れており、車の使用をやめたため、生活が不便。

問9 現在、暮らしの困りごとや不安を誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

➤ 「家族・親族」が6割以上

暮らしの困りごとや不安の相談先は、「家族・親族」が65.3%と最も高くなっています。次いで、「知人・友人」(34.0%)、「誰にも相談していない」(16.3%)、「職場の人」(9.7%)、「隣人・近所の人」(9.0%)となっています。



図表 58 暮らしの困りごとや不安の相談先

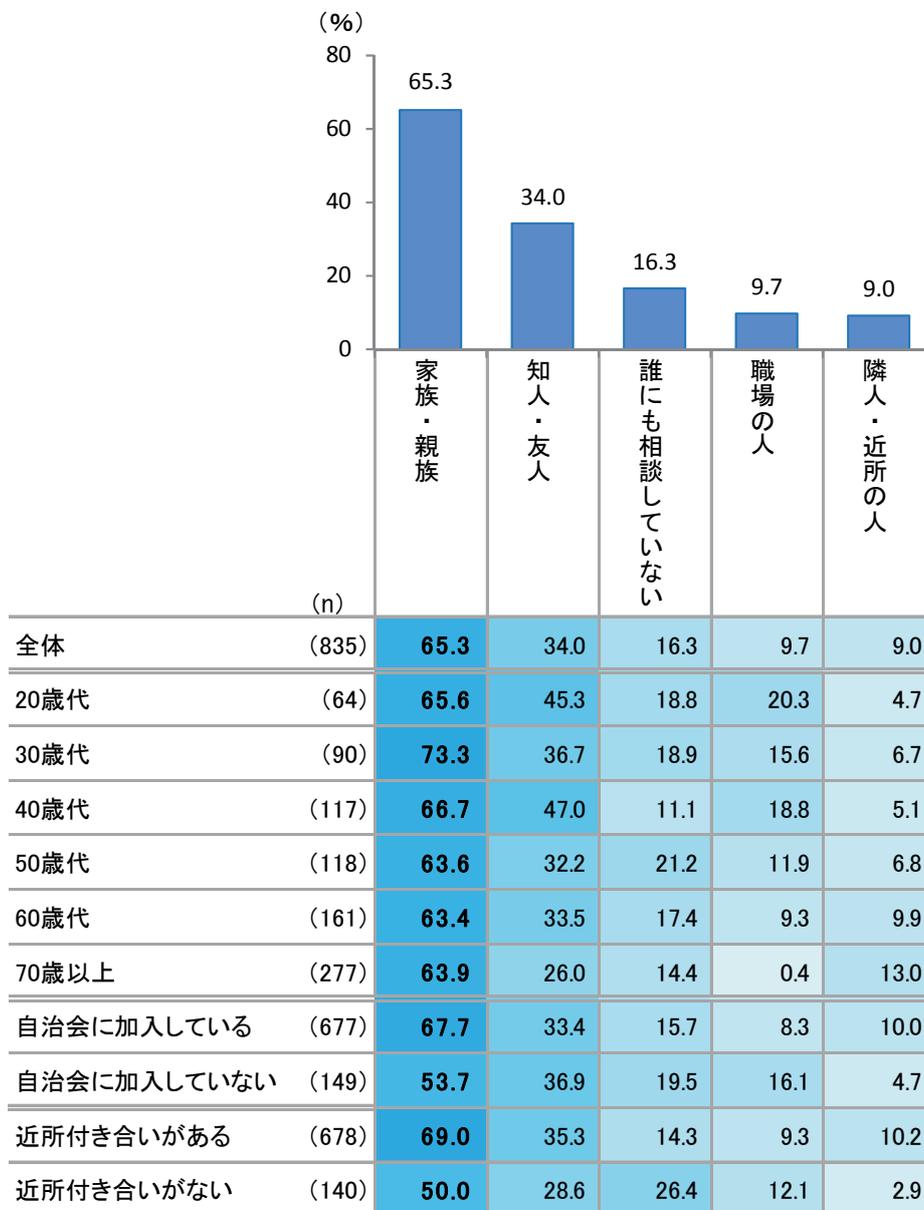
【問9 年代・自治会への加入の有無・近所付き合いの有無別】

➤ 「近所付き合いがない」で「誰にも相談していない」が2割以上

前ページの上位5つの項目について年代別にみると、「家族・親族」は30歳代、「知人・友人」は40歳代、「誰にも相談していない」は50歳代、「職場の人」は20歳代、「隣人・近所の人」は70歳以上が最も高くなっています。

同様の項目について、自治会への加入の有無別にみると、「加入していない」で「誰にも相談していない」が19.5%と、「加入している」と比べ高くなっています。

さらに、近所付き合いの有無別にみると、「近所付き合いがない」で「誰にも相談していない」が26.4%と、「近所付き合いがある」と比べ高くなっています。



図表 59 年代・自治会への加入の有無・近所付き合いの有無別にみた暮らしの困りごとや不安の相談先について

5) 児童福祉について

問10 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

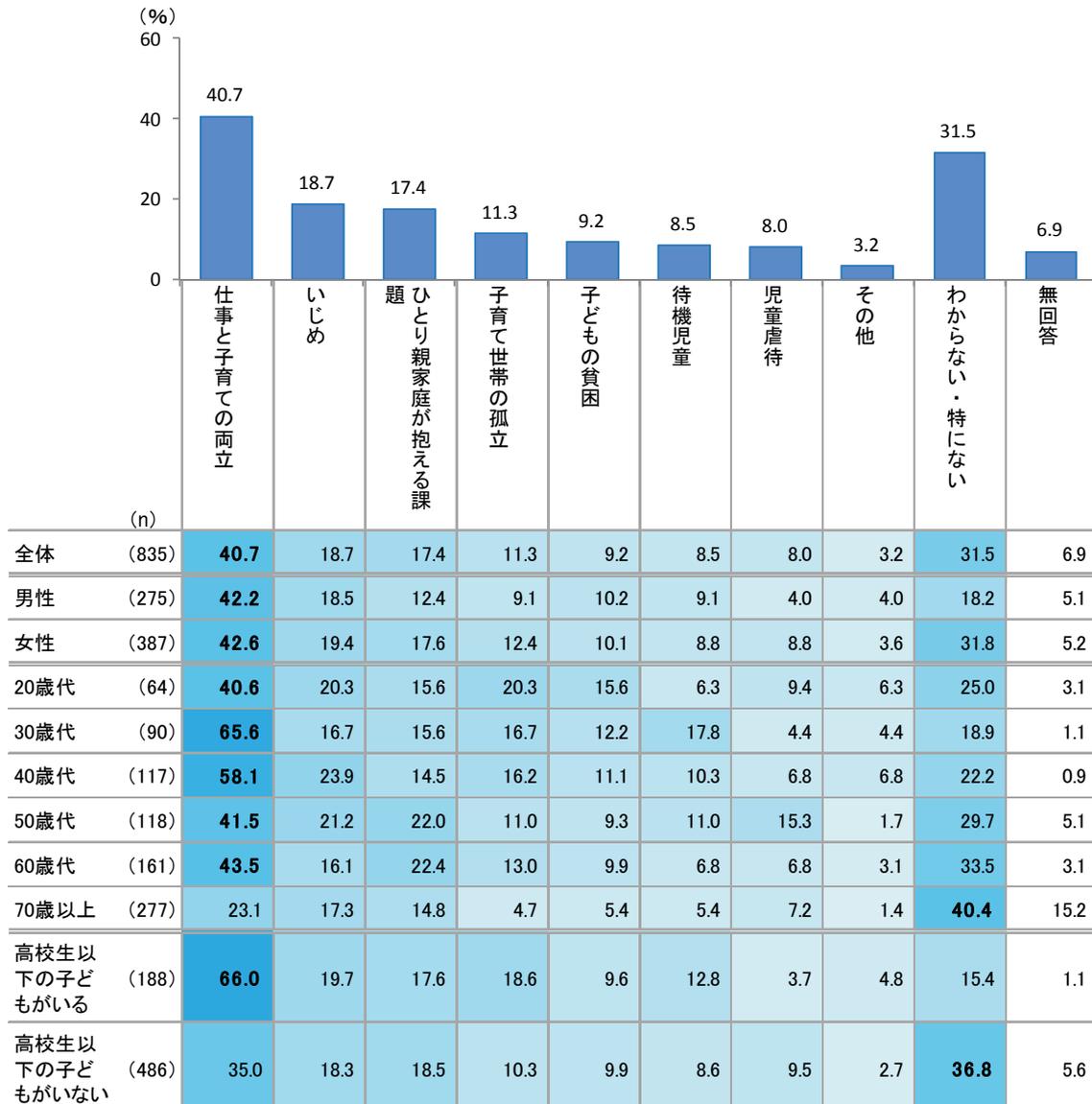
▶ 「仕事と子育ての両立」が4割以上

子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題については、「仕事と子育ての両立」が40.7%と最も高くなっています。次いで、「いじめ」(18.7%)、「ひとり親家庭が抱える課題」(17.4%)となっています。

男女別にみると、男女ともに「仕事と子育ての両立」が最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代から60歳代までは「仕事と子育ての両立」が4割以上となっており、30歳代で65.6%と最も高くなっています。次いで、40歳代(58.1%)となっています。

高校生以下の子どもの有無別にみると、高校生以下の子どもが「いる」では「仕事と子育ての両立」が66.0%と最も高くなっています。高校生以下の子どもが「いない」でも、「わからない・特にない」を除いて、「仕事と子育ての両立」が35.0%と最も高くなっています。

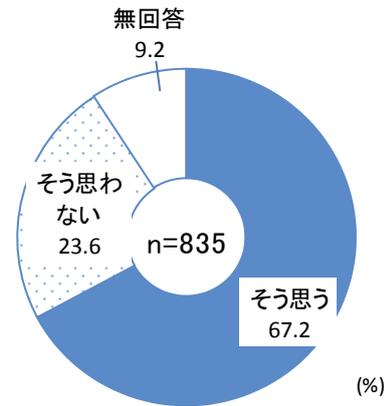


図表 60 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題

問11 あなたの地域は、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境だと思いますか。(〇は1つ)

➤ 「思う」が約7割

子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境については、「思う」が67.2%と約7割を占めています。



図表 61 子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境

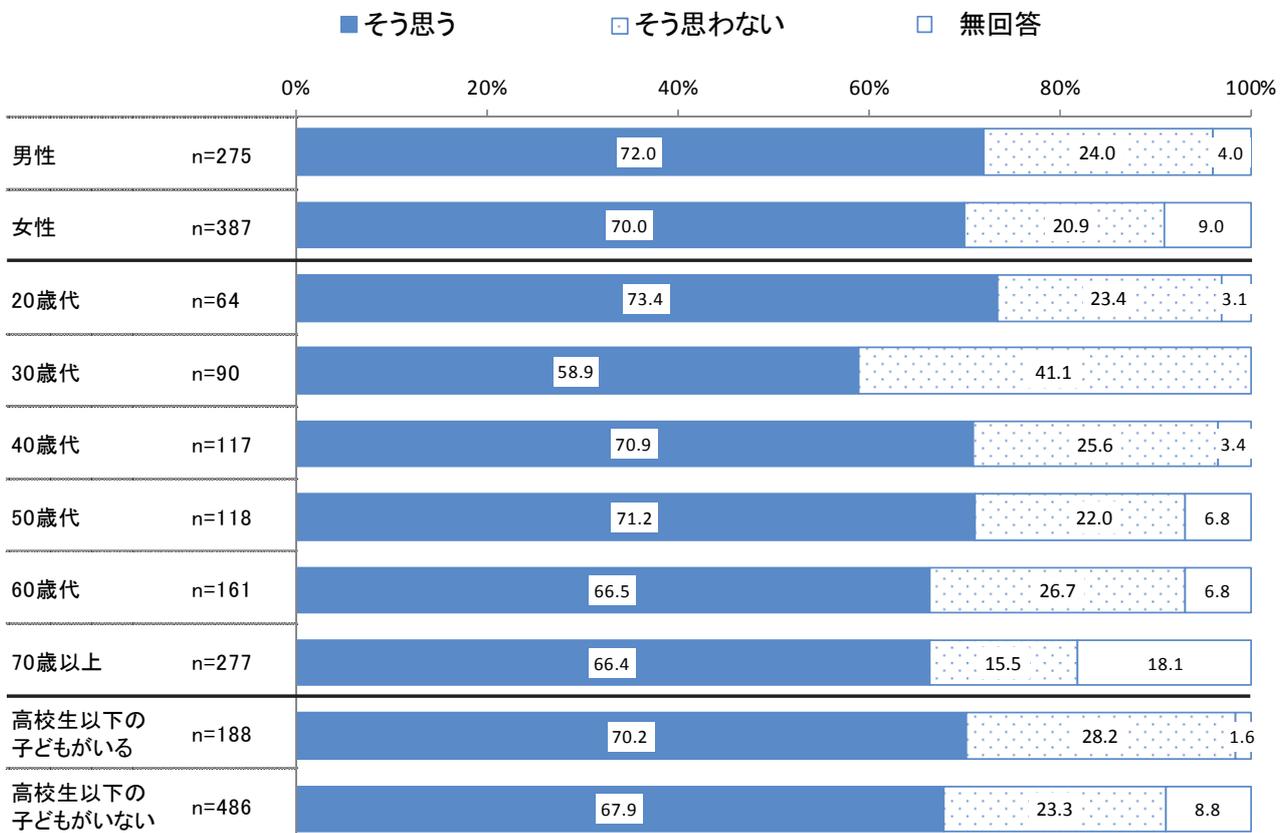
【問11 男女・年代・高校生以下の子どもの有無別】

➤ 30歳代で「思うわない」が4割以上

子ども・子育て世帯が安心して暮らせる環境について、男女別にみると、それぞれの項目で大きく違いはありません。

年代別にみると、30歳代の「思うわない」が41.1%と最も高くなっています。

高校生以下の子どもの有無別にみると、それぞれの項目で大きく違いはありません。

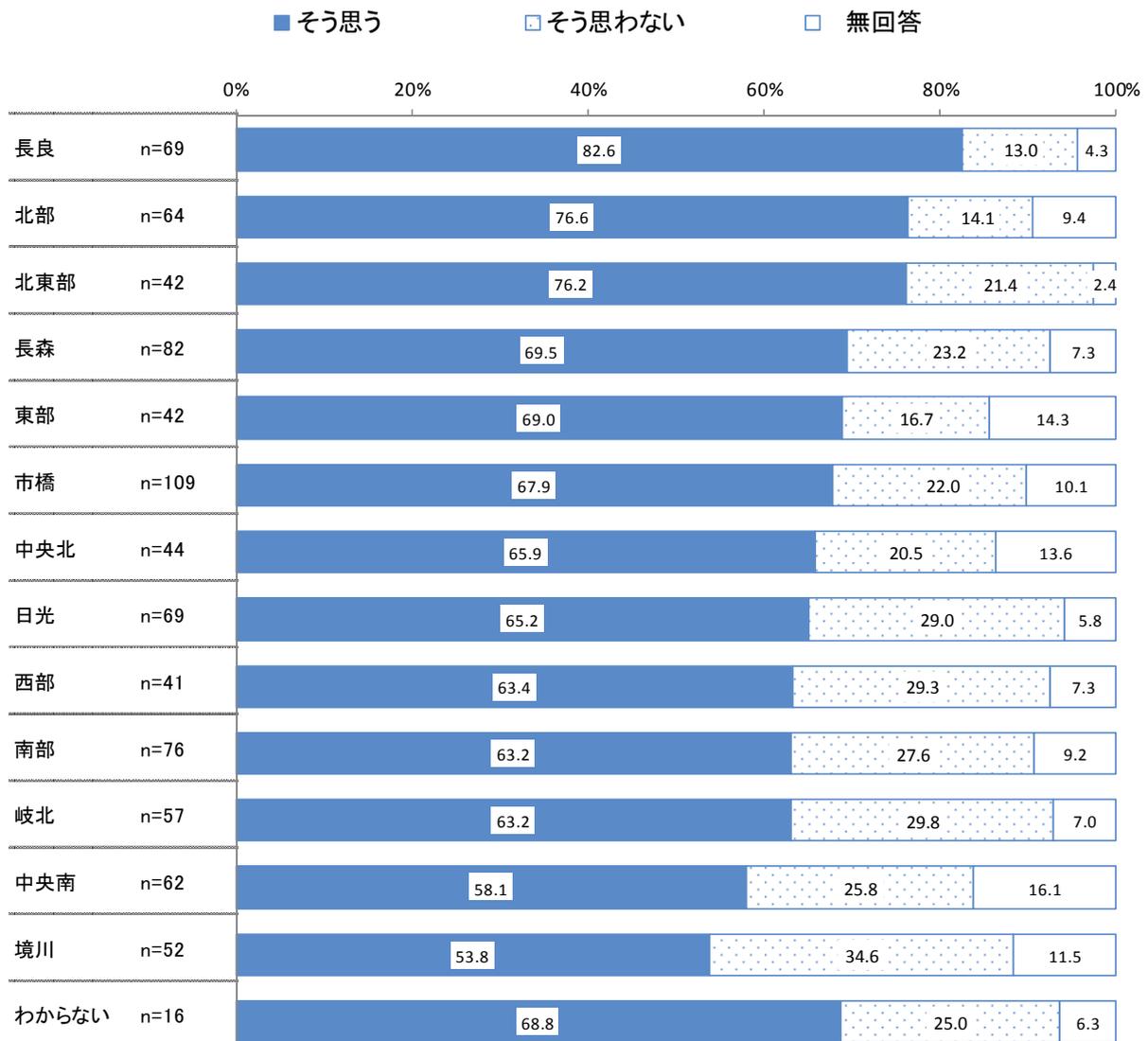


図表 62 男女・年代・高校生以下の子どもの有無別に見た環境について

【問 1 1 居住地域別】

➤ 「長良」で「そう思う」が8割以上

子ども・子育て世帯が安心して暮らせる環境について、居住地域別にみると、「長良」で「そう思う」が82.6%と最も高くなっています。次いで、「北部」(76.6%)、「北東部」(76.2%)となっています。一方で、「そう思わない」では、「境川」が34.6%と最も高くなっています。



図表 63 居住地域別にみた環境について

問12 地域で子どもや子育て世帯を見守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

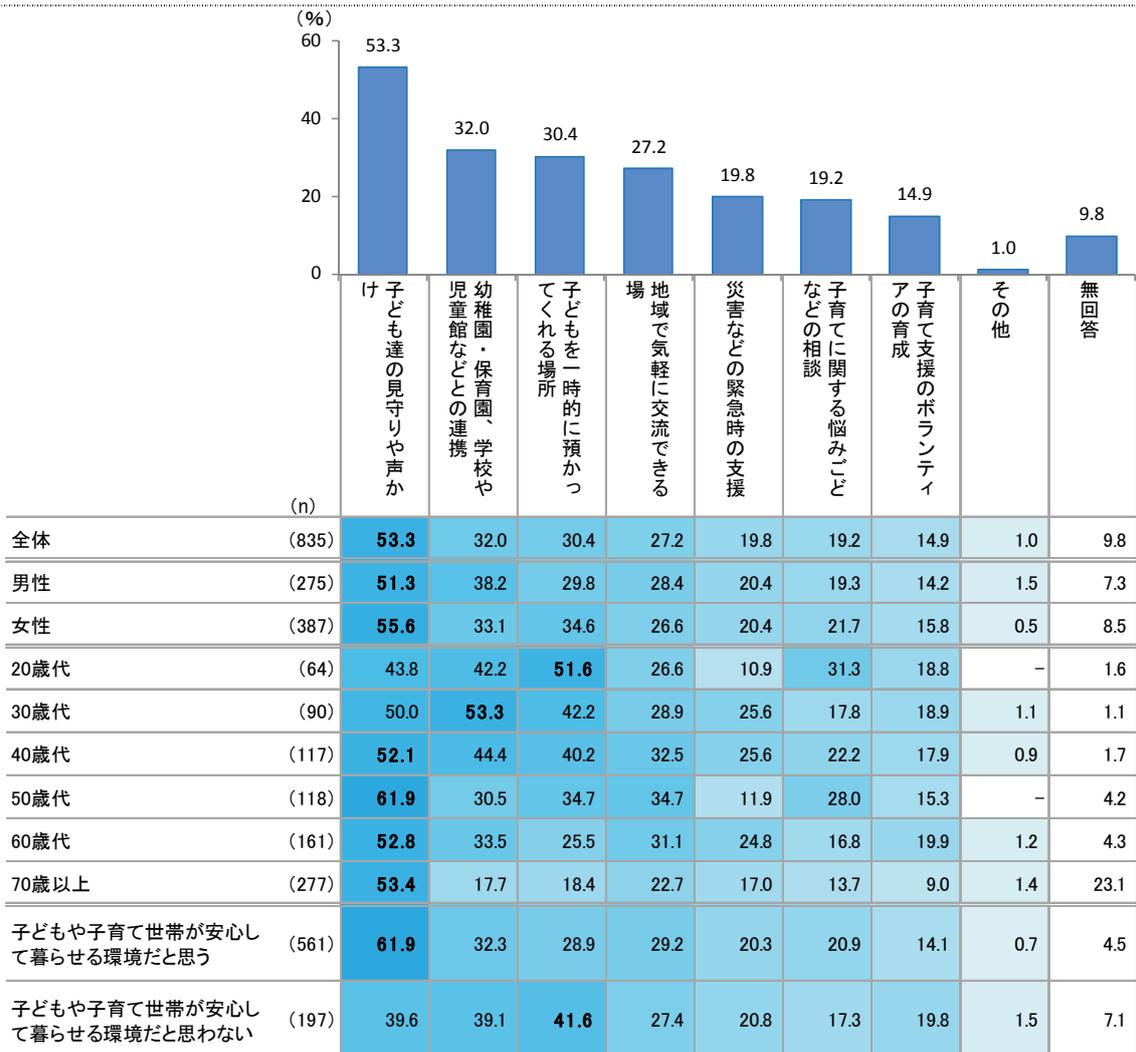
➤ 「子ども達の見守りや声かけ」が5割以上

子どもや子育て世帯を見守るために必要なことは、「子ども達の見守りや声かけ」が53.3%と最も高くなっています。次いで、「幼稚園・保育園、学校や児童館などとの連携」(32.0%)、「子どもを一時的に預かってくれる場所」(30.4%)となっています。

男女別にみると、男女ともに「子ども達の見守りや声かけ」が5割を超えており、女性の55.6%が男性(51.3%)を上回っています。次いで、男性では「幼稚園・保育園、学校や児童館などとの連携」(38.2%)となっています。女性では、「子どもを一時的に預かってくれる場所」(34.6%)となっています。

年代別にみると、40歳代から70歳以上では「子ども達の見守りや声かけ」が5割以上で、50歳代の61.9%が最も高くなっています。20歳代では、「子どもを一時的に預かってくれる場所」が51.6%と最も高くなっています。30歳代では、「幼稚園・保育園、学校や児童館などとの連携」が53.3%と最も高くなっています。

子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境だと「思わない」では、「子どもを一時的に預かってくれる場所」が41.6%と、最も高くなっています。



図表 64 地域で子どもや子育て世帯を見守るために必要なこと

問13 あなたは子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると
 思いますか。(〇はいくつでも)

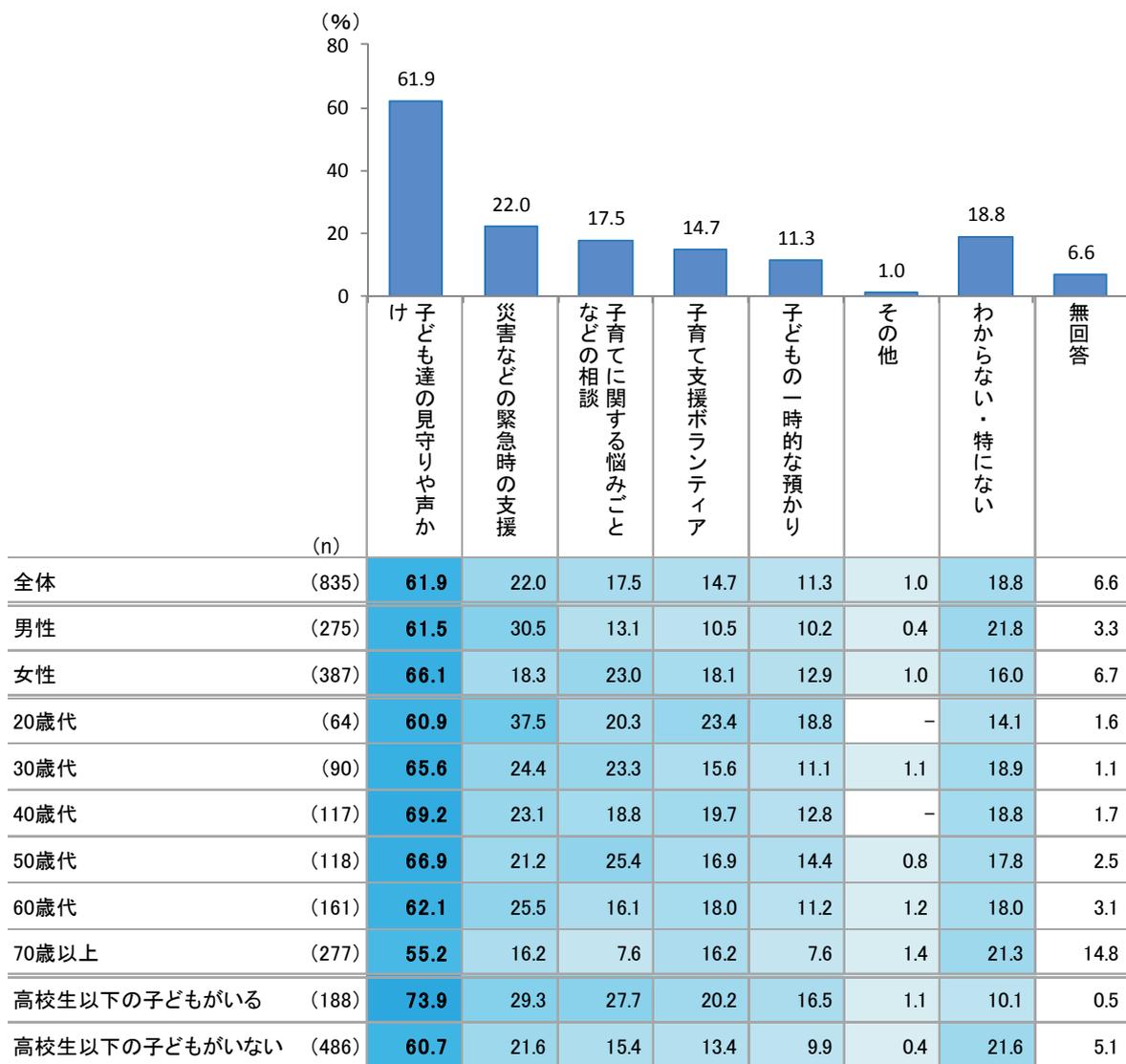
➤ 「子ども達の見守りや声かけ」が6割以上

子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「子ども達の見守りや声かけ」が61.9%と最も高くなっています。次いで、「災害などの緊急時の支援」(22.0%)、「子育てに関する悩みごとなどの相談」(17.5%)となっています。

男女別にみると、男女ともに「子ども達の見守りや声かけ」が6割を超えており、女性の66.1%が男性(61.5%)を上回っています。次いで、男性では「災害などの緊急時の支援」(30.5%)、女性では「子育てに関する悩みごとなどの相談」(23.0%)となっています。

年代別にみると、すべての年代で「子ども達の見守りや声かけ」が5割以上となっており、40歳代で69.2%と最も高くなっています。

高校生以下の子どもの有無別にみると、高校生以下の子どもが「いる」で、「子ども達の見守りや声かけ」が73.9%と最も高くなっています。また、「わからない・特にない」「無回答」を除いたすべての項目で、高校生以下の子どもが「いる」の方が高い傾向にあります。



図表 65 子どもや子育て世帯に対してできること

6) 高齢者福祉について

問14 高齢者をとりまく岐阜市の課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

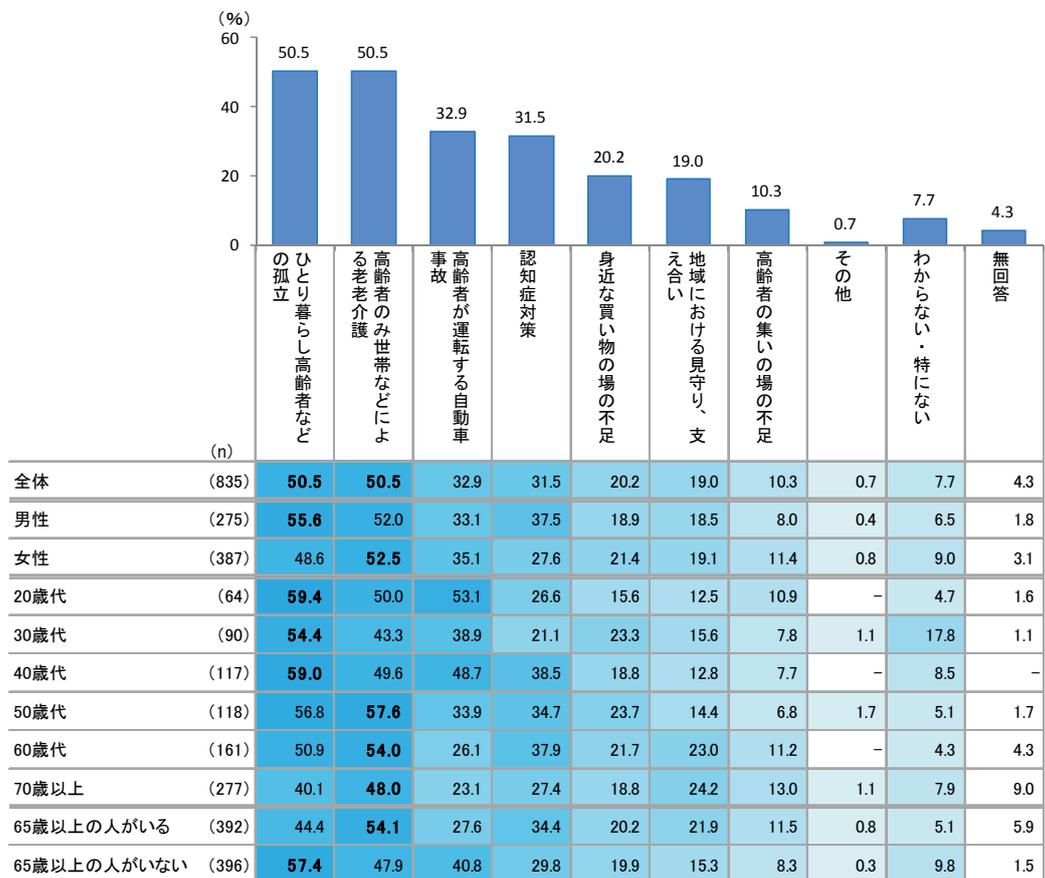
➤ 「ひとり暮らし高齢者などの孤立」「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が5割以上

高齢者をとりまく岐阜市の課題については、「ひとり暮らし高齢者などの孤立」「高齢者のみ世帯などによる老老介護」がともに50.5%と最も高くなっています。次いで、「高齢者が運転する自動車事故」(32.9%)、「認知症対策」(31.5%)となっています。

男女別にみると、男性では「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が55.6%と最も高く、次いで、「高齢者のみ世帯などによる老老介護」(52.0%)、「認知症対策」(37.5%)となっています。女性では、「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が52.5%と最も高く、次いで、「ひとり暮らし高齢者などの孤立」(48.6%)、「高齢者が運転する自動車事故」(35.1%)となっています。

年代別にみると、20歳代から40歳代では「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が高くなっており、20歳代の59.4%が最も高くなっています。30歳代と40歳代では「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が次に高くなっており、20歳代では「高齢者が運転する自動車事故」が高くなっています。一方で、50歳代から70歳以上では「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が高くなっており、50歳代の57.6%が最も高くなっています。

65歳以上の人の有無別にみると、65歳以上の人がある「いる」では、「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が54.1%と最も高くなっています。65歳以上の人がない「いない」では、「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が57.4%と最も高くなっています。

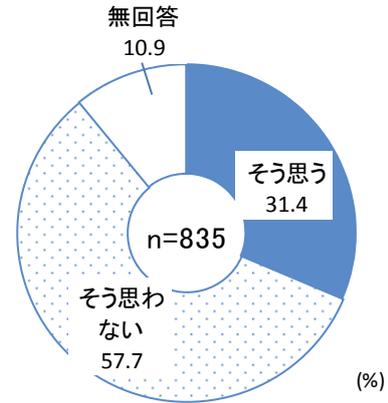


図表 66 高齢者をとりまく岐阜市の課題

問15 あなたの地域では、高齢者との交流やつながりがあると思いますか。(〇は1つ)

➤ 「そう思わない」が約6割

高齢者との交流やつながりの有無については、「そう思わない」が57.7%と約6割を占めています。



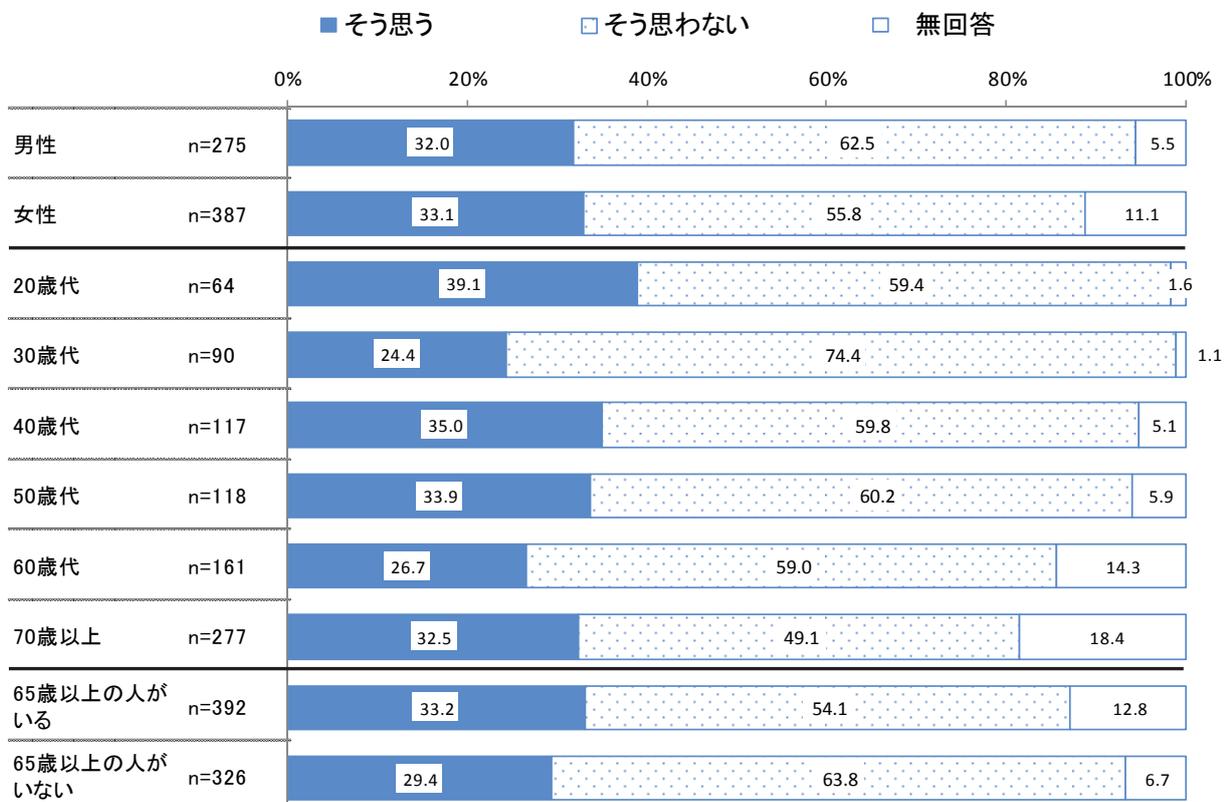
図表 67 高齢者との交流やつながり

【問15 男女・年代・65歳以上の人の有無別】

➤ 30歳代で「そう思わない」が7割以上

男女別にみると、「そう思わない」で男性が62.5%と、女性(55.8%)を上回っています。年代別にみると、「そう思わない」は、30歳代の74.4%が最も高くなっています。

65歳以上の人の有無別にみると、65歳以上の人が「いない」で「そう思わない」が63.8%と、65歳以上の人が「いる」(54.1%)を上回っています。

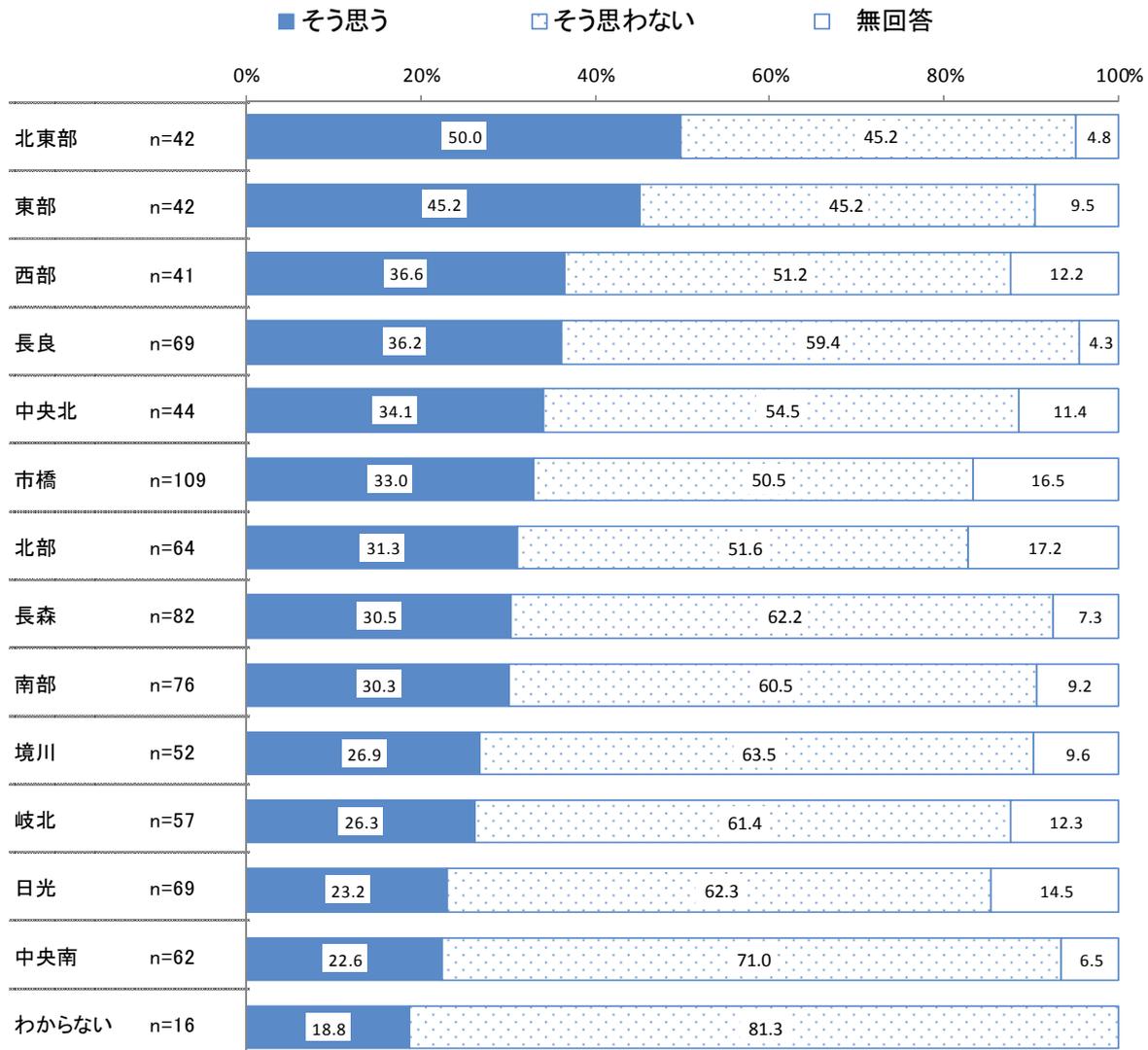


図表 68 男女・年代・65歳以上の人の有無別にみた高齢者との交流やつながりについて

【問15 居住地域別】

➤ 「中央南」で「そう思わない」が7割

居住地域別に高齢者との交流やつながりの有無についてみると、「そう思う」は、「北東部」の50.0%が最も高くなっており、次いで「東部」(45.2%)、「西部」(36.6%)となっています。一方、「そう思わない」は「中央南」の71.0%が最も高くなっており、次いで、「境川」(63.5%)、「日光」(62.3%)、「長森」(62.2%)となっています。



図表 69 居住地域別にみた高齢者との交流やつながりについて

問16 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくためには、どのような手助けが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

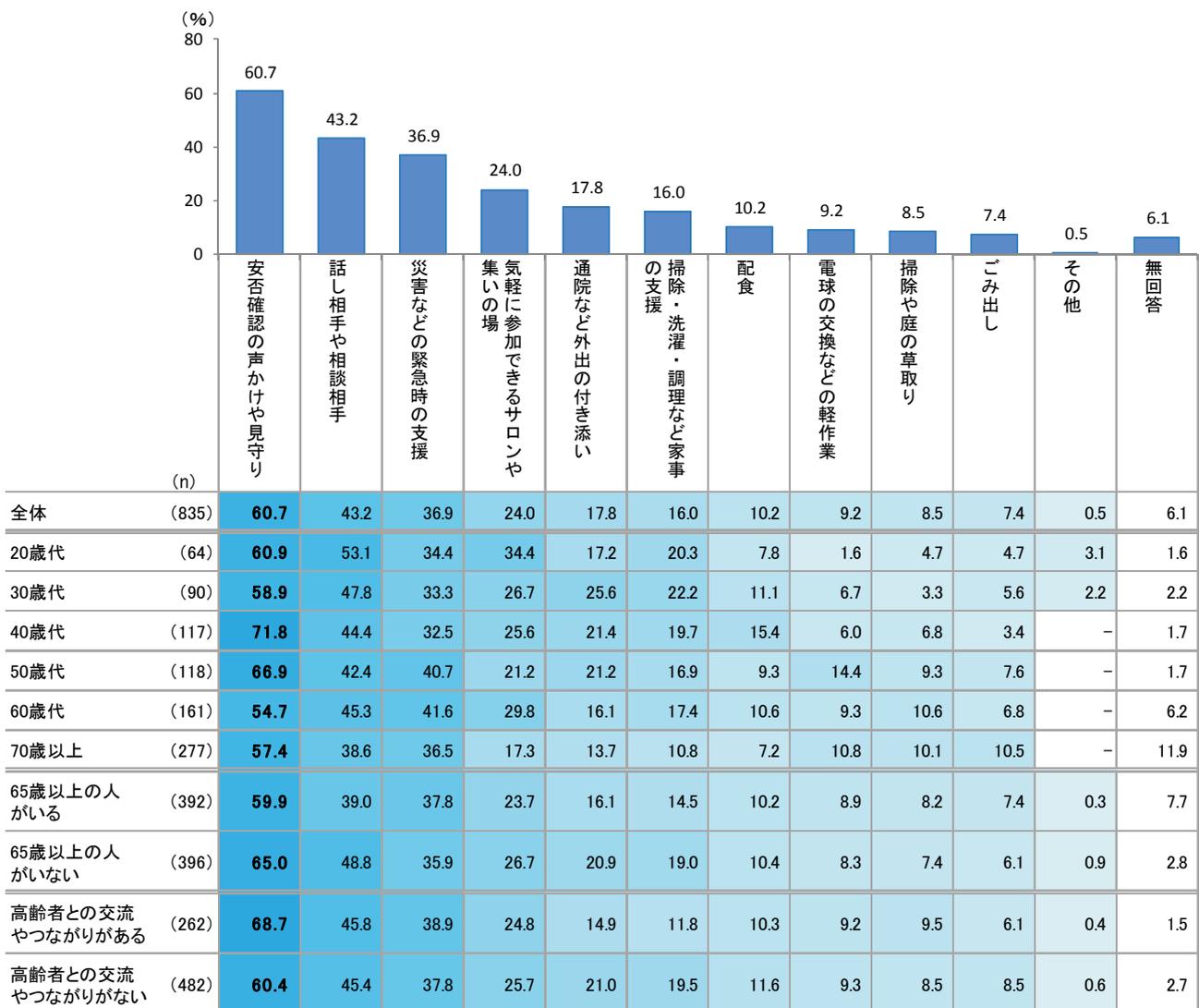
➤ 「安否確認の声かけや見守り」が6割以上

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助けは、「安否確認の声かけや見守り」が60.7%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(43.2%)、「災害などの緊急時の支援」(36.9%)となっています。

年代別にみると、すべての年代で「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっており、40歳代が71.8%と最も高くなっています。

65歳以上の人の有無別にみると、65歳以上の人が「いない」では「安否確認の声かけや見守り」が65.0%と、65歳以上の人が「いる」(59.9%)と比べ、高くなっています。

高齢者との交流やつながりの有無別にみると、交流やつながりが「ない」では「通院などの外出の付き添い」(21.0%)や「掃除・洗濯・調理などの家事の支援」(19.5%)が交流やつながりが「ある」と比べ、5ポイント以上高くなっています。



図表 70 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助け

問17 高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。
(〇はいくつでも)

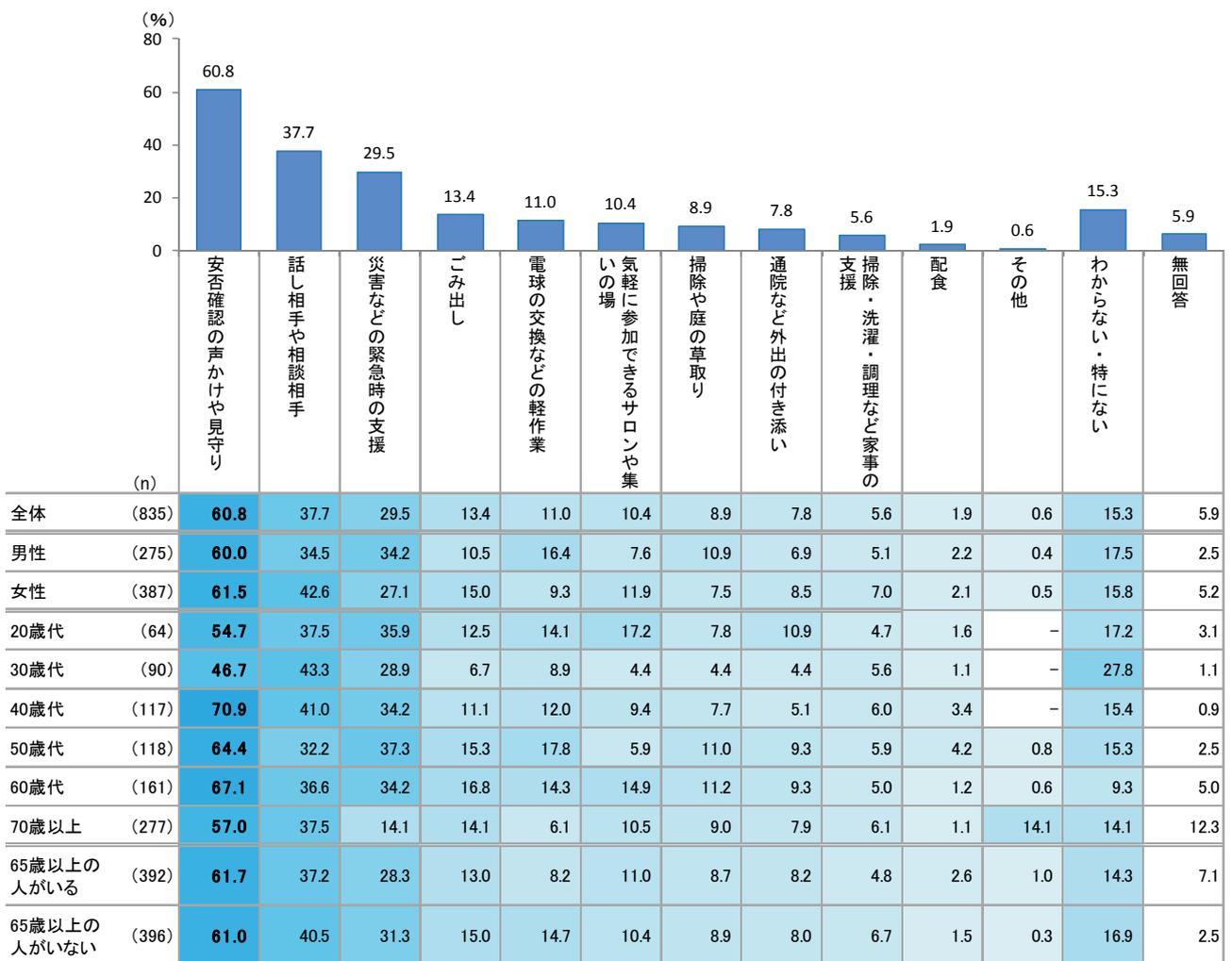
➤ 「安否確認の声かけや見守り」が6割以上

高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「安否確認の声かけや見守り」が60.8%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(37.7%)、「災害などの緊急時の支援」(29.5%)となっています。

男女別にみると、男女とも「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっています。

年代別にみると、すべての年代で、「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっており、40歳代が70.9%と最も高くなっています。多くの年代では「話し相手や相談相手」が次に高くなっていますが、50歳代では「災害などの緊急時の支援」が37.3%と高くなっています。

65歳以上の人の有無別にみると、どちらも「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっています。一方で、「電球の交換などの軽作業」においては、65歳以上の人が「いない」(14.7%)は65歳以上の人が「いる」(8.2%)を5ポイント以上上回っています。



図表 71 高齢者に対してできること

7) 障がい福祉について

問18 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

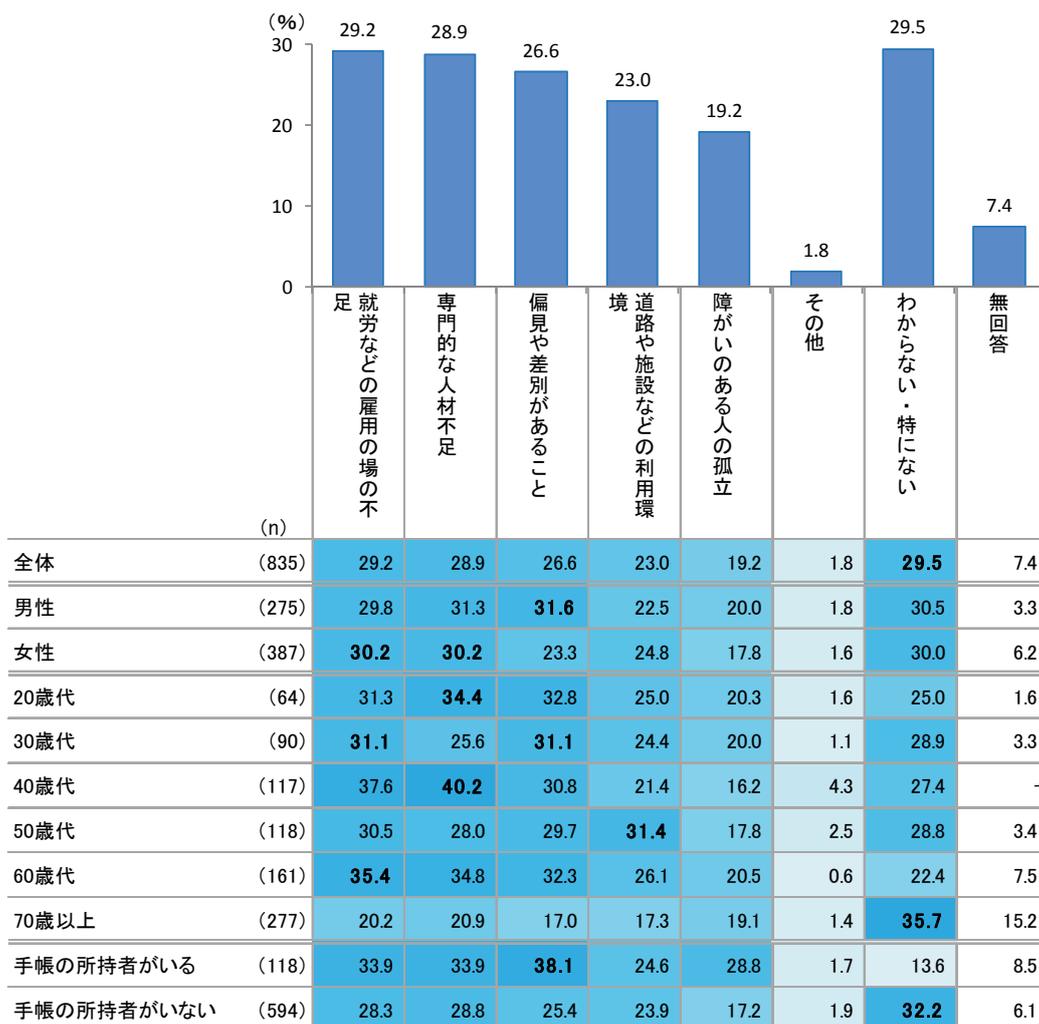
➤ 「わからない・特にない」が最も高い

障がいのある人を取りまく岐阜市の課題については、「わからない・特にない」が29.5%と最も高くなっています。次いで、「就労などの雇用の場の不足」(29.2%)、「専門的な人材不足」(28.9%)となっています。

男女別にみると、男性では「偏見や差別があること」が31.6%と最も高くなっています。女性では「就労などの雇用の場の不足」「専門的な人材不足」が30.2%と最も高くなっています。

年代別にみると、20歳代と40歳代では「専門的な人材不足」、30歳代では「就労などの雇用の場の不足」と「偏見や差別があること」、50歳代では「道路や施設などの利用環境」、60歳代では「就労などの雇用の場の不足」、70歳以上では「わからない・特にない」が最も高くなっています。

手帳の所持者の有無別にみると、手帳の所持者が「いる」では「偏見や差別があること」が38.1%と最も高くなっています。手帳の所持者が「いない」では「わからない・特にない」が32.2%と最も高くなっています。



図表 72 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題

問19 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくため、どのような手助けが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

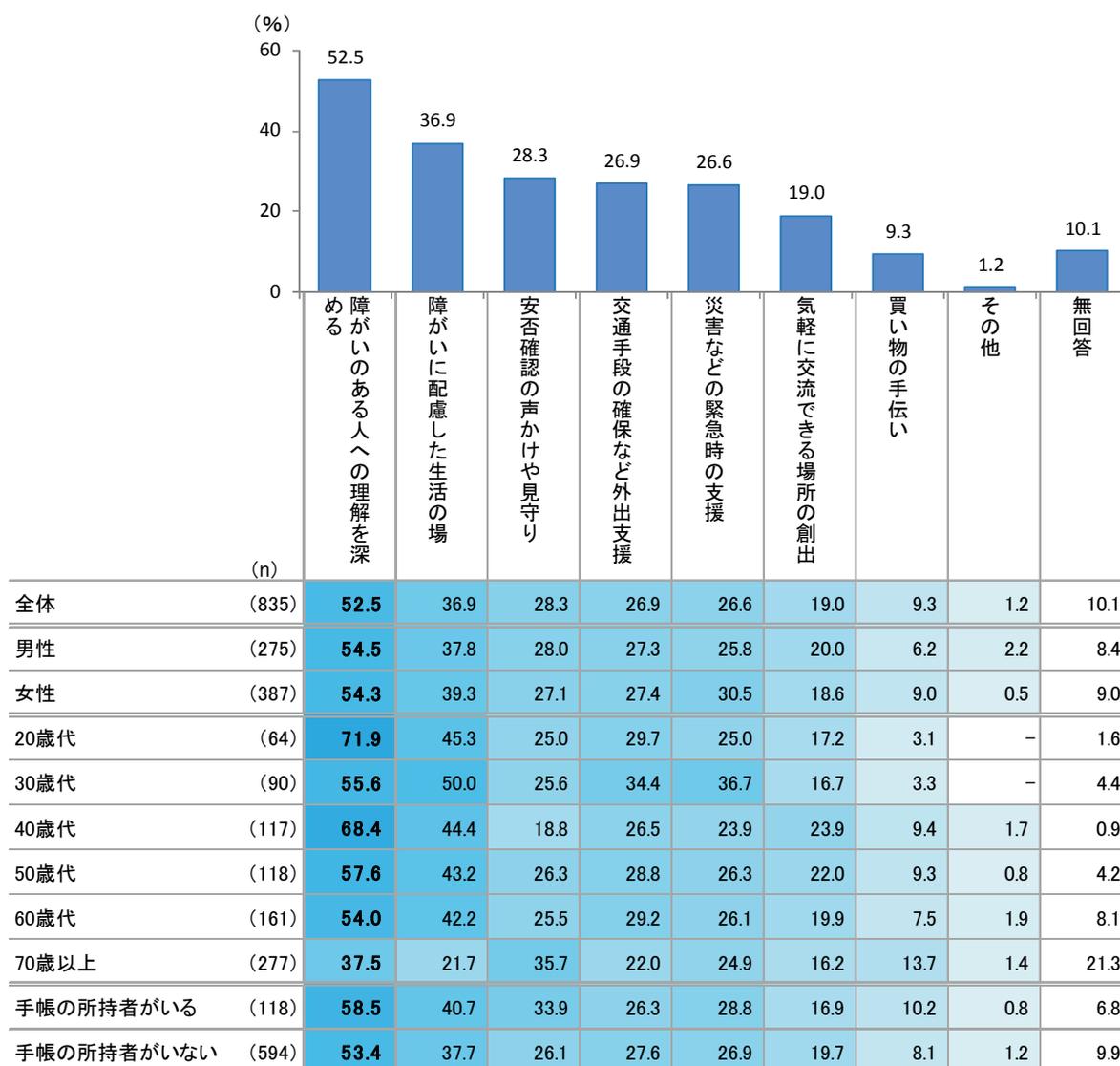
➤ 「障がいのある人への理解を深める」が5割以上

障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助けは、「障がいのある人への理解を深める」が52.5%と最も高くなっています。次いで、「障がいに配慮した生活の場」(36.9%)、「安否確認の声かけや見守り」(28.3%)となっています。

男女別にみると、男性では「障がいのある人への理解を深める」が54.5%と最も高く、次いで「障がいに配慮した生活の場」(37.8%)、「安否確認の声かけや見守り」(28.0%)となっています。女性では「障がいのある人への理解を深める」(54.3%)が最も高く、次いで「障がいに配慮した生活の場」(39.3%)、「災害などの緊急時の支援」(30.5%)となっています。

年代別にみると、すべての年代で「障がいのある人への理解を深める」が最も高くなっており、特に20歳代が71.9%と最も高くなっています。

手帳の所持者の有無別にみると、手帳の所持者が「いる」「いない」とともに「障がいのある人への理解を深める」が最も高くなっています。



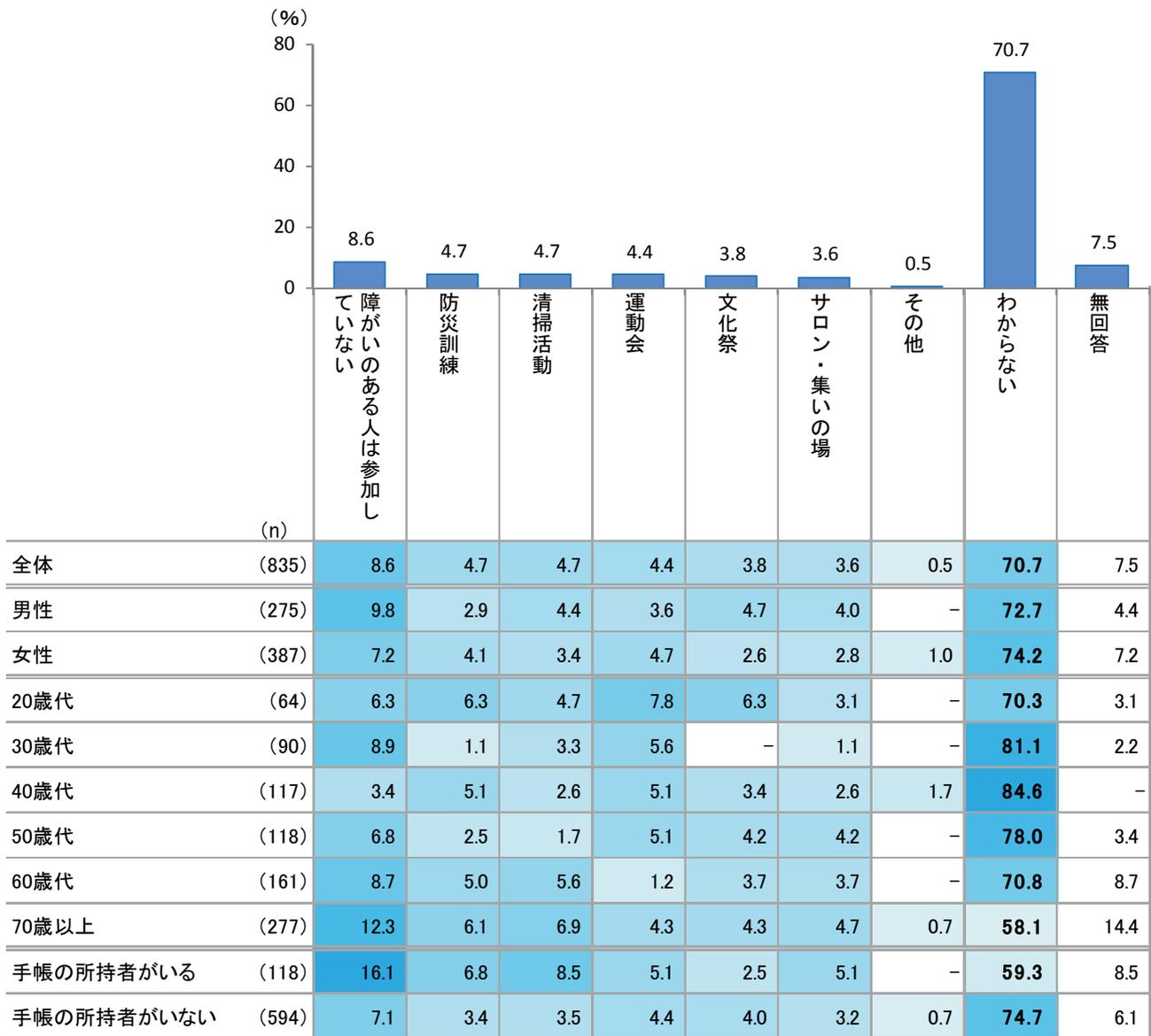
図表 73 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助け

問20 あなたの地域では、障がいのある人がどのような地域活動に参加されていますか。
(〇はいくつでも)

➤ 「わからない」が7割以上

障がいのある人が参加している地域活動については、「わからない」が70.7%と最も高くなっています。次いで、「障がいのある人は参加していない」(8.6%)となっています。

男女別、年代別、手帳の所持者の有無別にみても20歳代、40歳代を除いて同様の結果となっています。



図表 74 障がいのある人が参加している地域活動

問20-2 問20で「障がいのある人は参加していない」と回答された方にお伺いします。あなたは、その理由が何だと思いますか。ご自由にご記載ください。

➤ 「偏見や差別がある」という意見が多い

参加していない理由は、「偏見や差別がある」という意見が多くありました。また、「家族や親族が代わりに参加している」や「障がいの程度によっては参加できない」「障がいへの理解が低い」といった意見もみられました。

障がいのある人が地域活動に参加していない理由

(主な理由)

- 偏見・差別が根底にあるから。
- 地域で接した機会が今までありません。
- 自分の町内に障がいのある人がいないから。
- 障がいのある人との関わりが少ないから。
- 交流できる場を知らない。
- 意識の疎通が難しい。
- 地域活動の担い手として対象に含まれていないため。
- 理解がない、理解する機会がない。
- 様々な障がいがあり、理解度が低い。
- 偏見の目で見られる、邪魔扱いされる。
- 世間の偏見、障がいのある人を見る目が普通ではない。
- 障がいのある人にあまり会わない。
- 障がいのある人と障がいのない人の活動が全く別々になっているように感じる。
- 親が参加する行事には一緒に来ているが、独りでは参加していない、参加させていない。

問21 あなたは障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

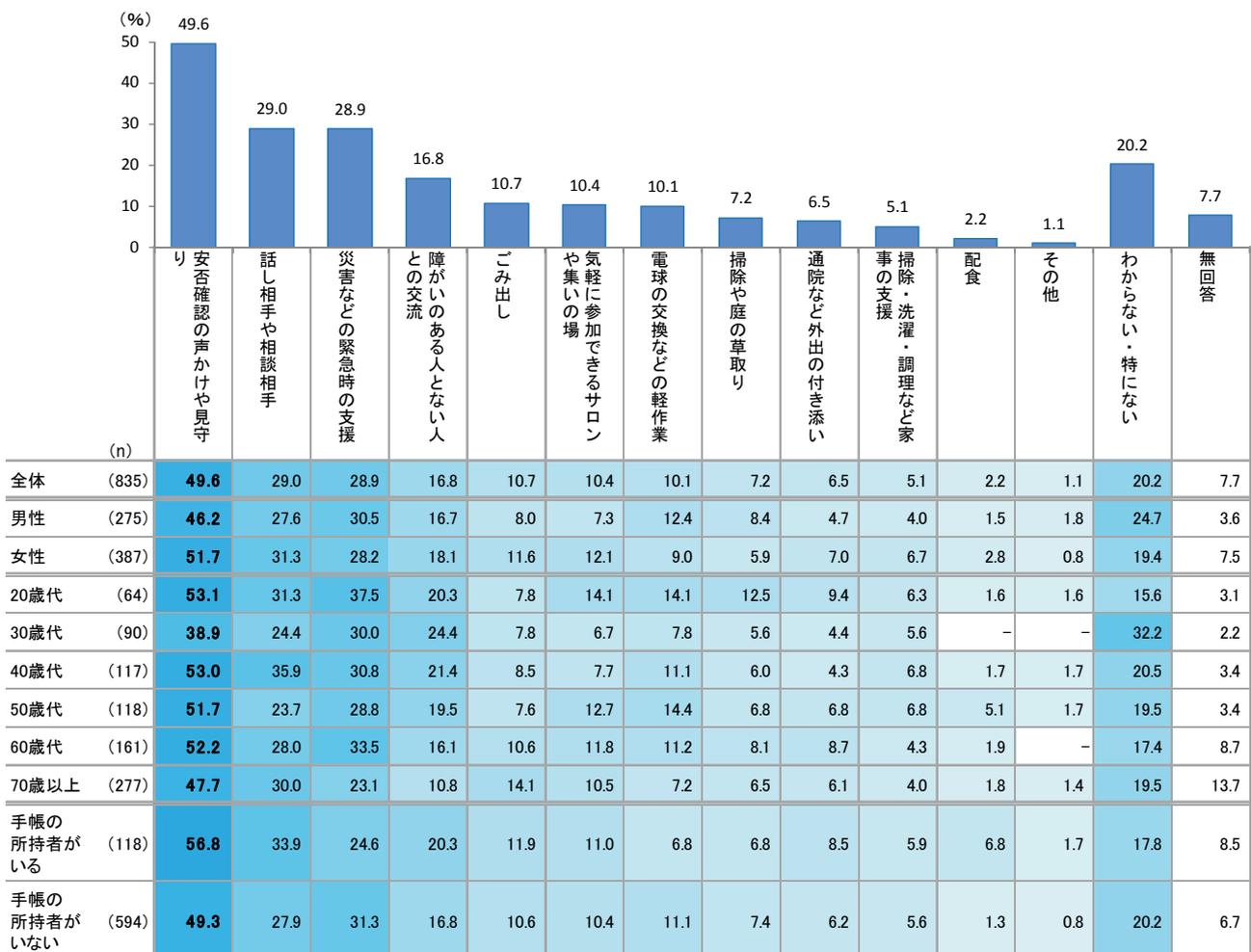
➤ 「安否確認の声かけや見守り」が約5割

障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「安否確認の声かけや見守り」が49.6%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(29.0%)、「災害などの緊急時の支援」(28.9%)となっています。

男女別にみると、男性は「安否確認の声かけや見守り」が46.2%と最も高く、次いで、「災害などの緊急時の支援」(30.5%)、「話し相手や相談相手」(27.6%)となっています。女性では「安否確認の声かけや見守り」が51.7%と最も高く、次いで、「話し相手や相談相手」(31.3%)、「災害などの緊急時の支援」(28.2%)となっています。

年代別にみると、すべての年代で「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっており、20歳代が53.1%と最も高くなっています。

手帳の所持者の有無別にみると、手帳の所持者が「いる」では「安否確認の声かけや見守り」が56.8%と、手帳の所持者が「いない」(49.3%)を上回っています。



図表 75 障がいのある人に対してできること

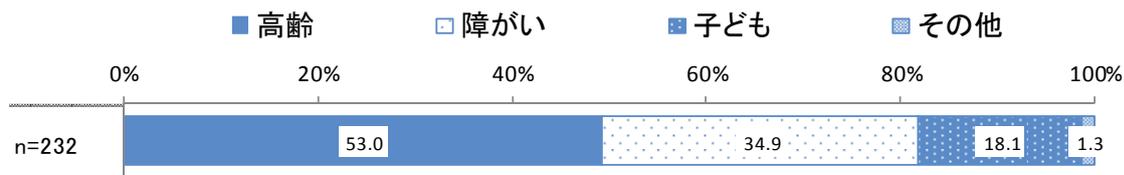
2. 事業所アンケート

1) 事業所について

問 1-1 事業を実施している分野について。(〇はいくつでも)

➤ 実施している事業分野は「高齢」が5割以上

実施している事業分野は、「高齢」が53.0%と最も高くなっています。次いで、「障がい」(34.9%)、「子ども」(18.1%)となっています。

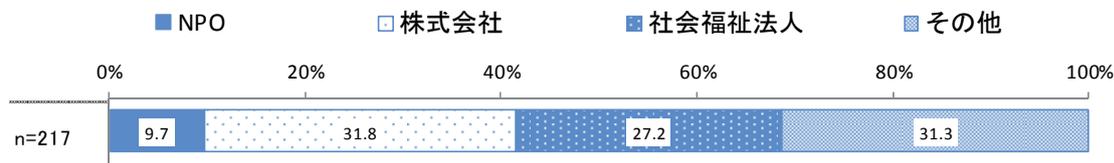


図表 76 実施している事業分野
(無回答を除く)

問 1-2 運営する法人について。

➤ 運営する法人の種別は「株式会社」が最も高い

運営する法人の種別については、「株式会社」が31.8%と最も高くなっています。次いで、「その他」(31.3%)、「社会福祉法人」(27.2%)となっています。

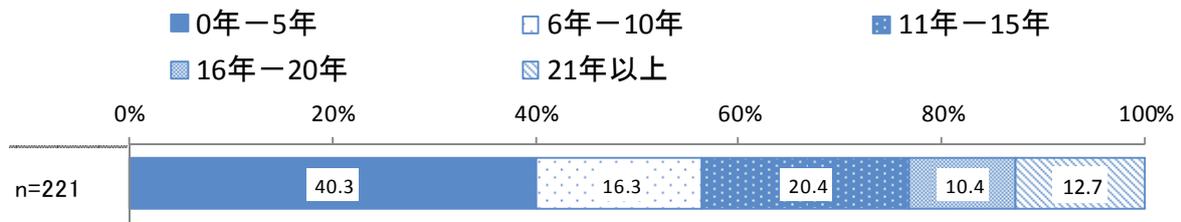


図表 77 運営する法人の種別
(無回答を除く)

問 1-3 運営年数について。

➤ 運営年数は「0-5年」が4割以上

運営年数については、「0年-5年」が40.3%と最も高くなっています。次いで、「11年-15年」(20.4%)、「6年-10年」(16.3%)となっています。また、運営年数の平均は11.5年となっています。



図表 78 運営年数
(無回答を除く)

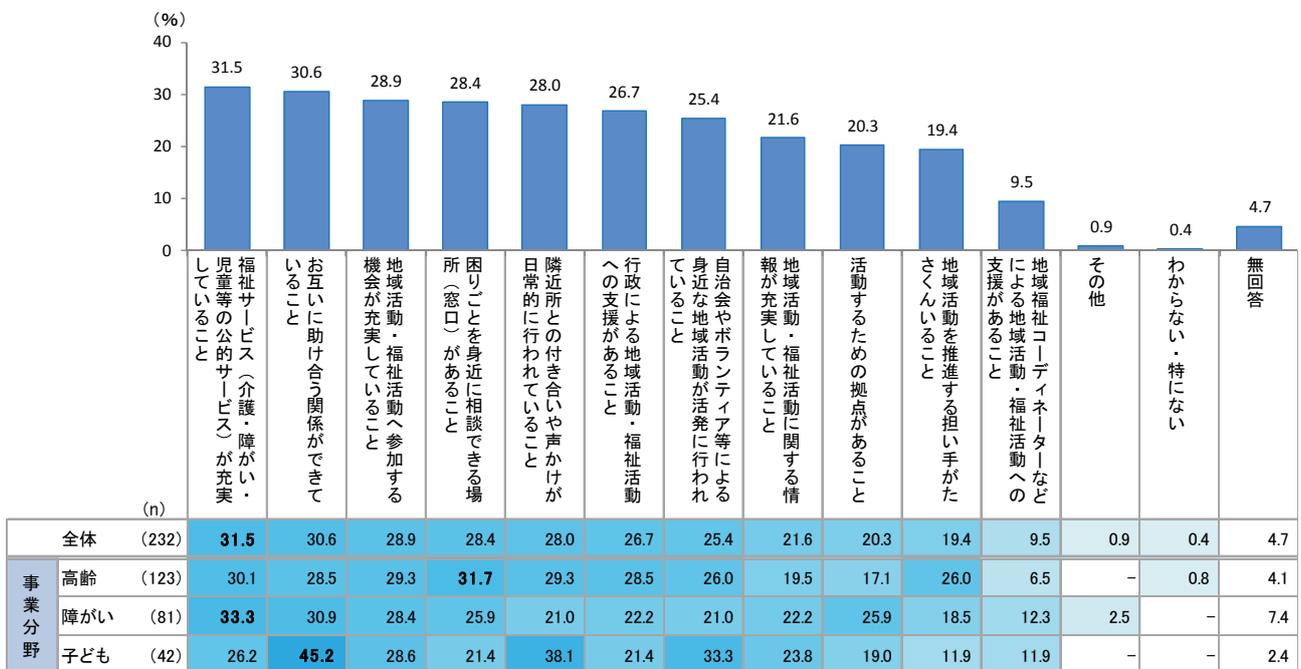
2) 地域福祉全体について

問2 事業所が考える、地域福祉とはどのようなものですか。(〇は3つまで)

- 「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」「お互いに助け合う関係ができていないこと」が3割以上

事業所が考える地域福祉については、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が31.5%と最も高くなっています。次いで、「お互いに助け合う関係ができていないこと」（30.6%）となっています。

事業分野別にみると、「障がい」の事業分野では、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」が33.3%と最も高くなっています。「高齢」の事業分野では、「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」が31.7%と最も高くなっており、「子ども」の事業分野では「お互いに助け合う関係ができていないこと」が45.2%と最も高くなっています。



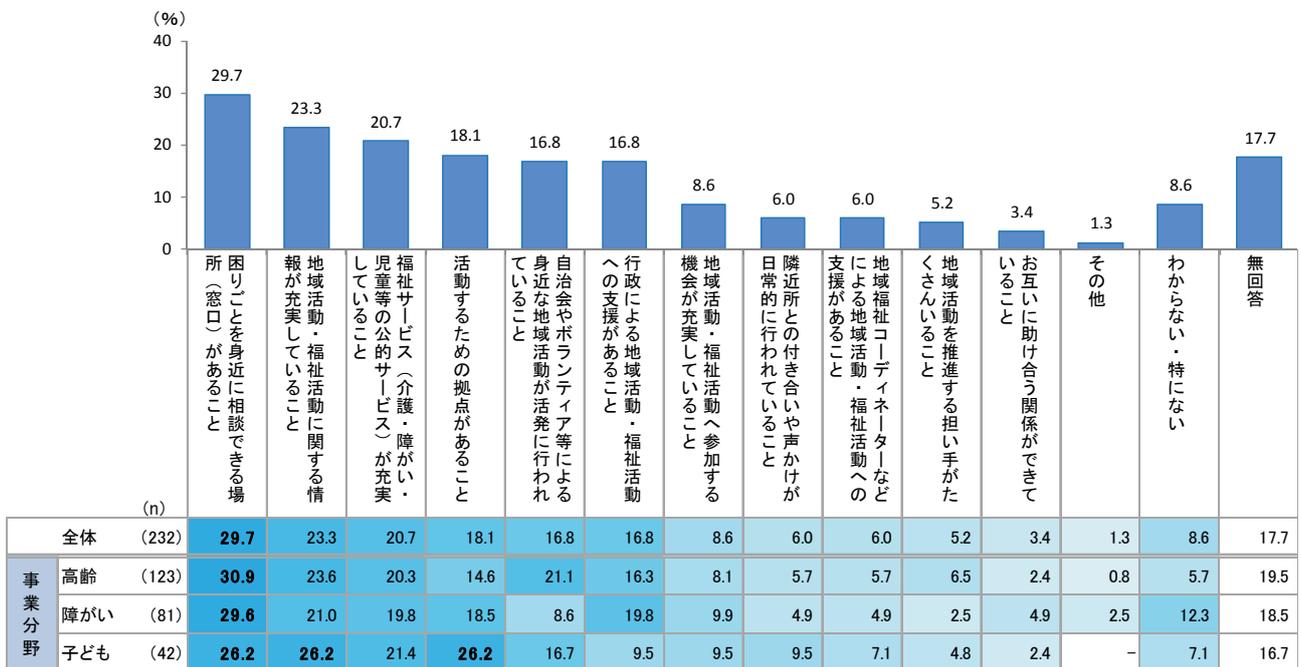
図表 79 事業所が考える地域福祉

問3 岐阜市において充実していると思われることは何ですか。(〇は3つまで)

➤ 「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」が約3割

岐阜市の地域福祉において充実していると思われることは、「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」が29.7%と最も高くなっています。次いで、「地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること」（23.3%）、「福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること」（20.7%）となっています。

事業分野別にみても、各事業分野とも「困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること」が最も高くなっています。「子ども」の事業分野では、他に「地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること」と「活動するための拠点があること」が同様に最も高くなっています。



図表 80 岐阜市において充実している地域福祉

問4 岐阜市において不足していると思われることは何ですか。(〇は3つまで)

➤ 「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」は「高齢」と「子ども」の事業分野で3割以上

岐阜市の地域福祉において不足していると思われることは、「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」が31.0%と最も高くなっています。次いで、「行政による地域活動・福祉活動への支援があること」(24.6%)、「お互いに助け合う関係ができてきていること」(19.8%)となっています。

事業分野別にみても、「地域活動を推進する担い手がたくさんいること」は「高齢」と「子ども」の事業分野で3割を超え、最も高くなっています。



図表 81 岐阜市において不足している地域福祉

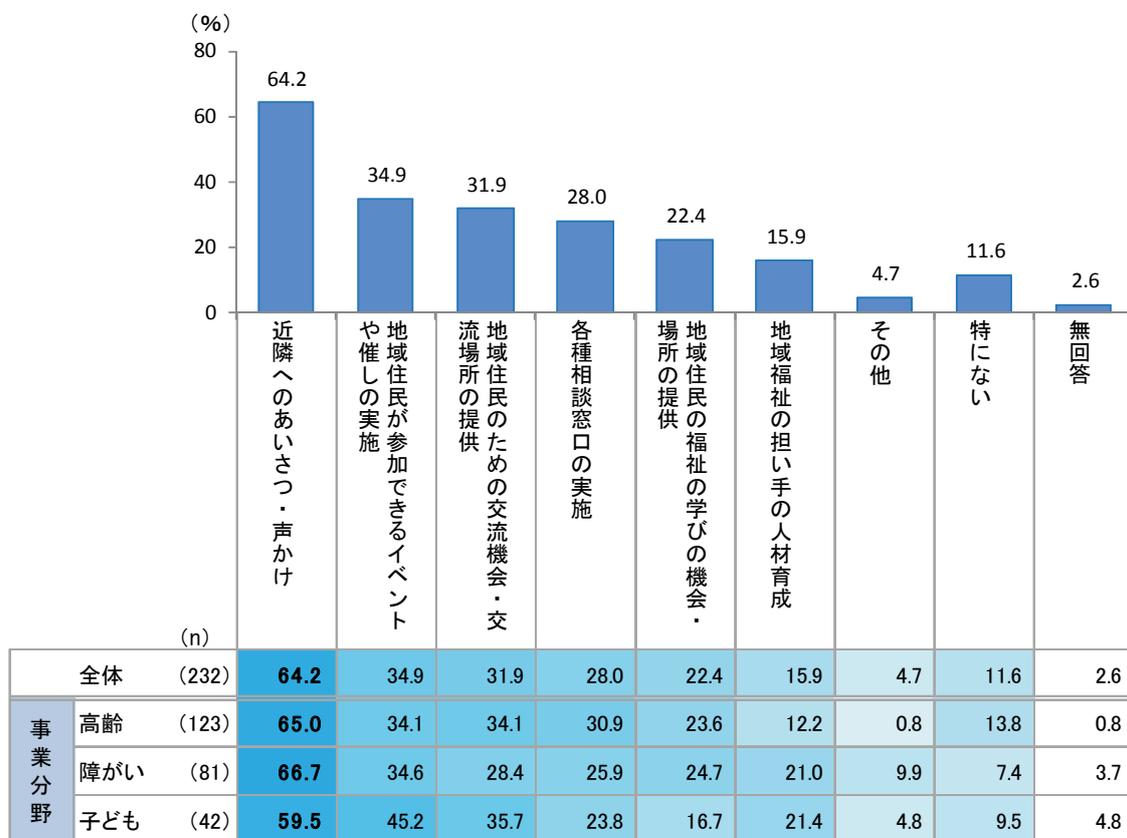
3) 事業所の活動について

問5 地域福祉に資する活動を行っていますか。(〇はいくつでも)

➤ 「近隣へのあいさつ・声かけ」が6割以上

地域福祉に資する活動については、「近隣へのあいさつ・声かけ」が64.2%と最も高くなっています。次いで、「地域住民が参加できるイベントや催しの実施」(34.9%)、「地域住民のための交流機会・交流場所の提供」(31.9%)となっています。

事業分野別にみても、各事業分野とも「近隣へのあいさつ・声かけ」が最も高くなっており、「障がい」の事業分野では66.7%となっています。



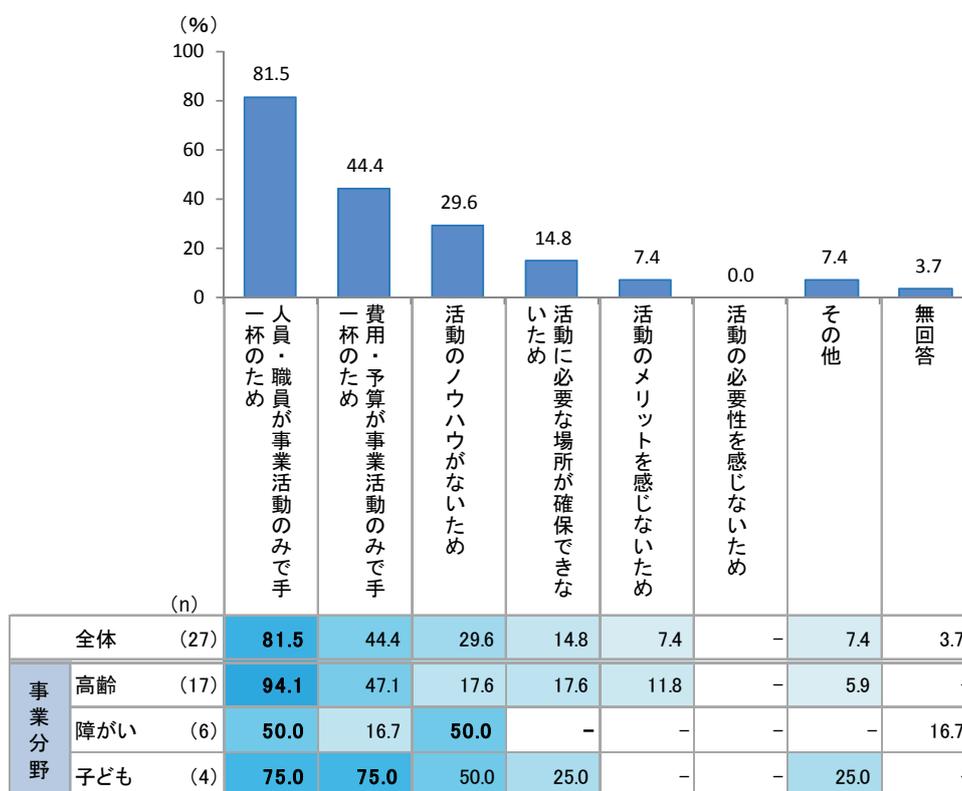
図表 82 地域福祉に資する活動

問5-2 問5で「8.特になし」と回答された事業所にお伺いします。活動を実施していない理由はなんですか。(〇はいくつでも)

➤ 「人員・職員が事業活動のみで手一杯のため」が8割以上

地域福祉に資する活動を実施していない理由については、「人員・職員が事業活動のみで手一杯のため」が81.5%と最も高くなっています。次いで、「費用・予算が事業活動のみで手一杯のため」(44.4%)、「活動のノウハウがないため」(29.6%)となっています。

事業分野別にみると、「人員・職員が事業活動のみで手一杯のため」が「高齢」の事業分野で94.1%と最も高くなっています。



図表 83 活動を実施していない理由

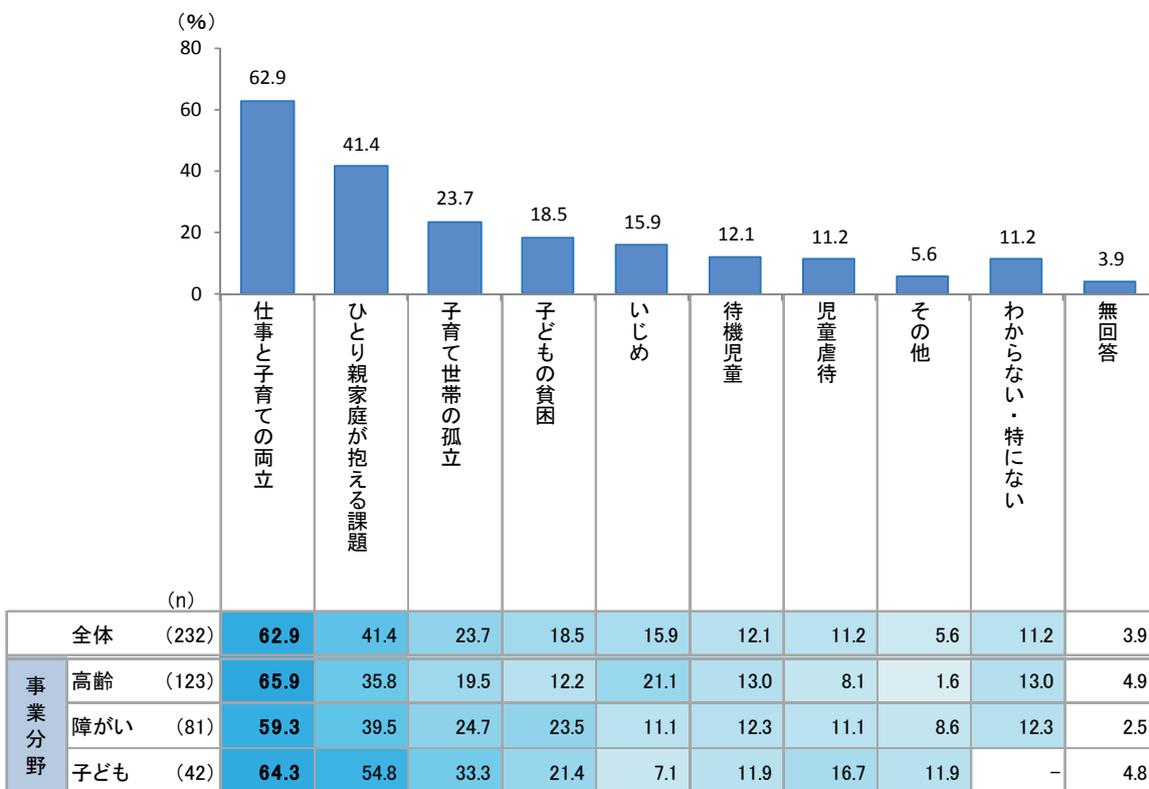
4) 児童福祉について

問6 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

➤ 「仕事と子育ての両立」が6割以上

子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題については、「仕事と子育ての両立」が62.9%と最も高くなっています。次いで、「ひとり親家庭が抱える課題」(41.4%)、「子育て世帯の孤立」(23.7%)となっています。

事業分野別にみても、各事業分野とも「仕事と子育ての両立」が最も高くなっています。「子ども」の事業分野では「ひとり親家庭が抱える課題」(54.8%)が他の事業分野と比べ、10ポイント以上高くなっています。

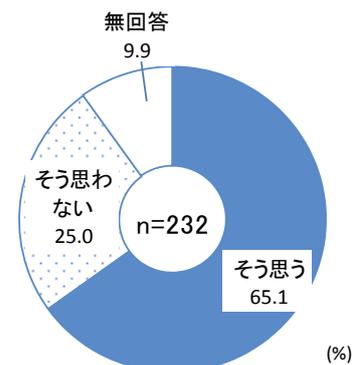


図表 84 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題

問7 事業所のある地域は、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境だと思えますか。(〇は1つ)

➤ 「そう思う」が6割以上

子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境については、「そう思う」が65.1%を占めています。一方で、「そう思わない」が25.0%となっており、4分の1の事業所が、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境ではないと思っていることがうかがえます。



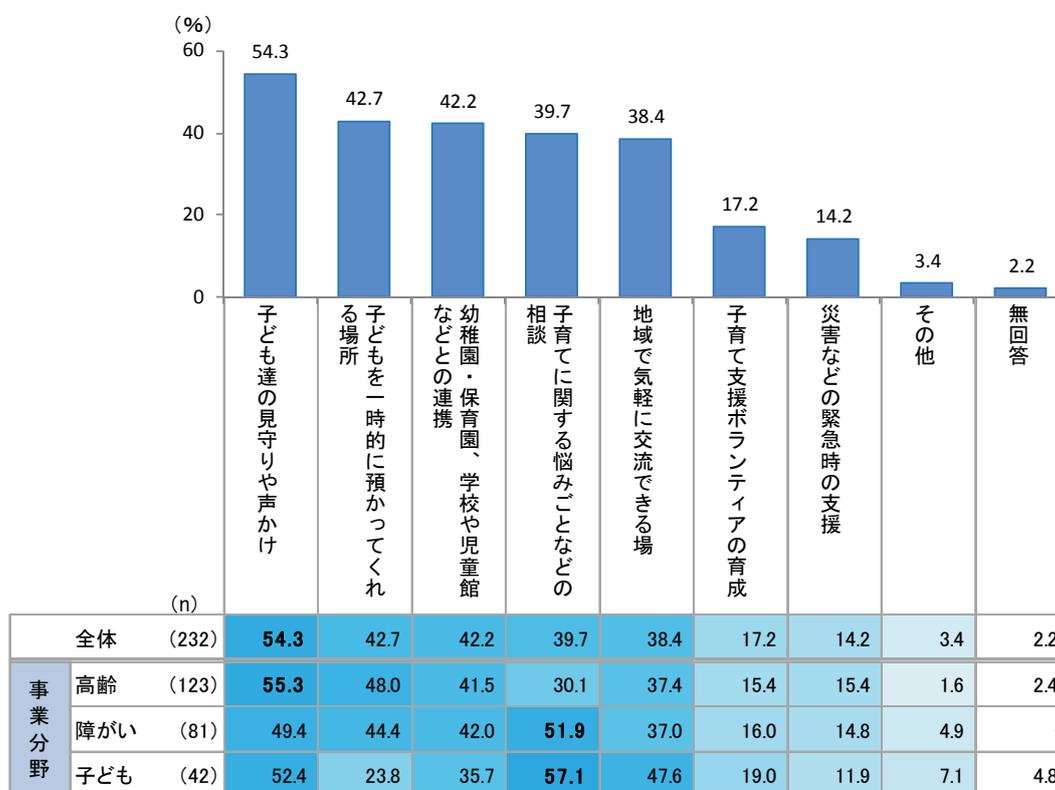
図表 85 子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境

問8 地域で子どもや子育て世帯を見守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

➤ 「子ども達の見守りや声かけ」が5割以上

地域で子どもや子育て世帯を見守るために必要なことは、「子ども達の見守りや声かけ」が54.3%と最も高くなっています。次いで、「子どもを一時的に預かってくれる場所」(42.7%)、「幼稚園・保育園、学校や児童館などとの連携」(42.2%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野では、「子ども達の見守りや声かけ」が55.3%と最も高くなっています。「障がい」の事業分野と「子ども」の事業分野では、「子育てに関する悩みごとなどの相談」が最も高くなっています。



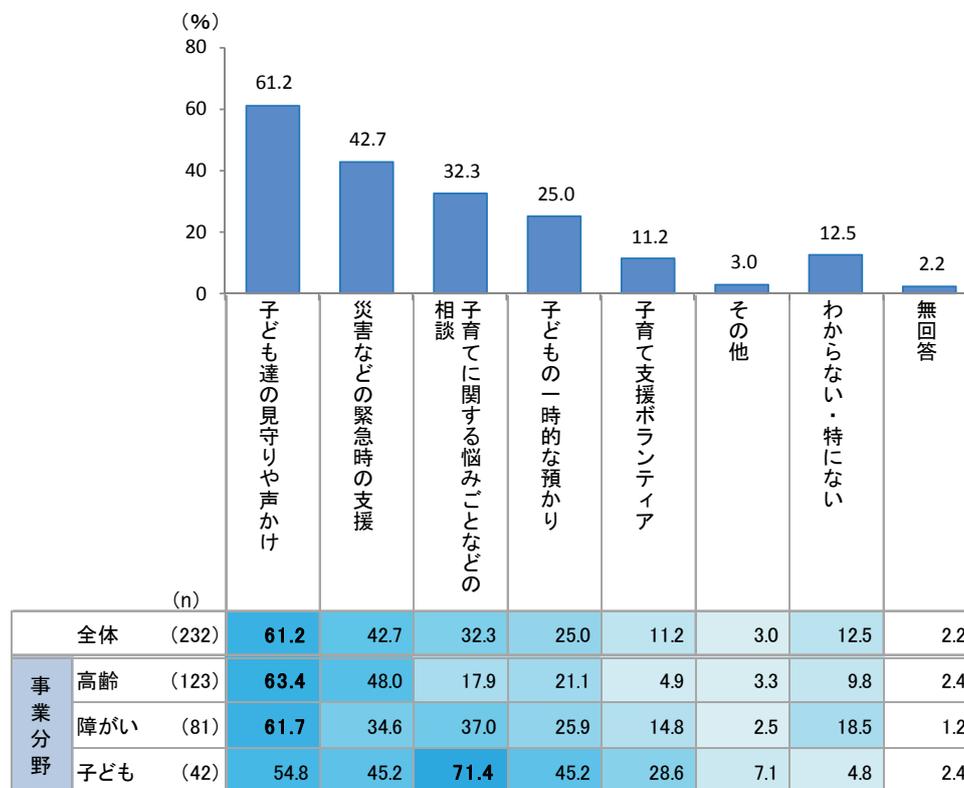
図表 86 子どもや子育て世帯を見守るために必要なこと

問9 子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」として何ができるとお思いますか。
(〇はいくつでも)

➤ 「子ども達の見守りや声かけ」が6割以上

子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「子ども達の見守りや声かけ」が61.2%と最も高くなっています。次いで、「災害などの緊急時の支援」(42.7%)、「子育てに関する悩みごとなどの相談」(32.3%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野と「障がい」の事業分野では「子ども達の見守りや声かけ」が6割を超えており、「高齢」の事業分野では63.4%となっています。「子育てに関する悩みごとなどの相談」については、「子ども」の事業分野が71.4%と最も高くなっています。



図表 87 子どもや子育て世帯に対してできること

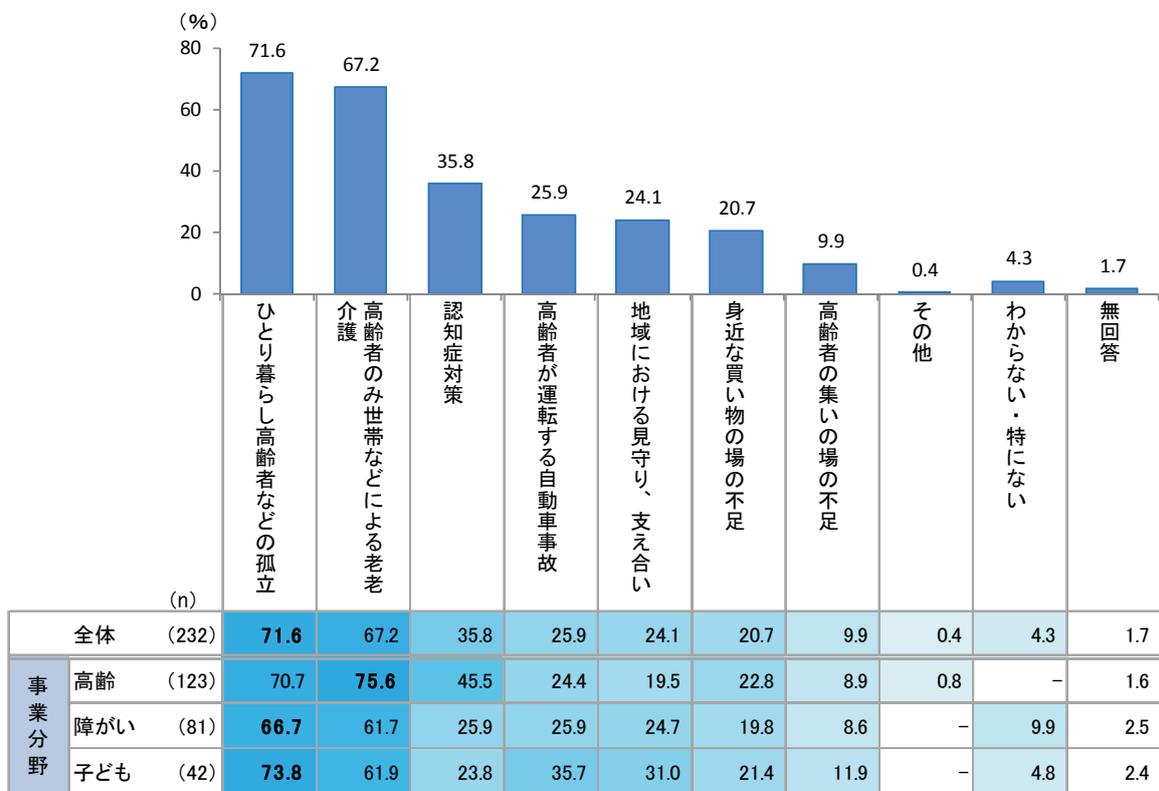
5) 高齢者福祉について

問10 高齢者をとりまく岐阜市の課題は何だと思いますか。(〇は3つまで)

➤ 「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が7割以上

高齢者をとりまく岐阜市の課題については、「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が71.6%と最も高くなっています。次いで、「高齢者のみ世帯などによる老老介護」(67.2%)、「認知症対策」(35.8%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野では、「高齢者のみ世帯などによる老老介護」が75.6%と最も高くなっています。「障がい」の事業分野と「子ども」の事業分野では、「ひとり暮らし高齢者などの孤立」が7割程度と最も高くなっています。

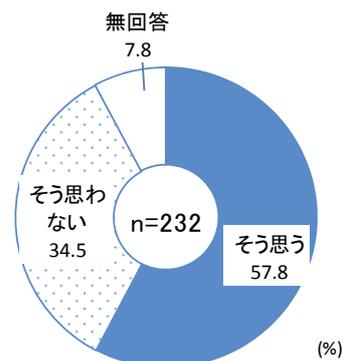


図表 88 高齢者をとりまく岐阜市の課題

問11 事業所のある地域では、高齢者との交流やつながりがあると思いますか。(〇は1つ)

➤ 「そう思う」が約6割

高齢者との交流やつながりの有無については、「そう思う」が57.8%となっています。一方で、「そう思わない」は34.5%となっており、3割以上の事業所が交流やつながりがないと回答しています。



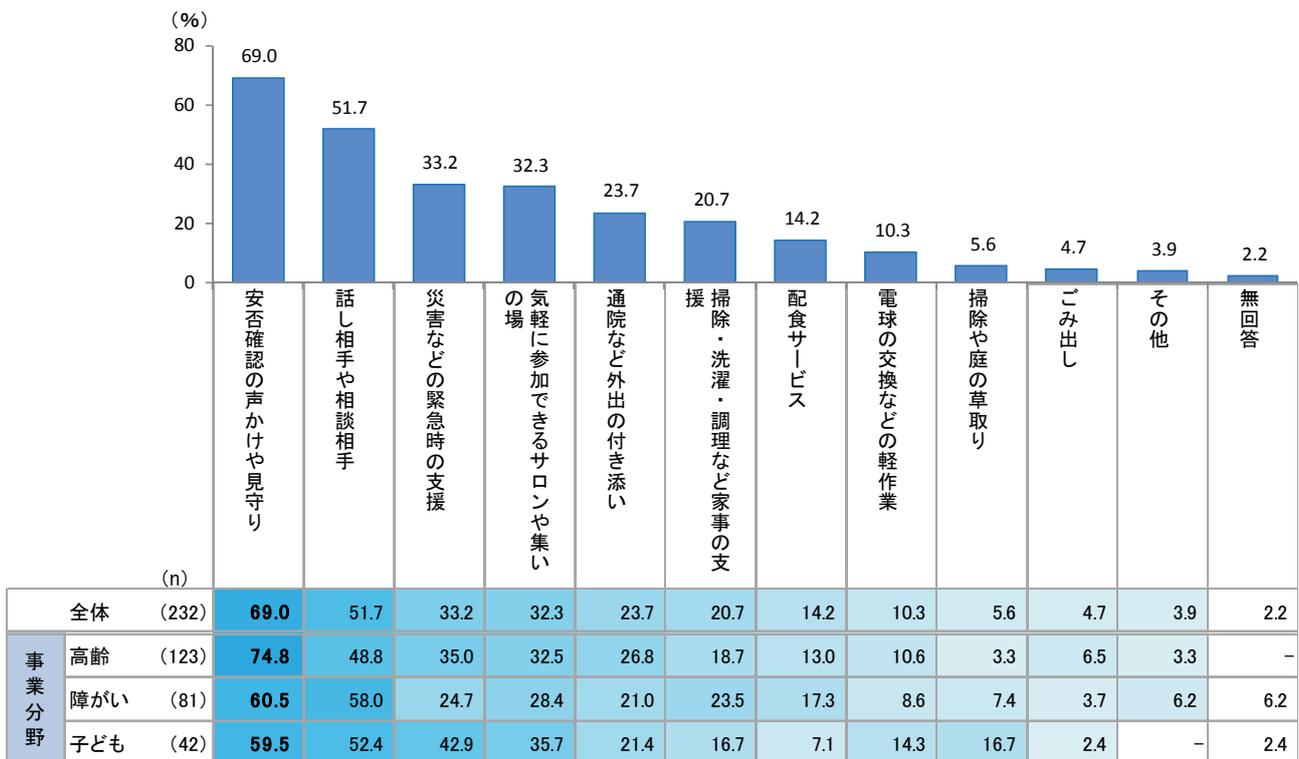
図表 89 高齢者との交流やつながり

問12 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

➤ 「安否確認の声かけや見守り」が約7割

高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助けは、「安否確認の声かけや見守り」が69.0%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(51.7%)、「災害などの緊急時の支援」(33.2%)となっています。

事業分野別にみると、どの事業分野においても「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっています。



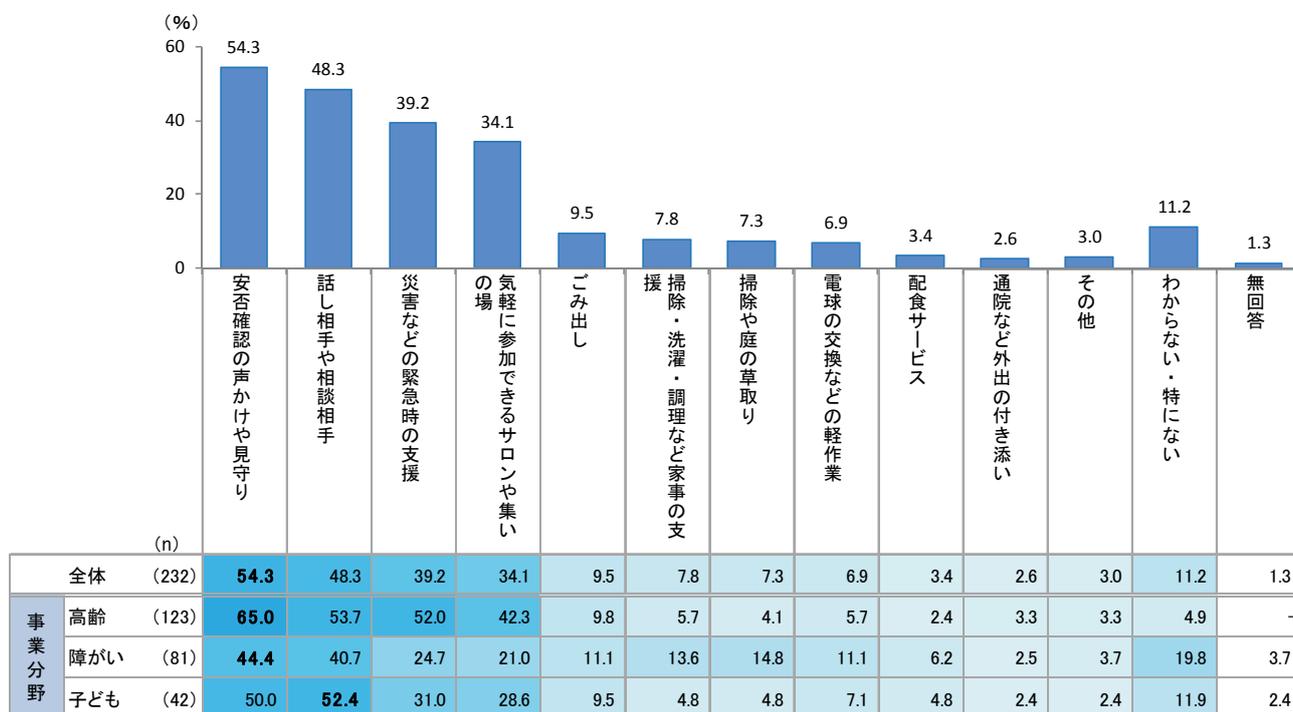
図表 90 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助け

問13 高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。
(〇はいくつでも)

➤ 「安否確認の声かけや見守り」が5割以上

高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「安否確認の声かけや見守り」が54.3%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(48.3%)、「災害などの緊急時の支援」(39.2%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野と「障がい」の事業分野では「安否確認の声かけや見守り」が最も高くなっており、「高齢」の事業分野では65.0%となっています。「子ども」の事業分野では、「話し相手や相談相手」が52.4%と最も高くなっています。



図表 91 高齢者に対してできること

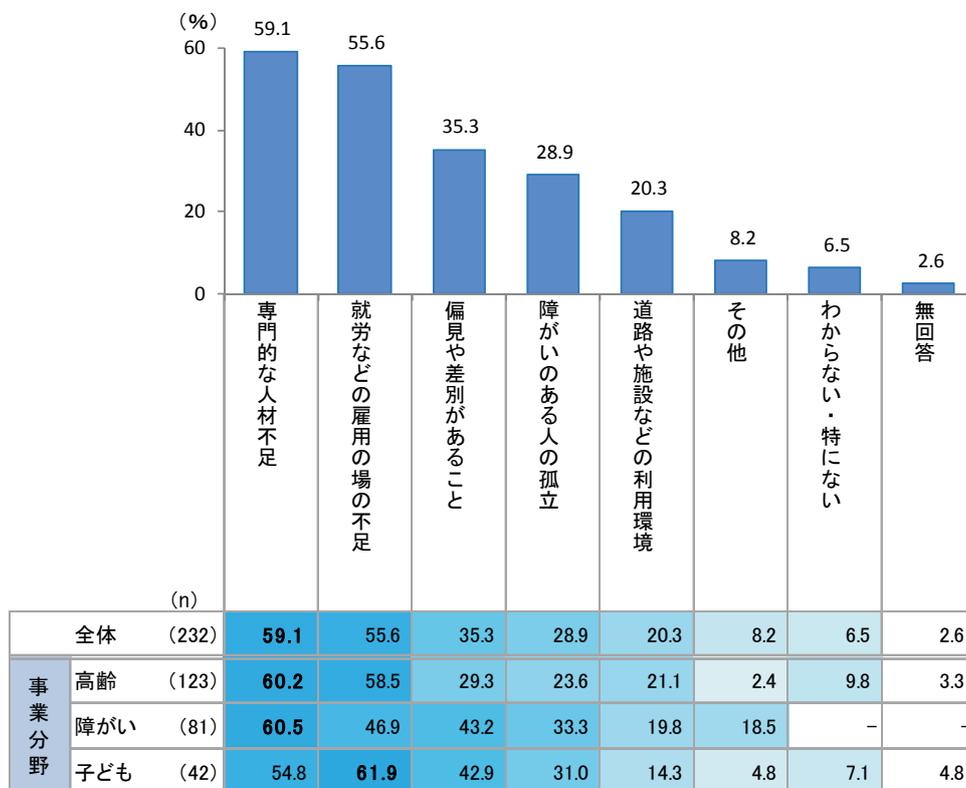
6) 障がい福祉について

問14 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

➤ 「専門的な人材不足」「就労などの雇用の場の不足」が5割以上

障がいのある人を取りまく岐阜市の課題については、「専門的な人材不足」が59.1%と最も高くなっています。次いで、「就労などの雇用の場の不足」(55.6%)、「偏見や差別があること」(35.3%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野と「障がい」の事業分野では、「専門的な人材不足」が6割以上と、最も高くなっています。「子ども」の事業分野では、「就労などの雇用の場の不足」が6割以上と、最も高くなっています。



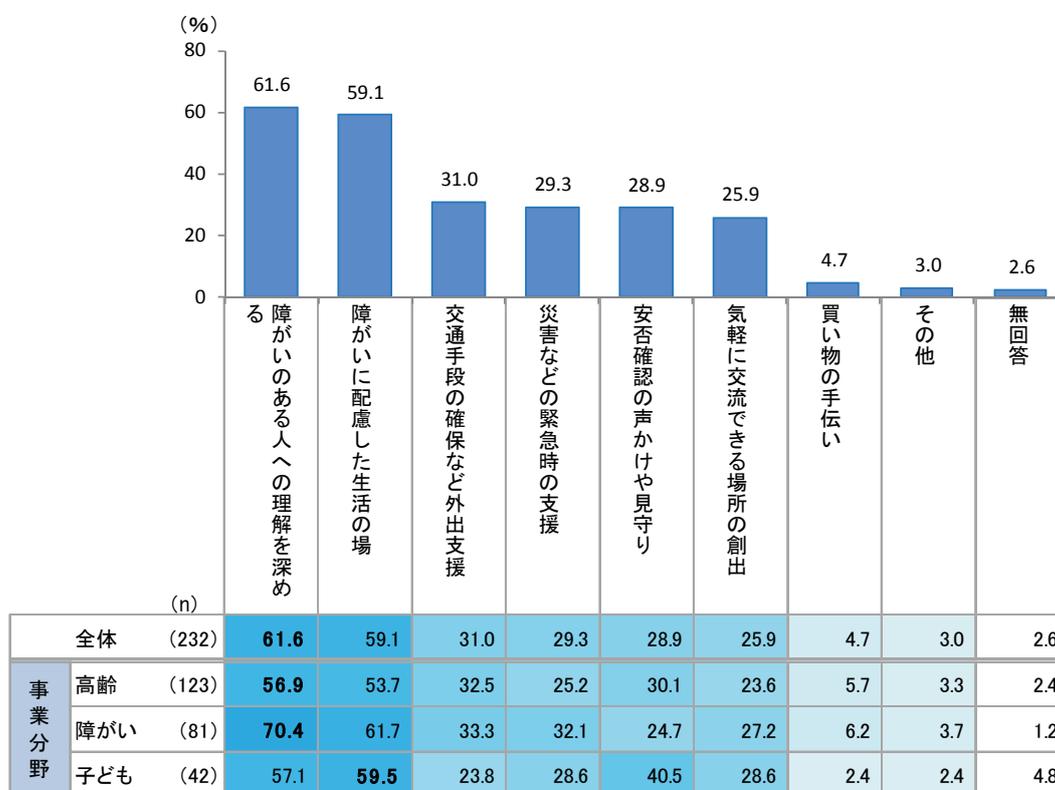
図表 92 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題

問15 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか（〇は3つまで）

➤ 「障がいのある人への理解を深める」が6割以上

障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助けは、「障がいのある人への理解を深める」が61.6%と最も高くなっています。次いで、「障がいに配慮した生活の場」（59.1%）、「交通手段の確保など外出支援」（31.0%）となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野と「障がい」の事業分野では、「障がいのある人への理解を深める」が最も高くなっています。「子ども」の事業分野では、「障がいに配慮した生活の場」が59.5%と最も高くなっています。



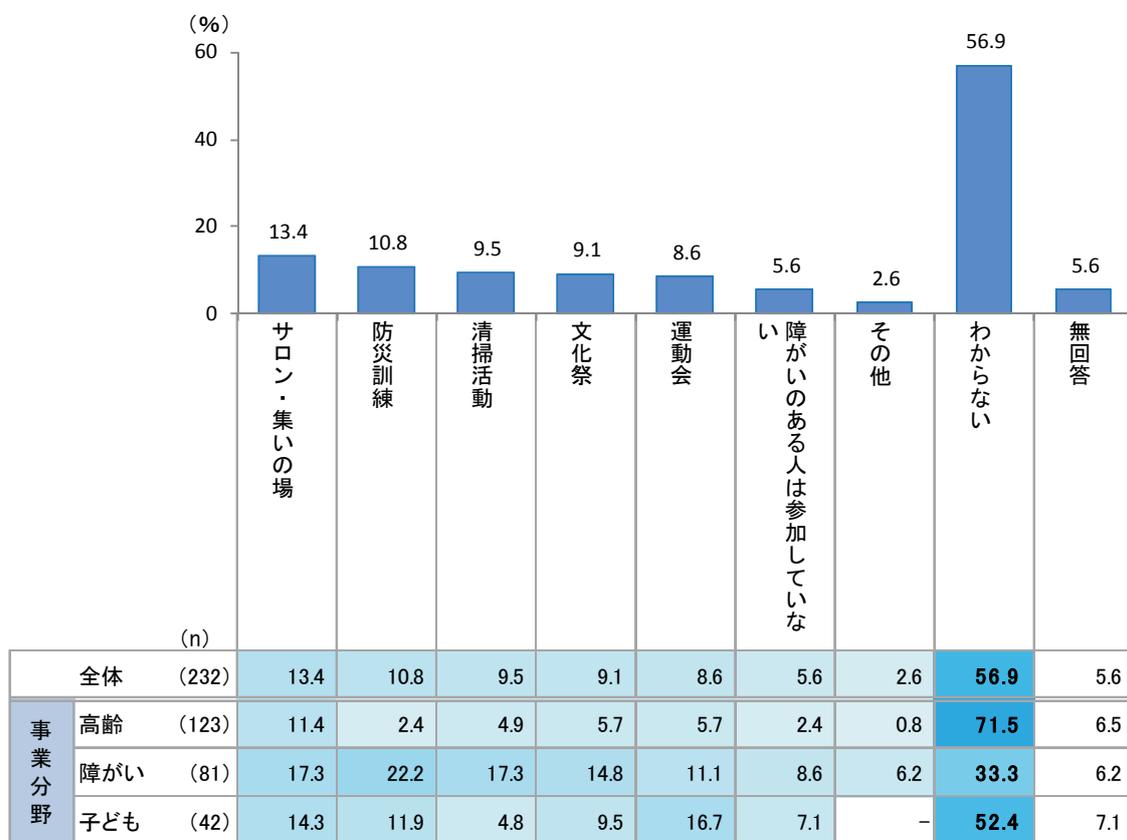
図表 93 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために必要な手助け

問16 事業所のある地域では、障がいのある人がどのような地域活動に参加されていますか
(〇はいくつでも)

➤ 「わからない」が約6割

障がいのある人がどのような地域活動に参加されているかについては、「わからない」が56.9%と最も高くなっています。次いで、「サロン・集いの場」(13.4%)、「防災訓練」(10.8%)となっています。

事業分野別にみると、「障がい」の事業分野では、「防災訓練」(22.2%)と「清掃活動」(17.3%)、「サロン・集いの場」(17.3%)、「文化祭」(14.8%)、「障がいのある人は参加していない」(8.6%)が、「高齢」の事業分野と「子ども」の事業分野と比べ、高くなっています。



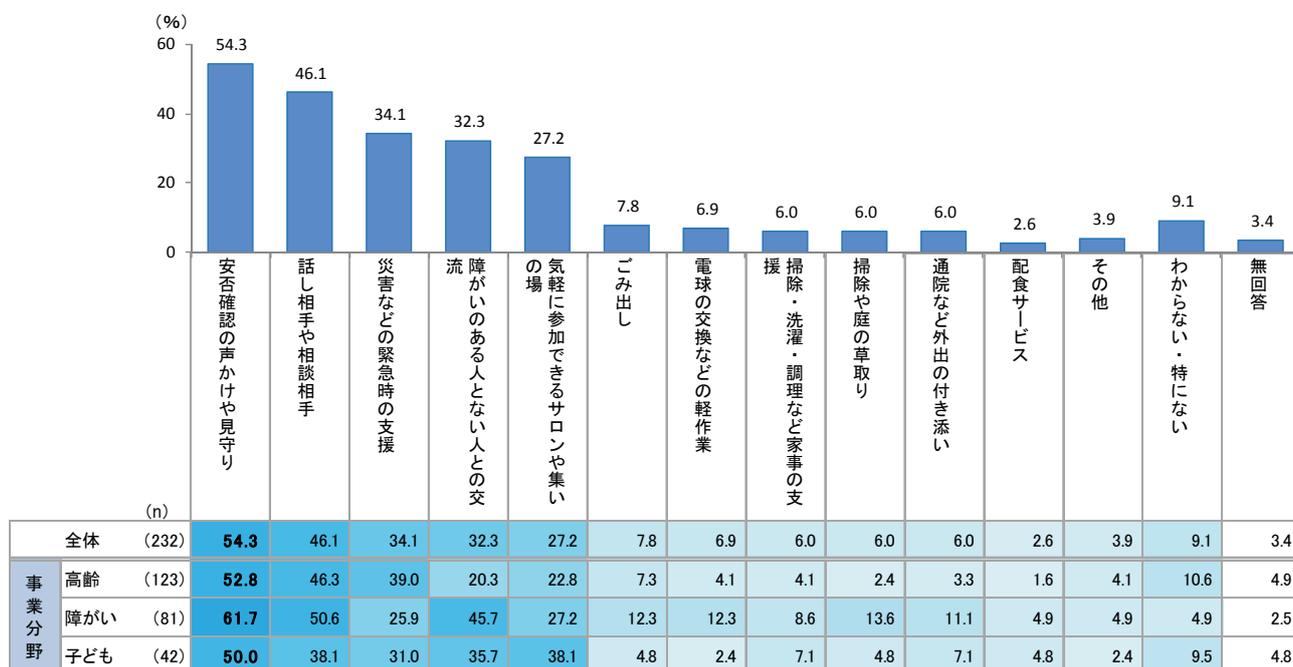
図表 94 障がいのある人が参加している地域活動

問17 障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。
(〇はいくつでも)

➤ 「安否確認の声かけや見守り」が5割以上

障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」としてできることは、「安否確認の声かけや見守り」が54.3%と最も高くなっています。次いで、「話し相手や相談相手」(46.1%)、「災害などの緊急時の支援」(34.1%)となっています。

事業分野別にみると、どの分野でも「安否確認の声かけや見守り」は5割以上となっています。特に「障がい」の事業分野では、61.7%と最も高くなっています。



図表 95 障がいのある人に対してできること

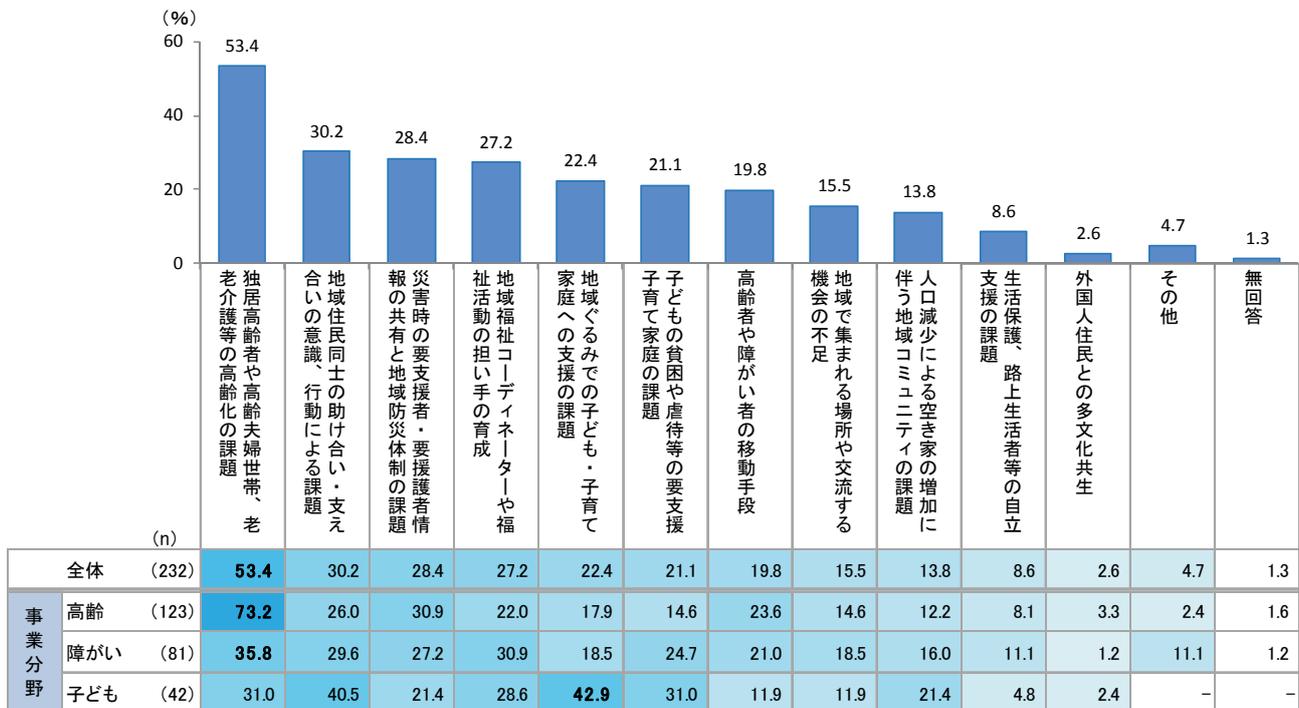
7) 行政との協働について

問18 事業者と行政が協働で、優先的に解決すべき課題は何だと思いますか。(〇は3つまで)

➤ 「独居高齢者や高齢夫婦世帯、老老介護等の高齢化の課題」が5割以上

事業者と行政が協働で優先的に解決すべき課題は、「独居高齢者や高齢夫婦世帯、老老介護等の高齢化の課題」が53.4%と最も高くなっています。次いで、「地域住民同士の助け合い・支え合いの意識、行動による課題」(30.2%)、「災害時の要支援者・要援護者情報の共有と地域防災体制の課題」(28.4%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野と「障がい」の事業分野では、「独居高齢者や高齢夫婦世帯、老老介護等の高齢化の課題」が最も高くなっており、「高齢」の事業分野では73.2%と、特に高くなっています。「子ども」の事業分野では、「地域ぐるみでの子ども・子育て家庭への支援の課題」が42.9%と最も高くなっています。



図表 96 事業者と行政が協働で優先的に解決すべき課題

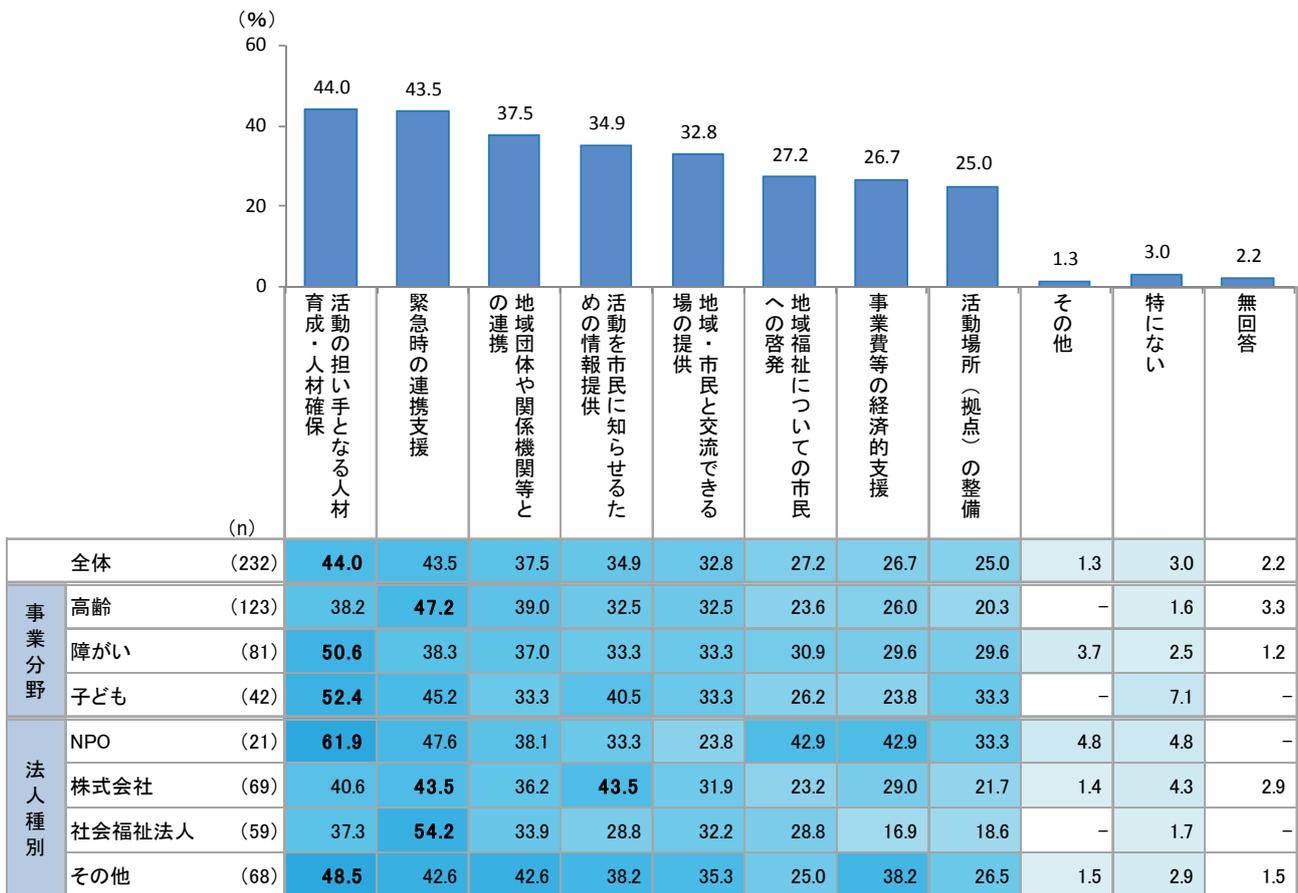
問19 地域福祉活動を行うにあたって、特に行政と協働できることは何だと思いますか。
(〇はいくつでも)

➤ 「活動の担い手となる人材育成・人材確保」「緊急時の連携支援」が4割以上

地域福祉活動を行うにあたり、行政と協働できることは「活動の担い手となる人材育成・人材確保」が44.0%と最も高くなっています。次いで、「緊急時の連携支援」(43.5%)、「地域団体や関係機関等との連携」(37.5%)となっています。

事業分野別にみると、「高齢」の事業分野では「緊急時の連携支援」が47.2%と最も高くなっています。「障がい」の事業分野と「子ども」の事業分野では、「活動の担い手となる人材育成・人材確保」が5割を超え、最も高くなっています。

法人種別にみると、「NPO」では、「活動の担い手となる人材育成・人材確保」が61.9%と最も高くなっています。「株式会社」と「社会福祉法人」では、「緊急時の連携支援」が最も高くなっており、加えて「株式会社」では「活動を市民に知らせるための情報提供」も最も高くなっています。



図表 97 地域福祉活動を行うにあたって行政と協働できること

3. 自由意見

1) 市民アンケート

アンケートに寄せられた主な意見について、以下のとおり分野別に整理しました。

地域福祉について

- ・自分自身でできる範囲で困っている人がいれば進んで手助けする。
- ・お互い相手を尊重し合い、相手の気持ちを察しつつ助け合いができるとういと思います。
- ・高齢者及び障がいのある人達に対する地域住民同士で助け合いをして、支え合い、協力をして、地域課題に取り組むことが課題だと思います。

行政について

- ・地域、隣人同士の交流があれば高齢者、障がいのある人が安心して暮らせると思う。そんな地域を育てるために行政、福祉の支援が必要と思われる。
- ・岐阜市全体で、人間関係をよくして助けあえるように色々な行事に取り組んでください。明るい未来に向けて。

高齢者について

- ・ひとり暮らし高齢者が周りに何人かいます。買い物ができない、ごみ出しができないなど…何か行政でも買い物サービス、家事補助もしていく時代だと思う。介護保険もそのうち崩壊します。子育ても大事だけど、高齢者が増える一方なのでそちらにも力を入れてください。
- ・高齢の人々がもっと日常的に集まったり、話しをしたり、可能ならば仕事ができる場を作っていたらと有難いなと思います。

自治会について

- ・自治会に入るよう勧めてほしい。
- ・自治会や子ども会、老人会などに積極的に参加し、お互いに顔を知り、知恵を出し合い、助けあっていく必要があると思います。
- ・自治会、高齢者が多くなりましたので隔々までお互いに気楽に寄り添って昔のように助け合っていくことができるようにお願いします。

交流について

- 高齢者世代と若い世代との交流がもっとあるといいと思います。色々なイベント等でも高齢者の人のお手伝い、ボランティアの人がたくさんみえます。その人々と若い世代が何かしらの形で交流するのが良いのでは。
- 高齢者と小さな子を持つ家族が交流する機会を増やした方がいいと思います。孤立してしまいがちなので、集まる機会が増えるとストレスの発散になったり、色々な情報を得られたりするのではと思います。
- 地域の人がみな、気軽に集まれるコミュニケーションが持てる場をもっとたくさん作ってください（孤立しないために）。

近所付き合いについて

- 近所付き合い。自分が住んでいる地域は、昔から住んでいる人と新しく入ってきた人の交流が少ないと感じる。積極的な付き合いは大事だと思う。
- 町内会、隣近所の付き合いが良ければ、災害などの緊急時に助け合える。ひとり暮らしの高齢者が多いから、特にそう思う。

情報について

- 気楽にボランティア、助け合いと交流を深められるようなことがあれば参加したいですが、今は正直、どのような助け合いができるのか情報がないですし、壁が高いような気がします。もっと目につくような、情報発信があればよいと思います。
- 岐阜市に住んで半年程ですが、市からの情報発信が少ないように感じます。自治会に入るの必要性を感じないに丸をつけましたが、入り方も分からず、また、転入の際に市からも特に何も言われませんでした。社会福祉に限らず、情報はもっと発信してほしいですし、地域とのつながりを深め、助け合う社会にしていきたいのであれば、自治会への加入ももっと市から押し進めていってもいいのではないかと思います。

その他

- このアンケートによって、地域活動等々に対して参加することが大切だと感じました。また、このアンケートによって、ワークショップの開催があることを知りました。どれかに参加したいと思います。
- 空き店舗をお年寄りの集いスペースに使うのはよいが、余計に閑散とした町になってしまい、活気が全くない。お年寄りのみならず、子ども達が集まりやすい野外のレジャー施設など充実してほしい。
- やはり挨拶からが先だと思います。挨拶から対話が生まれ、深い人間関係が生まれ、互いに助け合いが生まれてくるのではないかと思います。

2) 事業所アンケート

アンケートに寄せられた主な意見について、以下のとおり分野別に整理しました。

行政について

- 行政の立場として、公平の原則を重視するのはわかりますが、現場の実態・事実を生々しい息遣いを感じるまでに知らないことによる熱量のズレを感じることも多いです。もっと現場に足を運び、参加し、自ら体験・体感することを行政のみんなも実行していただきたいと願います。
- 福祉連絡会議の開催。現在、地域包括支援センターが中心となり、地域ケア会議を開催しているが、地域によってはテーマが広すぎたり、狭すぎたりと地域格差がみられている。地域福祉を担ってきた社協や地域の社会福祉法人との連携に期待する。また、そのコーディネーターを行政に求めたい。

地域福祉について

- 地域福祉といっても、様々な分野があり、全体を把握することは難しい。福祉に携わる者であっても、利用者や地域住民のニーズがしっかり把握できていない。今回、計画が策定されるにあたり、地域住民の意向を把握し、従事していきたい。また、もっと関心を寄せていきたいし、地域全体で福祉を支える市であればと願う。
- 福祉に手厚い岐阜市であると胸を張って言えるようになってほしい。市民みな平等であること、弱者と呼ばれる人がいなくなる努力をしましょう。

その他

- 全体的に閉鎖的だと思う。もっと交流の場や気軽に参加できる催しものがあればいいと思う。
- コミュニティが形成されにくい中ですが、地域住民での年齢を越えた関わりが築ける場やその主体的な人材がより必要であると思われます。

4. アンケートからみえてきた課題

<全体>

➤ “地域福祉＝福祉サービスの充実”の認識が高い

アンケートでは、地域福祉は「福祉サービスの充実」だと3人に1人が答えています。今後、福祉サービスの更なる充実を図るとともに、行政が実施する福祉サービスでは対応が難しい生活課題への対応が求められています。

例えば、電球の交換など軽易な手助けや、認知症のひとり暮らし高齢者など、自力で問題の解決が困難な方々への対応が求められますが、地域で生活している人にしか見えない地域の生活課題や身近でなければ早期発見できないこともあることから、地域における「住民主体の課題解決力」向上のために、地域での声かけや支え合いの重要性の理解を深めることが必要と考えられます。

➤ 近所付き合いは、8割以上が“ある”

岐阜市においては、アンケート回答者の81.2%が近所付き合いがあると回答しており、年齢及び居住年数が高くなるにつれて、その割合も高くなる傾向にあります。

また、自治会に加入している人の約9割が、近所付き合いがあると回答しています。

近所付き合いの程度としては、立ち話・挨拶程度が9割を占めていますが、自治会による日ごろの回覧板等が、立ち話等のきっかけになっているとも考えられます。

自治会組織も地域福祉を推進する一つの要素とも考えられることから、自治会に入るメリットや入り方等、丁寧に説明していく必要があると考えられます。

➤ 悩みごとを誰にも相談していない人が16.3%

悩みごとを「誰にも相談していない」という回答が、特に50歳代での回答割合が高いこと、また、自治会に加入していない人が自治会に加入している人よりも回答割合が高いこと、近所付き合いがない人で回答割合が高い傾向にあります。

今後は、相談窓口の啓発や相談できない人へのアプローチを検討する必要があると考えられます。

➤ その対象となる人がいない世帯では、課題の把握が難しい

子ども・子育て世帯、高齢者、障がいのある人における課題について、その対象となる人がいる世帯とない世帯では、課題の認識に違いがあります。

つまり、その対象となる人との関わりのない状況では、課題を捉えることが難しく、当事者の悩みを理解できない傾向にあります。

これらの課題を把握し、解決していくためには、世代を超えた交流や地域での人付き合いをより深めていくことで、お互いの理解を深めることが必要だと考えられます。

➤ **各分野での必要なこと・できることは「声かけ・見守り」**

子ども・子育て世代、高齢者、障がいのある人にとって必要なことやできることとして、「声かけ・見守り」が高くなっています。

住民同士の声かけ・見守りは、日ごろのちょっとした心がけで可能なことであり、地域で支え合う関係を築くためにも重要な活動と考えられます。

➤ **70歳以上の「持ち家（一戸建て）」が約8割**

70歳以上の持ち家率が高く、高齢夫婦世帯の持ち家率が高いことから、空き家の増加が懸念されます。

また、岐阜市においては、人口は緩やかに減少しているものの、世帯数が増加しており、新築戸数も増加していることから、空き家が発生しやすい環境にあると考えられます。

空き家の利活用等、新たな取り組みを検討する必要があると考えられます。

<子ども・子育て>

➤ **ワーク・ライフ・バランスの充実**

子ども・子育て世帯をとりまく課題として、「仕事と子育ての両立」が最も高くなっています。

特に高校生以下の子どもがいる世帯では、3人に2人が「仕事と子育ての両立」が課題と回答しており、今後は、ワーク・ライフ・バランスの充実のため、勤務先への理解を深めてもらうよう働きかけるなど、子育て世帯を社会全体で支えていく必要があると考えられます。

➤ **行政、関係機関、地域での見守り**

地域で子どもや子育て世帯を見守るために必要だと思うこととして、「子ども達の見守りや声かけ」が高くなっています。

そのため、行政、関係機関、地域が協働で子どもや子育て世帯を見守っていく必要があり、さらに、「幼稚園・保育園、学校や児童館などとの連携」「子どもを一時的に預かってくれる場所」の検討も必要だと思われています。

<高齢者>

➤ 高齢化による老老介護

高齢者をとりまく課題については、65歳以上の人のいる世帯や高齢者向けの活動を行っている事業所等では高齢者が高齢者を介護する「老老介護」を課題と回答している割合が高くなっています。

老老介護は、介護する側が介護疲れで入院するなど世帯全体の課題であり、介護者を含めて世帯を丸ごと支えていくことが必要と考えられます。

➤ すべての地域での高齢者との交流・つながりづくり

高齢者との交流やつながりについて、北東部では「ある」、中央南では「ない」が、それぞれ高くなっています。

北東部は自治会への加入率・地域活動参加意向が高く、今後、町内会・自治会、ボランティア等の地域活動に参加する意志が高い地域と考えられます。

さらに、子ども・子育て世帯が安心して暮らせる環境と思う割合も高くなっていることから、普段からつながりを持つことが、地域生活の安心に結びついていることがうかがえます。

<障がいのある人>

➤ 障がいのある人への理解

障がいのある人をとりまく課題について「わからない」や、障害者手帳所持者のいる世帯では「偏見や差別があること」が最も高くなっています。また、地域で暮らしていくために必要なこととして「障がいのある人への理解を深める」の回答割合が最も高くなっていることから、今後、住民の障がいに関する理解促進のために、啓発や周知を図る必要があります。

また、事業所アンケートからも、「障がいのある人への理解を深める」ことや「障がいに関心した生活の場」が必要であるという回答割合が高く、障がいのある人への理解の推進と、社会全体で障がいのある人を支援していくことが必要と考えられます。

Ⅲ 団体ヒアリング

1. 概要

1) 調査目的

本調査は、福祉に関係する団体等の意見・要望等を把握し、本市の次期地域福祉計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

2) 調査団体等及びヒアリング日

団体等名称	ヒアリング日
岐阜市あけぼの会	8/3
岐阜市地域包括支援センター三里本荘 岐阜市地域包括支援センター境川 岐阜市地域包括支援センター精華 岐阜市地域包括支援センター西部	8/6
岐阜市地域包括支援センター中央北 岐阜市地域包括支援センター島城西 岐阜市地域包括支援センター中央西 岐阜市地域包括支援センター南部	8/8
岐阜市地域包括支援センター長森南 岐阜市地域包括支援センター長森 岐阜市地域包括支援センター白梅華 岐阜市地域包括支援センター長良（機能強化型含む）	8/9
岐阜市地域包括支援センター岐北 岐阜市地域包括支援センター北部	8/10
岐阜市地域包括支援センター清流 岐阜市地域包括支援センター東部（機能強化型含む） 岐阜市地域包括支援センター岩野田 岐阜市地域包括支援センター北東部 岐阜市地域包括支援センター厚見（機能強化型含む）	8/16
岐阜市身体障害者相談員	8/17
岐阜市基幹相談支援サテライトクロス	8/28
岐阜市基幹相談支援サテライトうかい 岐阜市基幹相談支援サテライトふなびせ 岐阜市基幹相談支援サテライトふなびせ南	9/3
知的障害者相談員	9/6
岐阜市民生委員・児童委員協議会	11/14

2. 団体ヒアリングからみえてきた課題（まとめ）

<全体>

➤ 担い手不足

自治会役員や民生委員・児童委員等、担い手が不足している状況です。また、役員の高齢化が進み、役を一人で何役も受け持っている現状があります。

その結果、一人にいくつもの役が集中し、忙しいからやりたくない敬遠される状況となっています。

今後は、地域の将来を担う若い人の加入を促進するためにも、役割を分担するなど、一人に仕事が集中しないように配慮する必要があります。

➤ 地域福祉の啓発が不足

住民が地域福祉に触れる機会が少なく、また、地域福祉への関心も低いことがうかがわれます。

こうした現状を変えるためには、住民に対し、特に若いころから、丁寧に地域福祉について啓発していくことが重要と考えられます。

<子ども・子育て>

➤ 地域での子育て

地域の子どもへの関心が薄くなっていることや、学童保育がある一定の学年で打ち切られてしまうことが課題として聞かれています。

子どもの見守りや声かけを地域で行ったり、世代を超えた交流を通し、地域が子どもに関心を持ち、地域で子どもを守り育てていく必要があると考えられます。

<高齢者>

➤ 独居や高齢夫婦世帯の高齢者の生活

高齢者のひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増加するとともに、ごみ出しや買い物が難しくなっている地域があることがうかがわれます。

また、高齢者に対し、身体介助や生活介助を行うホームヘルパーの不足も課題となっています。

高齢者の日常生活の困りごとを解決するためには、隣近所や地域での交流を通して、身近な高齢者を把握し、つながりを持つことが重要です。

<障がいのある人>

➤ 障がいのある人への理解

障がいのある人への理解が進んでおらず、障がいがあることを周囲に隠している現状がうかがわれます。特に親にその傾向がみられることも課題として挙がっており、それが8050問題にも関わっているものとも考えられます。

また、障がいのある人やその家族は、地域との交流も少なく、そのことが地域の障がいに対しての理解が不十分であることにもつながっていると考えられます。親や家族、地域の住民が障がいのある人への理解を深めるための学びの場や交流の場が必要です。

3. 団体ヒアリングの主な意見

地域域包括支援センター（機能強化型を含む）からの主な意見

高齢者やその世帯の孤立に関して

- ・ひとり暮らしが増えているため、ひとり暮らしの相談も多い。
- ・ひとり暮らしや高齢夫婦の世帯が増加している。
- ・高齢化率が高い地域では、ひとり暮らし高齢者などの孤立が課題であると認識している。
- ・身元保証のない人が多く、施設入所や入院等の場合、困るケースが多い。
- ・アパートやマンションでは、近隣との関係性がないため孤立している。
- ・親と働く息子との二人世帯は、親が日中独居になり発掘されにくい。
- ・地域包括支援センターからのアプローチを、息子や娘が拒否するケースが多い。
- ・ひとり暮らし高齢者で関われず亡くられる人、セルフネグレクトの人がいる。
- ・独居や高齢世帯は、安否確認（家族など）、運転免許の相談が多い。
- ・ひとり暮らし高齢者の中には孤立している人もいれば、昔から住んでいる人で地域とつながりがある人もおり、はっきりと分かれている。

認知症に関して

- ・認知症に係る相談が多くなっているため、聞き取りしながら受診を勧めている。
- ・家族が認知症を受け入れられるようになってきている。
- ・認知症の人の課題は、家族の精神的負担が大きくなっている。
- ・普通の生活は出来ているが、病気などで病院に行き、認知症と認識する人が多い。
- ・訪問拒否の人に、どう取り組んでいいのかわからないため時間がかかる。
- ・徘徊事例は多くなく、年に数回程度と認識している。

老老介護に関して

- ・老老介護や日常生活が困難な人が多くなっていることが課題。
- ・老老介護について息子や娘がいない、また、子ども達が居ても遠方に住んでいるため、どこを頼ったら良いのかわからないことが多い。

買い物支援・生活支援に関して

- ・大きなスーパーが軒並み閉店し、足腰の弱い人の買い物が困難となっている。
- ・買い物ができる場所が不足していると感じており、買い物が困難な地域もある。
- ・高齢者のごみ出しが難しくなっている。
- ・草むしりや庭木の剪定など、介護サービスでできないことへの要望が多い。
- ・学校に行く前の児童と連携して、ごみ出しなどの対応ができないか。
- ・人手不足のため、掃除・洗濯についてもホームヘルパーが足りない。

移動手段に関して

- ・病院へ通院するための交通手段が無く問題。
- ・郊外部では、免許を返納した人などに対する移動手段の確保が必要。
- ・高齢者が生きていくうえで、通院も大切だが移動手段の確保が難しい。
- ・免許を返納して移動手段がなくなり、高齢者は外出しなくなる傾向もある。

高齢者の自動車運転に関して

- ・高齢者の運転に関する相談が数年前と比べると増えたと感じる。
- ・事故が起こってからでは遅いので、高齢者の家族が警察に相談することも必要と感じている。

8050 問題に関して

- ・高齢者と精神障がいのある子どもの家庭など、精神障がいの相談も多くなってきている。また、そのケースへの対応が難しくなっている。
- ・高齢者と精神障がいのある子どものケースについては、関係機関との連携が非常に重要。

医療に関して

- ・家族がいない人も多く、通院できない人が増えている。
- ・今年は暑さが課題で、クーラーをつけたがらない人もおり、熱中症などで病院に搬送される人も多い状況であった。

交流に関して

- ・サロンなど顔の見える関係づくりは重要と認識しているが、参加者が固定化している。新しく来た人に対しては、参加しにくい雰囲気があるという声も聞く。

自治会・子ども会に関して

- ・自治会に加入することでどういうメリットがあるのかをPR する必要がある。
- ・子ども会の運営は、働く親の負担とならない工夫が必要。
- ・決まった人に負担がかかり、周りが忙しい所だけを見て、やりたくない悪循環だけが表面化しているように感じる。
- ・元気な高齢者の人にもっと担ってもらえると良い。

見守り・助け合い・安否確認に関して

- ・「助けてあげたい」と思う人は多いが、「助けてもらいたい」という人は少なく感じる。
- ・困ったら「助けてほしい」と声を出す意識改革が必要。
- ・周囲との関係を拒否している人がいる。そうした人への対応が困難な状況。
- ・個人情報保護法ができてから、隣近所の相談や隣を気にすることを遠慮してしまう傾向が見受けられる。
- ・集合住宅で、核となる人が中心となって声かけなどを行う事例もある。

生活保護・生活困窮者に関して

- ・生活保護受給者の中にはお金の使い方が荒い人がいるため、金銭管理が重要。
- ・生活困窮者からの相談は難しいものが多いと感じている。
- ・子どもの話など複合的な問題が多く、なかなか解決には至らない。

地域のつながりに関して

- ・隣近所とのつながりがいないため、話し相手がない人がいる。
- ・地域の課題を自分たちで解決しようとする意識が低く、他人事となっている。
- ・近所の「無関心」も大きな問題と捉えている。
- ・近所付き合いがある地域とない地域がはっきり分かれてしまっている。

地域活動の担い手に関して

- ・現役の旗振り役は80歳代の人が多く、70歳代以下の方はあまり見かけない。
- ・60歳代の役員がいないため、現役員の高齢化が進んでいる。
- ・一定の人が、一人で何役もこなしている現状があり、これ以上、何かをお願いすることができない状況になっている。
- ・集いの場の運営には、旗振り役が非常に大きな役割を果たすため、担い手不足が重要な課題となっている。民生委員・児童委員などについても担い手がない状況がある。

災害対応に関して

- ・高齢者の場合、情報を入手するのが遅い場合が想定され、何かあった時の対応が遅れるため手当てが必要だと感じる。
- ・地域の人は災害時の支援を一番支えて欲しいと感じる。

関係機関との連携に関して

- ・虐待などのケースもあり、医療・介護に加え、「司法」との連携も必要と感じることがある。
- ・障がいのある人が関係するケースでは、特に連携が必要だと感じている。

子ども・子育てに関して

- 近所に住んでいる人を知ること、子どもの教育として必要と思っている。
- 子育ては家庭に任せるのではなく地域で考え、その過程で高齢者も巻き込んでいくべき。
- 子どもに対して、地域が気になくなってきていると感じる。
- 学童が学年で打ち切られ、共働き世帯には厳しい状況はうかがわれる。高齢者が子どもを一時的に預かってくれるような取り組みがあると有意義。

地域福祉に関して

- これまで地域のことに関わってこなかった人を、急に取り込もうとすることは、非常に難しい。若い世代から意識を高める取り組みが必要ではないか。
- 高齢者に限らず、障がいのある人や児童も地域福祉は顔の見える関係が大切と考えている。
- 住民へ「地域福祉」に関して啓発することは必要である。住民一人一人が現実を認識できれば、今よりも大きく変わると感じる。

基幹相談支援サテライトからの主な意見

関係機関との連携に関して

- 関係機関との役割分担など連携がうまくできていない現状があり、対象者に即時対応できないことを危惧している。
- 高齢者の中に潜む障がいのある人の情報をつかむため、地域包括支援センターとの連携が非常に重要だと感じている。

相談・連絡に関して

- サテライトが、地域によってまだ周知されていないこともあるため、引き続き周知を図ることが重要である。
- 8050問題のような引きこもりに関する相談は多くなっている。
- 事業所や家族から、親が亡くなられてからの相談が多くなってきている。

障がいのある人への理解に関して

- 障害のある人やその家族が、地域に出る経験が少ないのではないかと。
- 障がいのある人への理解がまだまだ進んでおらず、周りの目を気にして障がいを隠すことが多い。
- 障がいのある人の家族への理解が重要である。
- 障がいのある人への理解が進まず、他人事になってしまう。

災害に関して

- 障がいのある人から災害時にどうしたら良いかと相談はあるが、障がいのある人（知的、精神）が防災訓練に参加することを見たことがない。

その他に関して

- 高齢の親子（親の介護をきっかけに離職、しかし復職できず、親の年金で生活していく）のケースが今後増えていくのではないかと。
- 様々な障がいに精通するジェネラリストを養成することも考えていかなくてはいけない。

民生委員・児童委員協議会からの主な意見

認知症に関して

- ・認知症などで徘徊する高齢者に対する見守りについて、現在は、地域での見守りや認知症への理解がかなり進んだように感じる。
- ・見守り活動全般において、地域で見守る意識や周りが受け入れられる雰囲気づくりが重要である。
- ・見守りに関する事業は重要だが、時代に合ったやり方などを考える必要もある。

生活保護に関して

- ・本人が少しでも自立しようとする意識改革が重要である。

買い物支援に関して

- ・現在、実施している移動販売が非常に好評である。普段外出しない高齢者が、この移動販売の時は外に出て、近所の人と交流を深めるなどの二次的な効果も生まれている。

その他に関して

- ・高齢者の単独世帯では、孤立死などの状況はより増えていくと感じている。

(身体・知的) 障害者相談員、岐阜市あけぼの会からの主な意見

相談に関して

- ・緊急な状況にならないと相談に訪れないことが多い。
- ・最近では発達障がいに関する相談が多い。
- ・相談の際に当事者に聞こえることを気にする人もいることから、対面、電話のほか LINE を利用して相談に応じる場合もある。
- ・窓口や関係機関を案内する場合は、そこへ行くこと自体がハードルになることから、付き添うことが理想である。
- ・相談に訪れても、聞きたいことが分からない人もいることから、まず、傾聴し、必要な情報を得ることが重要である。

障がいのある人への理解に関して

- ・人によっては障がいがあることを話すことを嫌がる人もおり、話しやすい環境づくりが重要である。
- ・障がいは恥ずかしいとの思いを持つ人もいる。
- ・見た目では分からない障がい（知的、精神）を理解しなければならない。
- ・子が精神障がいであることを知られたくないと思う親が多い。
- ・ネットや本だけの偏った知識を持つ親が多いことから、正しい知識や対応方法などを周知することが重要である。

就労に関して

- ・雇用率は上がっているが、一方で定着率は悪いままである。

災害に関して

- ・手帳所持者の把握が出来ないと、災害時なども支援できない。

学校での教育に関して

- ・心のバリアフリーといわれるが、幼少期の理解啓発・教育などが大切だと感じる。
- ・「おかしい」と思った子が診療につながるように学校等での正しい知識、早期診療の普及が重要である。

Ⅳ ワークショップ

1. 概要

1) 目的

アンケートの調査結果を踏まえて、地域福祉についてのワークショップを、岐阜市役所にて3回開催しました。

2) 実施内容

第1回のワークショップでは、「地域福祉の理想的な姿とは？」をテーマに参加者の皆さんに「岐阜市や自分の地域がこうなるといいな」ということを、写真を使いながらイメージしてもらいました。

第2回では、第1回の地域福祉の理想的な姿を目指すため、今の岐阜市にある課題や問題点を皆さんに考えてもらいました。

第3回では、第2回で出された課題や問題点などを解決するために何ができるかを考え、共有しました。

第1回（10/10） 地域福祉の理想的な姿とは？

写真を使いながらグループで地域福祉の理想的な姿をつくり出します。

第2回（10/16） 岐阜市の課題や問題はなに？

第1回でつくり出した地域福祉の理想的な姿を目指すうえでの
岐阜市の課題や問題点をグループで考えましょう。

第3回（10/24） 課題解決のためにできること

第2回でまとめた課題や問題点を解決するための
解決策や役割分担を考えましょう。

2. ワークショップからみえてきた課題とその解決方法（まとめ）

➤ 世代を超えた交流の場づくり

少子高齢化の進展に伴い、地域活動（ボランティア・町内会・子ども会）への参加率が低下しており、地域住民のつながりの希薄化が課題となっています。

そのための解決方法として、「世代を超えた交流の場づくり」が挙げられています。この交流の場は、居場所づくりや地域福祉に関する意識の向上、見守り・支え合い活動にもつながると考えられます。

また、日ごろからの交流が、災害時の助け合いにも力を発揮することから、普段から、あいさつ等のつながりが重要となります。

➤ 地域住民の意識改革

地域活動の課題として、活動する人の高齢化や担い手不足、自治会への加入率が低下していることが挙げられました。

それらの解決方法として、住民の意識を変えていくことが重要だとの意見がありました。「お互いさま」や「向こう三軒両隣」の精神を育むとともに、自分の住む地域に関心を寄せ、愛着の持てる人を増やすなど、住民一人ひとりが近所での支え合いの重要性を認識していくことが必要です。

➤ 民間や団体との協働

普段の生活を送る中で、子ども・子育て世帯、高齢者、障がいのある人は、様々なサービスが必要となります。

介護が必要な高齢者には、介護サービスや移動・外出支援等、また、子ども・子育て世帯には、子どもの預かりサービス等それぞれの生活状況やライフステージによって必要となるサービスは様々です。

市では各分野において多種多様なサービスを提供していますが、これからも、地域で活動する団体や民間企業等との協働を推進し、サービスの充実を図っていくことが重要となります。

3. 各分野からみた主な意見

<子ども・子育て世帯>

- 世代を超えて交流・遊べる場で子どもの居場所づくり

【課題】少子化の進展、保護者の多忙、遊び場の減少

【解決方法】地域の人子どもを見守り、親も相談できる場づくり

子ども食堂やイベント開催による居場所づくり

世代を超えて遊べる場・公園

<高齢者>

- 高齢化に伴う様々な課題には、「行政や民間のサービスの充実」と「交流」が必要

【課題】高齢化に伴う、老老介護・認知症の増加・独居高齢者の増加・孤立

【解決方法】行政や民間による買い物支援や移動・外出支援

関係機関の見守りや訪問などのサービス

地域での見守りや声のかけ合い

中高生も巻き込んだボランティア活動

高齢者の交流の場、世代を超えて交流できる場づくり

<地域活動>

- 地域住民の郷土愛の醸成や「お互いさま」の意識向上

【課題】活動する人の高齢化と担い手不足、地域活動・ボランティアへの意識の醸成

地域での交流の場がない、自治会加入の減少

自治会に加入していない世帯の状況把握が困難

【解決方法】課題にすぐに対処する「すぐやる課」の設置

「お互いさま」「向こう三軒両隣」の精神の醸成

ボランティア活動を行うきっかけづくり

交流の場づくり

自分の住む地域に関心を寄せる人を増やす

自治会に入るメリットの明確化

<環境・安全>

➤ 既存のものに新たな活用方法を見出す

【課題】交通安全の問題、空き家問題、耕作放棄地、避難行動・要支援者の所在が不明

【解決方法】登下校でのボランティア活動による交通安全の推進

空き家を地域住民のふれあいの場として活用

耕作放棄地を市民農園として活用

万が一の災害時に備え、平常時からのつながりづくり

<生活>

➤ 民間との協働と地域での交流

【課題】買い物難民、交通が不便、近隣に住む外国人とのコミュニケーションがない、
制度や相談窓口がわからない

【解決方法】スーパー等の民間との協働

乗合バス等公共交通の充実

外国人との集いの場や日本語を教える場づくり等外国人との交流の場づくり

世代に合わせた広報や情報提供の仕組みづくり

4. ワークショップにおける各グループの記録

地域福祉の理想的な姿

グループ A 「しあわせな一生を送れる地域」



①（一枚目は子ども時代です）

私たちの地域は、子どもが多く、みんなで楽しく学校生活を送っています。
自然も豊かで、人とふれあいやすい地域です。自然にあいさつも交わされています。



②大人になっても、地域でみんなで暮らしています。

今日はお母さんの誕生日。家族みんなで集合写真をとっています。



③高齢者になっても、元気に地域貢献。ボランティア活動にはげみます。

それが生きがいになっています。



④今日はデイサービス！楽しく過ごせるデイサービスがあるから、私も家族も安心です。

この地域に生まれてよかったです。

グループ A 岐阜市の課題と解決策

複雑化
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔ながらの住宅と新興住宅との意義の差 ・年齢によって問題が違う ・広い、多い（実情は地区によって様々…） ・地域活動の主役が高齢化している ・地域の行事が若い人の生活に合わない
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことに関心を持つような流れづくり、集まりの場を作る【行政】 ・町内会定期開催ワールドカフェ活用

地域のつながり
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助けてと言えない（ニーズが埋もれている） ・町内のイベント、知り合いがいらないし参加したくない… ・読書会をしたいけど誰かいないかな… ・隣近所とのつながり
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えてふれあえる場所 ・機会を作る【行政+地域住民】 ・情報収集、発信【行政<専門職>+住民】 ・近所付き合いができる環境づくり【地域住民】 ・自分の住む町に関心を寄せる人、自治会に参加する人を増やす【ボランティア+行政】 ・町内の仕事を細分化して、多くの人が役割を持つことでつながる【町内】 ・町内介護みまわり隊ナース【町内ボランティア+行政】 ・自治会加入のメリットを作る？【行政+住民】 ・こういう取り組み（今回の）を広く周知して、参加してもらい自分の意見を出す ・行事の周知を積極的にする【住民】 ・地域行事への理解と参加の促し【企業+行政】

ボランティア
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者の活躍の場 ・ボランティアしたいけど、どーしたらいい？（誰に聞く？どこに聞く？） ・ボランティアしたいけど、私に何ができるかな？（特に技能ないし）
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査をお願いする【行政】

独居老人
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・独居老人 ・孤立死 ・孤独老人の責任を取る人、機関 ・施設ケアの格差 ・老老介護 ・高齢者のみ世帯の増加 ・ひとり暮らしのおばさん、血圧が上がったと言ってたけど大丈夫かしら？
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・さりげない見守りの目を増やす【住民】 ・今の現状を知ってもらう（関心を持ってもらう）【行政+住民】 ・老人の各々の課題（各自●●の充実）人手など
労働環境
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・雇用 ・年金だけでは生活できない ・介護施設職員の賃金増
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革！！雇用体制の見直しをする【民間】 ・働き方改革がどのように余暇を生み出すのか未知の数だが（国として考えていく）
子育て
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が忙しすぎ（子どもの心） ・保育所の環境充実
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂で居場所づくり（受けてくれる法人を探す、資金支援）【市】 ・義務教育全無料化【行政】 ・教育改革
移動手段
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・団地からバス不便・交通（バス） ・地域によりバスが減ってきた（高齢者はでかけられない） ・夜道（一面が田んぼ）が物騒
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの充実【行政】 ・コミュニティバスを増やす【企業・行政】 ・都市部に住んでもらうように呼びかける【行政】 ・AIロボ活用、夜回りロボ【企業】 ・自動運転の実用化【行政+企業】

非常時
課題 ・災害（避難） ・災害時の対応 ・災害時の認知症介護家族の不安
解決策 ・災害訓練の実施、地域住民全員が参加できる工夫（時間帯）【行政】 ・福祉避難所増設と市民に周知する【市+協力施設】 ・災害に対する意識、高齢者・障がいのある人を知る【行政+地域住民】 ・平常時からのつながり、見守り【住民】
空き家
課題 ・お隣さん空家で少し怖いなあ～
解決策 ・空家はリノベーションする。(Ex)古民家カフェ（大学生を使って）【市】 ・地域住民のふれあいの場として活用する【行政+地域住民+企業】
その他
課題 ・精神障がいのある人の社会復帰 ・各種団体の整理 ・任意団体の私物化
解決策 ・認定や許可は有期として、行政機関が確実に団体等を把握する【行政】 ・団体の役割の共有！！（やっていること）協働！！【行政+住民+団体+企業】 ・精神障がいのある人の見守りは、保健所の職員が行う【行政】

グループ B 「みどりのある明るいまち～巡り巡って～」



- ①理想的なまちのありかた
- ・みどりとまちが融合している
 - ・住みやすいまち
 - ・都会すぎず、田舎すぎず



- ②市民自ら環境整備
(子どもと高齢者もみんな)
緑を大切にする活動が行われている



- ③子どもが安心してすごせている
- ・地域の見守りがある
 - ・みんなで仲良く生活している



- ④大人と子どもと一緒に地域清掃
・世代を超えた地域のつながり
・大人が子どもの手本になっている
＝秩序あるまち

豊かな緑や大人を見てきたからこそ

グループ B 岐阜市の課題と解決策

環境
課題 <ul style="list-style-type: none">・空き家問題・空き家・野良猫が多い
解決策 <ul style="list-style-type: none">・空き家の再利用・空き家の管理（交流の場）・空き家の撤去のサポート・移動販売と空き家利用【地域】・空き家調査【市】

若年層
課題 <ul style="list-style-type: none">・若年層の数が減少傾向・単身者の増加・若者が県外に出てしまう・ネット社会が怖い（中高生）・学童保育の充実 （17時を20時に延長）
解決策 <ul style="list-style-type: none">・県外流出、雇用のための企業誘致→税金→若者集まる【行政】・県の奨学金の理解・充実・学童保育20時延長【市+企業】・マッチングお見合いイベントやって下さい

ひとり
課題 <ul style="list-style-type: none">・独居の高齢者が増加傾向（見守る人いない）・高齢者、孤独・ひとり暮らしの高齢者の増加・認知症の増加とその対策・福祉に関するサービスや施設の認知度が低い・障がいのある人、ひとりぼっち
解決策 <ul style="list-style-type: none">・民生委員さんを増やして下さい・高齢者のお見合い・高層ではないアパート（マンション）にしていく【企業】

買い物
課題 <ul style="list-style-type: none">・小さな手助けと日常の見守り活動・買い物支援・高齢者、買い物が不便
解決策 <ul style="list-style-type: none">・コンビニエンスストアとの協働【市】・商業施設を充実させる【企業】

交流
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢、障がい、児童などの交流 ・ 高齢者の健康支援 ・ 閉じこもってしまい交流できない ・ 世代を超えた交流 ・ 三世代交流が必要 ・ 話し相手に出会えていない ・ 近所付き合いの希薄化
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 傾聴ボランティア ・ 近所付き合い、自治会（町内会）の交流 ・ コミュニティ・スクール、土曜授業の活用、スーパーシニアの活躍 ・ 学校での交流を増やす（高齢、障がい、児童）

安心
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 不審者に間違えられるから声がかけれない ・ 子ども達が外で遊びづらくなっている ・ 困った時の近隣住民の助け合い ・ 高齢者、障がいのある人への気遣い
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、施設に出向いて講演会【現場の人】 ・ 近隣住民の助け合い、自治会（町内会）ごとの交流 ・ ボランティアさんを増やして下さい ・ 住民教育（啓発） ・ 傾聴ボランティア

安全
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事故が不安 ・ 交通安全。横断歩道、信号が欲しい ・ バス停、駅に行くのに歩く道が暗い ・ 交通安全活動に参加している人の注意が不足している時がある ・ 子どもの登下校の見送り ・ 障がいのある人、出かけるのに不便 ・ 公共交通手段が悪い ・ 高齢者も子どもも道路が渡れない ・ 街中のバリアがまだある ・ 弱者の災害時の避難支援
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 車に自動横断歩道ブレーキ【企業】 ・ 安全、電柱の地中化【市+電力会社】 ・ 乗り合いバス【市+企】 ・ AIの活用【企業】 ・ 自動運転バス【企業】

グループC「ぎふっていいまちといたいネ」



①子育て中のお母さんの明るい声はずみます。
話題は……



②健常の方も障がいをもった人もともに……



③緑いっぱい
花いっぱい
次世代を背負う子ども達



④そんな住みよいまち
ぎふって……いいまち。

グループ C 岐阜市の課題と解決策

少子化	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがみんなで遊ぶ場がなくなっている ・人口の減少対策は？ ・世帯は増えているのに、一世帯人数は減っている ・少子化、子ども会の人数に差がある
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動や子育てに関する有給を設ける【企業】 ・自由な働き方（始業時間等。例:9:00～4:30→8:00～3:30）【企業】 ・子ども会の人数の差、地区割り等の統合又は分割を考えて実行する ・高齢者と子どもと一緒に行事 ・みんな（高齢者、障がい、子ども、子育て中）で遊べる公園を作る ・一緒にやるイベントづくり ・遊ぶ場所がない。地区内の公園の管理（草取り等）が実施されず、遊べる環境づくりが疎かになっているので環境保全をする ・子どもが欲しいのに出来ない人向けに不妊治療等を岐阜市に助成をしてほしい！【行政】 ・住む人を増やす
労働力と地域	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・労働時間問題 ・核家族化、共働き世帯の増加 ・子どもが卒業すると地域から遠くなる ・働く世代が地域から離れている
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動のための時間を作れるような職場の理解 ・生活に合った働き方（シフト制など）【企業】 ・Uターンできる職場 ・地域活動ポイント制
高齢者	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の人の健康の維持＋若い時からの予防 ・老人クラブがなくなっている地区がある ・高齢者、独居者の見守り活動が一部団体に偏っている（例、民生委員がすればという感じがある） ・ひとり暮らし高齢者が多くなっている ・老老介護の行く末
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の買い物無料で運んでもらえる様に店（買った）がやってほしい ・ボランティアが高齢者の買い物手伝い（車での送迎や荷物運び） ・自治会公民館でサロン、お茶 ・サロンに行けない人に送迎ボランティア

<ul style="list-style-type: none"> ・となり3棟、声かけ運動 ・高齢でも働く場を作る（1時間）
<p>広報</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報ツール ・回覧が回らない（高齢者） ・「岐阜市」といっても、広く色々な地域がある ・地域内での福祉活動の情報公開が遅い ・各地域にある窓口は知っている？ ・自治公民館、活用されていない ・「地域福祉」に対する理解認識
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政は広報対策にあらゆる手段を考慮しているか？ ・広報、つながり。現在はネット時代で広報ぎふ等見る前にネットで情報を入手できるので、広報ぎふ等の配布による住民間のつながりが薄くなる。どこでも配置ではなく、限定したらどうか ・若い人達にSNSなど、世代に合わせた広報【国+市】 ・情報のキャッチの仕方の把握を行政がする

<p>つながり</p>
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく移住して来た一家に地元の昔からある行事にいかにか馴染んで貰えるかが（協力して）重要な課題です ・高齢者と子ども達のふれあう機会を多くして、地域全体の行事、更に馴染んでもらう ・自治会に入らない ・地域全体で集まることが市民運動会ぐらいしかない <ul style="list-style-type: none"> →行事でしか盛り上がれない、これだけがツールになることが問題 →ここに参加出来ない人のことも考える、参加したくても出来ない人もいる ・40代、70代・担い手の存在、市民全員が担い手という意識を持つ方策 ・若年層が責任を持つために…何が出来ているか ・子どもと関わることができない ・他人ごとではないという気構え ・障がいのある人をいかに不自由なく皆んなと仲良くしてもらうには何が一番大切か ・障がいのある人の親亡き後、孤立化 ・組織に頼りすぎず自分ごとに… ・高齢者の買い物不便 ・ちょっとした助けができない
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、地域、福祉教育 ・登校途中のボランティア ・「お互いさま」の意識 ・みんなの気持ちづくり ・高齢者と子どもがつながれる場所づくり ・集まれる時間づくり【個人】 ・「向こう三軒両隣り」という意識の構築 ・子ども会への加入

グループD「岐阜の町安心・安全はみんなの協働から」



- ①・子どもが安心して暮らせる町は高齢者にもやさしい
- ・親子でなく、みんなで登下校できる姿が望ましい
 - ・子どもが自然を感じる理想の姿
 - ・安全、地域のすがた



- ②・地域そろっての清掃はみんなの心と心を結びつける
- ・地域で清掃することで、地域の理想を考えていける
 - ・また世代や家庭をこえた交流ができ、地域の盛り上がりや防犯にもつながる



- ③・町を花でかざることは心安らかな場所・地域づくりになる
- ・花植えを通じて、地域の人々と会話ができる（交流できる）
 - ・自然が豊か



- ④・各家庭も明るい毎日が過ごせる
- ・家庭も笑顔になり、地域もよりよくなる
 - ・地域がよくなることで、家庭も笑顔になり、理想の地域になる
 - ・住みやすい地域

グループD 岐阜市の課題と解決策

ボランティア	
課題	<ul style="list-style-type: none">・ボランティアは自分のためになることがやっと解りました
解決策	<ul style="list-style-type: none">・ボランティア、参加するタイミングを与える。学校・自治会・市の行事で・空き家を子ども食堂に→お金や人は地域の人、ボランティア・地域の中に、その地域の中の高齢者の困り事を解決するボランティアグループができるとよい。手助け隊、困り事解決グループ（社協さんが藍川、芥見地域の中で作っている）

環境整備	
課題	<ul style="list-style-type: none">・道路の横断歩道がない箇所がある（自転車用はあるが）・道路が整っていない（複雑）・ごみ集め→個別収集希望→持っていくのが困難 ・中心部の空家が増加→駐車場増える
解決策	<ul style="list-style-type: none">・空き家（税を高くする）の積極的な活用のため、再利用化のルール決めを行う→町中に人が増える・子どもが安全に遊べるように公園や施設が増えるといい・月に1度、地域の人と交流する（ごみ拾い・訪問する）→地域で行う、子どもも巻き込む・道路工事後の修復を綺麗にする、基準はあるのか？

高齢化による問題
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人ばかりの町になる、お互いに助け合うこと。近くの人達がグループで助け合うには… ・地域の高齢者が自分の地域の中で大切にされている実感をどのように作っていくのか ・隣への伝言、回覧を留守がちで遅くなる。日中、ひとり暮らしで出歩いている ・地域との関わりが薄くなっている ・地域で交流するイベントが減っている ・地元への愛着が薄くなっている ・まちの中心部、高齢所帯（又はひとり暮らし）が大半である
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の知恵を借りる（昔やっていた地区の祭り、行事 etc を聞いて今でも出来るように考える）【住民】 ・高齢者が屋外に出て来る様な地域交流の場を積極的に作る【地域+住民】 ・デイへ行くより好きなこと（絵を描く、スポーツ）など…をする友達同士でグループを作って遊ぶのが楽しい ・家庭菜園のような仕事が一番健康に良いようです ・身近な地域の範囲で（町内会ぐらい）、高齢者（世帯）同士が交流できる機会をたくさん作れるとよい（行事、カフェ、交流会 etc） ・ケアマネさんやヘルパーさんの仕事の範囲が限られているが、これからはもっと仕事の範囲を広げたり職員の給料を増やして、じっくりと付き合う体制を作っていけるとよい

子ども・子育ての問題
<p>課題</p> <p>◆子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兄弟姉妹が減っている ・子どもが少なくなった、町内に小学生がいらない⇒学校とのつながりが薄い、公民館 ・小学校の合併で通学路が長くなる、1学区の区割りの見直し ・子どもがすぐ家に帰れない→家にいる時間が少ない ・子どもの遊び場が少ない <p>◆子育て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題や問題点、シングルマザー宅の子どもに対する夕食（食事）のサポートを地域に要請するのが良いか否か？ ・若者が少ない（他市町村へ流出？） ・保育施設が少なく、子育てに不安がある
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊べるイベントを行う→市と学校の協力、学校を遊び場に ・子どもの遊ぶ時間を増やす、集団下校が障壁か ・シングルマザー宅の子ども達が集まり、食事や遊びができるよう施設を作る【ボランティア】 ・子どもが育てやすい町をつくる ・若者を呼び込めるイベントを作る ・公民館を保育施設に→地域の人が子どもを見守る、親も子育て相談できる ・子育て相談をしやすい環境づくり→集りを作る、来ない人には個別訪問【市（できれば）】

こんな事で困った！

課題

- ・病院が少なく、利用し難い
- ・老人は引きこもりにならない、認知症の理解がないとどんどん進むので（介護の会）があることを知ってほしい！
- ・ひとり暮らしの高齢者の人が「困りごと」があるとき、どういう筋道で“困り事”の解決が図れるのか。道筋がわからない高齢者が多い
- ・課題や問題点、買い物難民に地域として特に高齢者に協力又は市か社協から量販店（スーパーへ）交渉要請
- ・日常の買い物ができるのは、コンビニか薬局くらいしかなくなった
- ・介護施設が少なく、利用できない人がいる ・介護者の負担が大きい
- ・身近な地域（連合自治会内の小自治会）で、高齢者の困り事の解決を図れる協働の仲間（隣近所）がどんどんできていくとよい（いくつかの自治会で出来始めている）

解決策

- ・目安箱の設置→困りごとなど、地域と市で行う
- ・老老介護が今後、多くなってきます
- ・買い物難民（特に山を切り開いて造った団地）【スーパー】
- ・高齢者の認知症の種類。アルツハイマー症（AD）・パーキンソン症（PD）、前頭・側頭・血管症（目付きが変わる）、レビー小体症（寝たきり型）、徘徊症型、その他
- ・家族が認知症になったら一人で悩まないで、地域支援センターへ電話で聞いて下さい（認知症の人と家族の会）を紹介していただきます

日本に住む外国人とのコミュニケーション

課題

- ・外国人の（日本にいる）人とのコミュニケーションがとれない

解決策

- ・外国人…日本の文化、常識を教える場所を知らせる（方言、地域のしきたり等）
- ・外国人の人とのコミュニケーションできる“集り”、カフェなどを身近なところ（地域の中）に出来るとよい
- ・身近な地域の中で、日本語を学習し合える場所、学校ができるとよい。教える人も地域の人で担い、その結果、交流できると思います
- ・小中学校の行事に外国人の人を招いて、外国人の人が自分の国のことを発言してもらったりして、親も参加して交流できるとよい

グループE「分かり合えるやさしい社会～人間っていいな～」



①三世代家族で毎日健康。笑顔の生活をし、地域とつながりを持って楽しく過ごしたい



②ボランティアが花だんに花を植えてきれいな町づくり。心が和む。
生きがいのある日常。高齢者も大切な人材。
コミュニケーションから仲間もできる。
近所づきあいが生まれ安全な町になる。



③「子どもは宝」
子どもが安心・安全で暮らせ
ふるさとを思う心を育む⇒やさしい社会



④グローバル社会で外国人をはじめ障がいのある人や子ども、お年寄など様々な人が手を取りあっている。
景色もよく住み良いまちのおかげで、どんな人とも相互理解を深められる地域に。
輝く未来に向かって、みんなハッピー！

グループ E 岐阜市の課題と解決策

子ども	
課題	・1人の時間が長い、または養護施設の子も達とのふれあい
解決策	・遊び相手・居場所づくり
外国人	
課題	・外国の人が地域に馴染んでいるか
解決策	・外国の人と関わる時、言語が分からなくても絵やジェスチャーで表現し、コミュニケーションを取ってみる
介護士の人手不足	
課題	・介護を学ぶ学生が少ない ・介護士が不足している
解決策	・介護士、せめて看護師並みの給与・待遇にする ・住民が近所に住む高齢者と積極的に関わる。手伝いをし、興味を持たせる ・介護への偏見をなくす。待遇改善、ロボットやリハビリで労力を減らす
ボランティアの問題	
課題	・ボランティアという制度はキレイゴト！！生活が成り立たない ・ボランティアへの積極的な参加 ・リタイアした男性は暇を持て余しているように見える
解決策	・助けがほしい人とボランティアをつなげる仕組みづくり、ボランティア登録制 ・施設入所者のため、聴き取り、趣味の付き合いなど【民間のボランティア】 ・オレンジカフェ、いきいきサロンには積極的に参加呼びかけ。経験者のボランティア（各主催者とボランティアの協力？）

災害時の対応
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応、高齢者の避難は ・災害時要支援の人が誰かわからない ・災害時の対応・防災訓練が画一であり、これで災害のときに役に立つのか不明 ・駅前の美観ばかりにこだわって、人（弱者）に優しくない、駐輪禁止等
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者の人を把握する【住民】 ・ハザードマップを作ってみる【住民】 ・近所付き合いを大切に、どこに支援が必要な人がいるか把握

土地の活用
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き地 ・農作業を70代、80代の人達がやってみえる ・草ボーボーの畑が見られる
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家になる前に、生きている間にエンディングノートを書き、家や土地をどうしたいか明らかにし、子どもや近所の人に伝える ・死ぬこと（自殺ではなく年老いて）をもっと前向きに捉える ・老人の家庭、生存確認？ ・耕作放棄地はどんどん市民農園にする。岐阜市民みんなが土にふれ、栽培する【自治会+JA+市】 ・空き家バンク。むやみに新築しない、場所を限定する ・農業がしたい人を呼び込む政策、移住援助・農機械助成

障がいの理解
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人への関心が薄い ・行政はもっと外へ出て勉強すべき！（介護、障がいのある人の現状） ・ひとり暮らしの人が何を望んでいるのか不明 ・知的障がいの人が何に困っているのか聞き出せない ・障がいや認知症等、地域の人に知って頂くような機会を作る
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して声を掛けて手助け ・障がいがあっても、認知症になっても人として尊重する【行政+マスコミ】

高齢者と自治会と認知症
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書（活字）を読み、頭を使う（山梨県の事例） ・高齢の女性が2つ、3つと仕事をかけもちされている、厳しい現実だ ・三世代家族が多い地域だったが、親子の関係が悪い ・徘徊に対する対策？ ・身障者と認知症との問題点（歴史的な問題かも？） ・認知症に対する対応？ ・オレンジカフェ、いきいきサロンの拡大？ ・包括支援センターの利用！！ ・施設（種々）の状況が分からない。 ・ケアマネの利用が難しい
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徘徊。近隣・学生の協力とTAXI・各業者（例えばGPS等）【子ども+業者】 ・認知症、地域の集いの場、情報・認知症、カフェ・サロンの手伝い ・認知症、ネットの時代とはいえ紙上で理解しやすい方法。施設や窓口【ケアマネ+包括+行政】 ・認知症サポーターの講義に参加することで、まず福祉への興味、そして認知症について知る

道路・トイレ、認知症、自治会の課題
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者のための道路が問題 ・公共施設のトイレは和式が多く、高齢者・障がいのある人にとって不便 ・自治会長が障がいを持っている人をどれだけ把握しているか ・自治会に入っていない家庭は状況がわからず（例えば、ひとり暮らしの男性など）、いいのかなと気になる ・自治会連合会との情報がないので、どの様な活動をされているのか分からない ・自治会に世帯主の人のみ参加、妻は出ない ・地域の各種行事が希薄なため、交流ができない ・「あい的一声～」にプラスすべき問題 ・高齢者が何に困っているか・町内の高齢者が何人いるのかわからない ・誰を見守ればいいのかわからない
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会、運営側にも会員側にも動機を ・自治会は大事なところ、入ってみんなと親しくなろう ・自治会はNPOや住民の自主グループや中学校高校と連携する ・道路・トイレ、普段使用する時に見ることができる ・道路、トイレ、ネットを使った地図情報サービス集約→修繕

グループF「未来につなぐ地域の福祉→岐阜」



①地域の課題っていっぱいあるよねえ！
私たちや私たちの子どもの生きる未来の地域の
ために、行政や企業、専門機関もふくめてみんな
で考えよう！！



②親と子を象徴します。
子どもが下校するときには、家にはお母さんが
まっている、を表しています。
また、街中には障がいをもたれている人にやさ
しい歩道が整備されています。



③高齢者も若い子も、地域にはみんなで笑いあえ
る場所があります。



④皆で知恵を出し合い、共同し、地域にいつま
でも住みつづけられる岐阜らしい暖かい町を
つくりましょう。

グループ F 課題と解決策

少子化
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の加速 ・子どもが少ない ・地域と学校連携 ・子ども会の存続が困難
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生にもっと時間を、1 学級 3 人くらいの先生を ・国、県が教員を増やし、ゆとりある子ども中心の教育を ・国が給食費の無料化 ・国が教育費の無償化

高齢化
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三世帯世帯が少なくなっている ・核家族の孤立 ・高齢者のみの世帯が多い ・高齢者世帯の孤立・高齢者が多い ・高齢化率の増加が著しい ・アウトリーチの方法（人の支援）不足 ・e バスの使い勝手が悪い ・高齢者の「足」 ・車を手放したら介護保険… ・シルバーカーではバスに乗りづらい ・居場所 ・公民館で集うだけでは限界
<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣人への責任【住民】 ・ボランティアの活用、中学生・高校生を活用 ・福祉事業所、地域包括、保健所が高齢者の定期的な見守り訪問 ・市が、自治会が、スーパーが資源をつなぐタクシー（100 円）、シャトルバス運営 ・市が高齢者、障がいのある人のため e バス、タクシーなど玄関口までの移動手段を ・高齢化。e バス、もっと細かなバス停を作る【市交通局】 ・市が（高齢者担当）高齢者向けのスマホ無料貸出、アプリ開発（安否確認）

つながり
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティへの参画【住民】 ・企業・施設が無料でスペースを提供する ・市に民間居場所にも助成金を ・住民が散歩パトロールをする ・市が（自治体担当課）地域役員へ報酬を出す ・お金の換えられるつながり
情報
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設があっても、近所の人は何の施設か知らない ・地域福祉に関する知識が少ない ・制度の活用知識 ・活動の情報が広く共有されていない（連携） ・各種民間の取り組みの連携が進んでいない ・市民が取り組みや使える制度を知る機会が少ない
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・市・住民が地域福祉に関する知識、意見交換の場を設ける
政治
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・少子化、中心部の土地代をもっと安く ・国が仕事と子育てを両立できる働き方改革を ・正社員採用の促進【企業】
ガタガタなまち
課題 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家が多い ・居住についての支援が不足（保証人や初期費用） ・柳ヶ瀬の明かりが消えるのが早い ・地域社会の崩壊の始まり
解決策 <ul style="list-style-type: none"> ・街のコンパクト化【県+市町村】 ・ガタガタ。柳ヶ瀬地域の店主、せめて 22 時まで店の明かりを

V 課題の総括

アンケート、ワークショップ、団体ヒアリングを通して、自治会など災害時に助け合える地域コミュニティの重要性や必要性を感じている一方、地域課題を解決する担い手や地域コミュニティの旗振り役が不足している傾向がみえてきました。そのうえ、若い世代や岐阜市に転入して年月が浅い世帯は、自治会への加入率が低いのが現状です。

自治会は、その地域に住む人が親睦と結びつきを深めながら、豊かで住み良いまちづくりを目指す自治組織であり、地域における様々な課題の解決に取り組むとともに、地域の人々の連帯意識の向上に努めている団体です。

近年においては、生活環境の変化や個人の価値観の多様性が進むなか、地域のコミュニティの希薄化が見られますが、これからも、自治会に加入する重要性を自治会未加入者や若い世代へ周知し、加入を促進する必要があると考えられます。

子ども・子育て世帯に関する課題として、「仕事と子育ての両立」が挙げられます。両親が働いている家庭では、学童保育や放課後児童クラブの充実をはじめ、子どもを一時的に預かってくれる場所が求められています。

これからは、幼稚園や保育園、学校や児童館等と連携し、子どもの居場所づくりや、親が仕事と子育てを両立できる環境を整えていくことが必要と考えられます。

高齢者に関する課題として、「ひとり暮らし高齢者の孤立」や「高齢者のみ世帯による老老介護」が挙げられます。高齢化の進行に伴い、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯による老老介護は今後も増加していくことが想定されます。

また、ごみ出しや電球の交換、買い物支援等の生活支援を必要とする高齢者も多くなり、「お互いさま」の意識の向上や近隣との付き合い等、ちょっとした手助けができる関係を築くことが重要となっていきます。

障がいのある人に関する課題として、障がいに関わる「就労などの雇用の場の不足」や「専門的な知識を有する人材不足」が挙げられます。そのため、行政による雇用の場の紹介や、障がいに関する専門的な人材不足の解消等が必要となっていきます。

一方、地域住民の障がいのある人への理解も課題となっていることから、地域住民が障がいを理解するための場づくりや、障がいのある人との交流を通して、相互に人格と個性を尊重できる関係づくりが必要となります。

子ども・子育て世帯、高齢者、障がいのある人に関する共通の課題として、「交流」があります。

子ども・子育て世帯に関しては、子育てが家庭に任せきりになっており、地域で子どもを育てることがなくなりつつあります。

また、高齢者に関しては、サロンで同じ世代同士の交流はあっても、異なる世代との交流は少ないことが挙げられています。

さらに、地域では、障がいのある人との交流は少なく、地域の中で障がいのある人と触れ合う機会は見られない状態となっています。

こうしたことから、世代を超えた交流や障がいのある人とのふれあいは、地域福祉に関する意識の向上に加え、交流によって、地域で子どもや高齢者、障がいのある人を支えていくことにつながっていくと考えられます。加えて、安否の確認や声かけ等の見守りを心がけるきっかけとなり、地域住民の意識改革にもつながるものであり、いつまでも安心して暮らすことのできるまちづくりを推進するものと考えられます。

VI 資料

1. 調査票

1) 市民アンケート

地域福祉推進のための市民アンケートについて

【ご協力をお願い】

皆さまには、日ごろから福祉行政にご協力いただき、ありがとうございます。
子どもからお年より、障がいや病気のある人もない人も、誰もが地域で安心した暮らしを送ることは、全ての住民の皆さまの願いです。身近な地域での支え合いや見守りなどの支援体制の充実に向け、皆さまと一緒に取り組み、共に考え、地域で支え合いながら生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりを進めています。
岐阜市では、こうした考えのもと、次期「岐阜市地域福祉推進計画」の策定準備を進めています。
今回お願いするアンケートは、皆さまの福祉に対する意識や地域活動への参加状況などを把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、より充実した計画づくりに役立つ基礎資料として活用することを目的として実施するものです。
お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、趣意をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年7月 岐阜市長

【ご回答にあたってのお願い】

- 今回の調査対象者は、20歳以上の市西の中から2,000人の方を無作為に選ばせていただいております。
- 調査票にお名前・ご住所のご記入は不要です。
- ご記入は、ご本人にお願いをいたします。ご本人のご記入が困難な場合は、ご家族の方などがご本人のお考えをお聞きのうえ、またはご意向に沿ったかたちで、代理でご記入をお願いいたします。
- ご回答は、平成30年7月1日現在の状況でご記入いただき、あてはまる選択肢の番号に○をつけるなどしてください。また、「その他」とご回答された場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がございますので、案内に沿ってご答えください。
- 本調査の結果は統計的に処理いたしますので、お答えいただいた方にご迷惑をおかけするようなおことは一切ございません。思いのままをお答えいただけますようお願いいたします。
- ご記入いただいた調査票は、8月9日(木)までに、同封の返信用封筒に入れて(切手不要)ご投函ください。よろしくお願いをいたします。

【お問い合わせ先】
岐阜市 福祉政策課
電話：058-265-3891
FAX：058-267-6015
Eメール：fukushisei@city.gifu.jp

1 あなたご自身について

問1 あなたご自身についてお聞かせください。(○はそれぞれ1つ)

①性別	1 男性	2 女性			
②年齢	1 20歳代	2 30歳代			
	3 40歳代	4 50歳代			
	5 60歳代	6 70歳以上			
③家族構成	1 単身世帯	2 夫婦世帯			
	3 二世帯世帯(親と子)	4 三世帯世帯(親と子と孫)			
	5 その他()				
	高校生以下の子どもが、	1 いる	2 いない		
あなた自身を含め、65歳以上の人が、	1 いる	2 いない			
あなた自身を含め、障害者手帳(身体・知的・精神)をお持ちの方が、	1 いる	2 いない			
④住まい	1 持ち家(一戸建て)	2 持ち家(分譲マンションなど集合住宅)			
	3 借家(一戸建て)	4 借家(アパートなど集合住宅)			
	5 市営・県営などの公営住宅	6 社宅・官舎・寮			
	7 その他()				
⑤居住歴	1 市内の生まれで、ずっと市内に住んでいる				
	2 市内の生まれで、市外に住んだ後、戻ってきた				
	3 市外の生まれで、岐阜市に入居した				
⑥居住年数(現在の居住地での居住年数)	1 5年未満	2 5年以上10年未満			
	3 10年以上15年未満	4 15年以上20年未満			
5 20年以上					
⑦自治会の加入の有無	1 自治会に加入している				
	2 自治会に加入していない(加入していない理由、以下から理由を1つ選択)				
	1 加入する必要性を感じない	2 近所の人との関係性がよくない			
	3 会費が高く負担が大きい	4 役員負担が大きい			
	5 加入の仕方がわからない	6 その他()			
⑧居住地区	1 金華(旧金華小)	2 京町(旧京町小)	3 明徳(旧明徳小)		
	4 黎明	5 白山	6 梅林	7 本郷(旧本郷小)	8 緑園
	9 不之本	10 本庄	11 白野	12 長良	13 長良西
	14 長良東	15 豊	16 早田	17 城西	18 三里
	19 龍山	20 加納東(加納小)	21 加納西	22 則武	
	23 常盤	24 長森南	25 長森北	26 長森西	27 長森東
	28 木田	29 岩野甲	30 岩野北	31 黒野	32 力農
	33 岩部	34 舞	35 西郷	36 七郷	37 市橋
	38 岩	39 横巻	40 厚見	41 白土江(白土小)	42 芥見
	43 芥見東	44 芥見西(芥見見境小)	45 藪川	46 合渡	
	47 三輪南	48 三輪北	49 織代	50 御津町	
	99 わからない(町名を記入)				

1

2 地域福祉全体に関連して

■地域福祉とは… 地域で安心して暮らせるように、地域住民や福祉関係者と協力して、地域課題に取り組む考え方のことです。

■地域活動とは… 地域において住民が助け合い支え合う活動のことです。

■地域福祉コーディネーターとは… 地域の課題を把握し、地域と関係機関などと調整し、解決するために配置される人材のことです。

問2 あなたにとって、地域福祉とはどのようなものですか。(○は3つまで)

- 1 自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること
- 2 地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること
- 3 地域活動・福祉活動へ参加する機会が充実していること
- 4 隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること
- 5 地域活動を推進する担い手がたくさんいること
- 6 活動するための拠点があること
- 7 行政による地域活動・福祉活動への支援があること
- 8 地域福祉コーディネーターなどによる地域活動・福祉活動への支援があること
- 9 寄りこを身近に相談できる場所(窓口)があること
- 10 福祉サービス(介護・障がい・児童等の公的サービス)が充実していること
- 11 お互いに助け合う関係ができていること
- 12 その他()
- 13 わからない・特になし

問3 あなたが、岐阜市において充実していると思われる項目を問2の番号(1~12)の中から選んで記入してください。(3つまで)

--	--	--

問4 あなたが、岐阜市において不足していると思われる項目を問2の番号(1~12)の中から選んで記入してください。(3つまで)

--	--	--

2

3 地域のつながりに関連して

問5 近所の人と付き合いはありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

問5-1 「1 ある」と回答された方にお伺いします。

問5-2 どの程度の付き合いですか。(○は1つ)

- 1 よく行き来し、祭りや遊びを相談したりする家族同様の付き合い
- 2 よく行き来するが、家庭の中までは入らず、立ち話を程度
- 3 顔を合わせれば挨拶をする程度

問6 あなたが住んでいる地域では、町内会・自治会、ボランティアなどの地域社会の行事や活動が活発だと思えますか。(○は1つ)

1 活発だと思う	2 やや活発だと思う
3 あまり活発ではない	4 活発ではないと思う
5 わからない	

問7 今後、町内会・自治会、ボランティアなどの地域活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

1 参加したい	2 条件があえば参加したい
3 あまり参加したくない	4 参加したくない
5 わからない	



3

4 身近な困りごとに関連して

問8 あなたは、毎日の暮らしの中で、困りごとや不安がありますか。①～⑭の項目について、それぞれ1つに○を付けてください。

項目	とても困っている	やや困っている	あまり困っていない	全く困っていない	該当しない
(記入例) ○○○○○○	①	2	3	4	5
① 自分や家族の健康	1	2	3	4	5
② 老後の生活や介護	1	2	3	4	5
③ 生活費など経済的問題	1	2	3	4	5
④ 仕事	1	2	3	4	5
⑤ 出産・育児・子育て	1	2	3	4	5
⑥ 子どもの教育	1	2	3	4	5
⑦ 家族・親族との人間関係	1	2	3	4	5
⑧ 近所や知人・友人との人間関係	1	2	3	4	5
⑨ 地域の治安	1	2	3	4	5
⑩ 住居・住まい	1	2	3	4	5
⑪ 人権被害	1	2	3	4	5
⑫ 地域防災（地震・水害）	1	2	3	4	5
⑬ 公共交通・移動手段	1	2	3	4	5

困りごとや不安について、具体的な内容がありましたらご記載ください。

問9 現在、暮らしの困りごとや不安を、誰に相談していますか。（○はいくつでも）

1 誰にも相談していない	2 相談する人がいない	
3 家族・親族	4 知人・友人	5 隣人・近所の人
6 職場の人	7 行政（市役所など）	8 自治会・町内会
9 警察	10 医師・保健師	11 学校の先生・恩師
12 福祉・介護事業所	13 福祉団体・ボランティア	14 民生委員・児童委員
15 地域包括支援センター	16 社会福祉協議会	17 保育園・幼稚園の先生
18 その他（ ）		

5 児童福祉に関連して

問10 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題は何だと思いますか。（○は3つまで）

1 子どもの貧困	2 児童虐待
3 いじめ	4 待機児童
5 仕事と子育ての両立	6 ひとり親家庭が抱える課題
7 子育て世帯の孤立	8 その他（ ）
9 わからない・特になし	

問11 あなたの地域は、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境だと思いますか。（○は1つ）

1 そう思う 2 そう思わない

問12 地域で子どもや子育て世帯を見守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1 子ども達の見守りや声かけ	2 子育てに関する悩みごとなどの相談
3 地域で気軽に交流できる場	4 子どもを一時的に預かってくれる場所
5 子育て支援のボランティアの育成	6 幼稚園・保育園、学校や児童館などの連携
7 災害などの緊急時の支援	8 その他（ ）

問13 あなたは、子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。（○はいくつでも）

1 子ども達の見守りや声かけ	2 子育てに関する悩みごとなどの相談
3 子どもを一時的に預かり	4 子育て支援のボランティア
5 災害などの緊急時の支援	6 その他（ ）
7 わからない・特になし	

6 高齢者福祉に関連して

問14 高齢者をとりまく岐阜市の課題は何だと思いますか。（○は3つまで）

1 ひとり暮らし高齢者などの孤立	2 高齢者のみ世帯などによる老老介護
3 認知症対策	4 地域における見守り、支え合い
5 高齢者の集いの場の不足	6 高齢者が運転する自動車事故
7 身近な買い物場の不足	8 その他（ ）
9 わからない・特になし	

問15 あなたの地域では、高齢者との交流やつながりがあると思いますか。（○は1つ）

1 そう思う 2 そう思わない

問16 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食	10 災害などの緊急時の支援
11 その他（ ）	

問17 あなたは、高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。（○はいくつでも）

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食	10 災害などの緊急時の支援
11 その他（ ）	12 わからない・特になし

7 障がい福祉に関連して

問18 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題は何だと思いますか。（○は3つまで）

1 専門的な人材不足	2 障がい差別があること
3 就労などの雇用の場の不足	4 道路や施設などの利用環境
5 障がいのある人の孤立	6 その他（ ）
7 わからない・特になし	

問19 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1 安否確認の声かけや見守り	2 障がいのある人への理解を深める
3 障がいに配慮した生活の場	4 気軽に交流できる場所の創出
5 交通手段の確保など外出支援	6 買い物の手伝い
7 災害などの緊急時の支援	8 その他（ ）

問20 あなたの地域では、障がいのある人がどのような地域活動に参加されていますか。（○はいくつでも）

1 防災訓練	2 運動会
3 文化祭	4 清掃活動
5 サロン・集いの場	6 その他（ ）
7 障がいのある人は参加していない	8 わからない

問20で「7 障がいのある人は参加していない」と回答された方にお伺いします。

問20-2 あなたは、その理由が何だと思いますか。ご自由に記載ください。

問21 あなたは、障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。（○はいくつでも）

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食	10 災害などの緊急時の支援
11 障がいのある人とない人の交流	12 その他（ ）
13 わからない・特になし	

6 自由意見

問2.2 身近な地域における「助け合い」を進めていくにあたって、何か具体的なご意見はありますか。ご自由にご記載ください。

アンケートにご協力いただきありがとうございます。
8月9日（木）までに同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函ください。

★ワークショップのご案内★
このアンケート調査の結果も踏まえ、岐阜市役所にて、地域福祉を住民の皆さんと一緒に考えるワークショップを開催します。

日 程
平成30年10月10日（水）、10月16日（日）、
10月24日（水）
※3日隔すべて、夜間の開催です。

参加方法
広報ぎふ9月1日号にて、参加者の募集をします。興味のある方はぜひ応募ください！



8

2) 事業所アンケート

地域福祉推進のためのアンケートについて

【ご協力をお願い】

皆さまは、日ごろから福祉行政にご協力いただき、ありがとうございます。子どもからお年より、障がいや病気のある人もいない人も、誰もが地域で安心した暮らしを送ることは、全ての住民の皆さまの願いです。身近な地域での支え合いや見守りなどの支援体制の充実に向け、皆さまと一緒に取り組み、共に考え、地域で支え合いながら生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりを進めています。

岐阜市では、こうした考え方のもと、次期「岐阜市地域福祉推進計画」の策定準備を進めています。

今回お願いするアンケートは、福祉サービス提供事業所や社会福祉法人などの地域活動への参加状況などを把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、より充実した計画づくりに役立つ基礎資料として活用することをお目的として実施するものです。

お忙しいところ誠に恐縮に存じますが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年7月 岐阜市長

【ご回答にあたってのお願い】

- 1 今回の調査対象者は、地域において福祉サービスを提供している事業所やNPOを選ばせていただいております。
- 2 調査票に事業所名・ご住所のご記入は不要です。
- 3 ご記入は、事業所やNPOの代表者、事務・管理をしている方をお願いいたします。
- 4 ご回答は、平成30年7月1日現在の状況でご記入いただき、あてはまる選択肢の番号に○をつけるなどしてください。また、「その他」とご回答された場合には、具体的にその内容をご記入ください。
- 5 質問によっては、ご回答いただく方が限られる場合がございますので、案内に沿ってお答えください。
- 6 本調査の結果は統計的に処理いたしますので、お答えいただいた方にご迷惑をおかけするようなことは一切ございません。思いのままをお答えいただけますようお願いいたします。
- 7 ご記入いただいた調査票は、8月9日（木）までに、同封の返信用封筒に入れて（切手不要）ご投函ください。よろしくお願いたします。

【お問い合わせ先】
岐阜市 福祉政策課
電 話：058-265-3891
FAX：058-267-6015
Eメール：fukushi-sa@city.gifu.jp

1 貴事業所について

問1 貴事業所についてお伺いします。

①事業を実施している分類	1 高齢	2 障がい
	3 子ども	4 その他（ ）
②運営する法人種別	（ ） ※記入例 社会福祉法人、株式会社、NPO等	
③運営年数	（ ）年	

2 地域福祉全体に関連して

■地域福祉とは… 地域で安心して暮らせるように、地域住民や福祉関係者と協力して、地域課題に取り組む考え方のことです。

■地域活動とは… 地域において住民が助け合い、支え合う活動のことです。

■地域福祉コーディネーターとは… 地域の課題を把握し、地域と関係機関などと調整し、解決するために配置される人材のことです。

問2 貴事業所（ご回答者）が考える、地域福祉とはどのようなものですか。（○は3つまで）

- 1 自治会やボランティア等による身近な地域活動が活発に行われていること
- 2 地域活動・福祉活動に関する情報が充実していること
- 3 地域活動・福祉活動へ参加する機会が充実していること
- 4 隣近所との付き合いや声かけが日常的に行われていること
- 5 地域活動を推進する担い手がたくさんいること
- 6 活動するための拠点があること
- 7 行政による地域活動・福祉活動への支援があること
- 8 地域福祉コーディネーターなどによる地域活動・福祉活動への支援があること
- 9 困りごとを身近に相談できる場所（窓口）があること
- 10 福祉サービス（介護・障がい・児童等の公的サービス）が充実していること
- 11 お互いに助け合う関係が保たれていること
- 12 その他（ ）
- 13 わからない・特になし

問3 貴事業所が、岐阜市において充実していると思われる項目を問2の番号(1~12)の中から選んで記入してください。(3つまで)

--	--	--

問4 貴事業所が、岐阜市において不足していると思われる項目を問2の番号(1~12)の中から選んで記入してください。(3つまで)

--	--	--

3 貴事業所の活動について

問5 貴事業所では、以下のような地域福祉に資する活動を行っていますか？(〇はいくつでも)

1 近隣へのあいさつ・声かけ
2 地域住民のための交流機会・交流場所の提供
3 地域住民が参加できるイベントや催しの実施
4 地域住民の福祉の学びの機会・場所の提供
5 地域福祉の担い手の人材育成
6 各種相談窓口の実施
7 その他()
8 特になし

問5で「8 特になし」と回答された事業所にお伺いします。

問5-2 上記のような活動を実施していない理由は何ですか？(〇はいくつでも)

1 人員・職員が事業活動のみで手一杯のため
2 費用・予算が事業活動のみで手一杯のため
3 活動に必要な場所が確保できないため
4 活動のノウハウがないため
5 活動のメリットを感じないため
6 活動の必要性を感じないため
7 その他()

2

4 児童福祉に関連して

問6 子ども・子育て世帯をとりまく岐阜市の課題は何だと思いますか。(〇は3つまで)

1 子どもの貧困	2 児童虐待
3 いじめ	4 待機児童
5 仕事と子育ての両立	6 ひとり親世帯が増える課題
7 子育て世帯の孤立	8 その他()
9 わからない・特になし	

問7 貴事業所のある地域は、子どもや子育て世帯が安心して暮らせる環境だと思いますか。(〇は1つ)

1 そう思う	2 そう思わない
--------	----------

問8 地域で子どもや子育て世帯を見守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 子ども連の見守りや声かけ	2 子育てに関する悩みごとなどの相談
3 地域で気軽に交流できる場	4 子どもを一時的に預かってくれる場所
5 子育て支援のボランティアの育成	
6 幼稚園・保育園、学校や児童館などの連携	
7 災害などの緊急時の支援	8 その他()

問9 貴事業所は、子どもや子育て世帯に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

1 子ども連の見守りや声かけ	2 子育てに関する悩みごとなどの相談
3 子どもの一時的な預かり	4 子育て支援のボランティア
5 災害などの緊急時の支援	6 その他()
7 わからない・特になし	

3

5 高齢者福祉に関連して

問10 高齢者をとりまく岐阜市の課題は何だと思いますか。(〇は3つまで)

1 ひとり暮らし高齢者などの孤立	2 高齢者のみ世帯などによる生活介助
3 認知症対策	4 地域における見守り、支え合い
5 高齢者の集いの場の不足	6 高齢者が運転する自動車事故
7 身近な買い物場の不足	8 その他()
9 わからない・特になし	

問11 貴事業所のある地域では、高齢者との交流やつながりがあると思いますか。(〇は1つ)

1 そう思う	2 そう思わない
--------	----------

問12 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食サービス	10 災害などの緊急時の支援
11 その他()	

問13 貴事業所は、高齢者に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食サービス	10 災害などの緊急時の支援
11 その他()	12 わからない・特になし

4

6 障がい福祉に関連して

問14 障がいのある人を取りまく岐阜市の課題は何だと思いますか。(〇は3つまで)

1 専門的な人材不足	2 費用や差別があること
3 就労などの雇用の場の不足	4 道路や施設などの利用環境
5 障がいのある人の孤立	6 その他()
7 わからない・特になし	

問15 障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けていくために、どのような手助けが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1 安否確認の声かけや見守り	2 障がいのある人への理解を深める
3 障がいに配慮した生活の場	4 気軽に交流できる場所の創出
5 交通手段の確保など外出支援	6 買い物の手伝い
7 災害などの緊急時の支援	8 その他()

問16 貴事業所のある地域では、障がいのある人がどのような地域活動に参加されていますか。(〇はいくつでも)

1 防災訓練	2 運動会
3 文化祭	4 清掃活動
5 サロン・集いの場	6 その他()
7 障がいのある人は参加していない	8 わからない

問16で「7 障がいのある人は参加していない」と回答された事業所にお伺いします。

問16-2 貴事業所は、その理由が何だと思いますか。ご自由にご記載ください。

--

問17 貴事業所は、障がいのある人に対する地域住民同士の「助け合い」として、何ができると思いますか。(〇はいくつでも)

1 安否確認の声かけや見守り	2 話し相手や相談相手
3 掃除・洗濯・調理など家事の支援	4 電球の交換などの軽作業
5 ごみ出し	6 掃除や庭の草取り
7 通院など外出の付き添い	8 気軽に参加できるサロンや集いの場
9 配食サービス	10 災害などの緊急時の支援
11 障がいのある人となない人の交流	12 その他()
13 わからない・特になし	

5

7 行政との協働について

問18 事業者と行政が協働で、特に優先的に解決すべき課題は何だと思えますか。(〇は3つまで)

- 1 独居高齢者や高齢夫婦世帯、老老介護等の高齢化の課題
- 2 人口減少による空き家の増加に伴う地域コミュニティの課題
- 3 地域住民同士の助け合い・支え合いの意識、行動による課題
- 4 災害時の要支援者・要介護者情報の共有と地域防災体制の課題
- 5 地域ぐるみでの子ども・子育て家庭への支援の課題
- 6 子どもの貧困や虐待等の要支援子育て家庭の課題
- 7 地域で集まれる場所や交流する機会の不足
- 8 地域福祉コーディネーターや福祉活動の担い手の育成
- 9 生活保護、路上生活者等の自立支援の課題
- 10 高齢者や障がい者の移動手段
- 11 外国人住民との多文化共生
- 12 その他 ()

問19 地域福祉活動を行うにあたって、行政と協働できることは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 地域福祉についての市民への啓発 | 2 活動を市民に知らせるための情報提供 |
| 3 事業費等の経済的支援 | 4 活動場所(拠点)の整備 |
| 5 活動の担い手となる人材育成・人材確保 | 6 地域・市民と交流できる場の提供 |
| 7 地域団体や関係機関等との連携 | 8 緊急時の連携支援 |
| 9 その他 () | 10 特になし |

問20 その他、地域福祉に関するご意見をご自由にご記入ください。

アンケートにご協力いただきありがとうございます。

8月9日(木)までに封筒の通信用封筒に入れて、ポストにご投函ください。

2. ワークショップに関する新聞記事

2018年(平成30年)10月12日(金)

岐阜新聞 17面



ワークショップで地域福祉について考える市民ら
＝岐阜市役所

理想の地域福祉考える

市民33人がワークショップ

岐阜市は10日夜、次った20〜80歳の市民
期市地域福祉推進計画から33人が、「地域福祉
策定のため、市民による理想的な姿」をア
る地域福祉に関するワ
ークショップを市役所
同計画は、誰もが安
で開いた。公衆で集ま
心して暮らせる地域つ
る。

ワークショップは
5、6人グループで
実施。20枚の写真の中
から各グループ4枚選
び、写真をつなぎ合わ
せて一つの物語をつく
っていく。「三世代家
族で毎日健康」「高齢
者になっても元気に地
域貢献」など写真にコ
メントを付けて、地域
福祉の理想となるスト
リーを讲了。

参加者は「50代の主婦
な世代と福祉について

市役所
岐阜市
ワークショップは全
次回から参加も可能
だった。2回目、3
回目より深められる
と期待している。な
ど
ワークショップは全
3回で、16、24日にも
ある。次回は「地域福
祉政策課、電話058
-2665)3891。
(川瀬慎一郎)

岐阜市地域福祉計画策定基礎調査

報告書

発行日 平成 31 年 1 月

発行 岐阜市 福祉部 福祉政策課

〒500-8701

岐阜市今沢町 18 番地

電話 058-265-4141 (代) F A X 058-267-6015